

桜井市

平成26年度国庫補助による 発掘調査報告書

大福遺跡第32次調査
安倍寺跡第22次調査

2016. 3. 31

桜井市教育委員会

桜井市

平成26年度国庫補助による 発掘調査報告書

2016. 3. 31

桜井市教育委員会

序

私たちの桜井市は奈良盆地の東南部に位置し、市域の約7割を占める山地より流れ出る粟原川、寺川、初瀬川、巻向川等の清流を集めた大和川がほぼ東西に横断し、この地に生きる多くの人々に限りない豊かさを与え続けています。

市内には大和川の北側に芝遺跡、纏向遺跡、箸墓古墳、南側には大福遺跡、吉備池廃寺、桜井茶臼山古墳、メスリ山古墳など全国的にも注目される貴重な文化遺産が多く分布しており、この地域が古代におけるわが国の中心地であったことが知られています。

桜井市ではこのような遺跡を保護し、啓発するための事業のひとつとして市内遺跡の調査・保存に力を入れており、本書には平成26年度に桜井市が国・県の補助を受けて実施した発掘調査のうち大福遺跡第32次調査と安倍寺跡第22次調査の成果をおさめております。本報告書によって貴重な歴史遺産に対する理解と愛着を深めていただき、調査した資料が広く活用されることとなれば当教育委員会としても望外の喜びであります。

最後になりましたが、現地調査にあたりまして協力していただいた地主及び地元協力者の方々、指導・助言を頂いた多くの関係諸機関の方々、また、酷暑、極寒のなか作業に従事して頂いた作業員の方々や学生諸君、遺物の整理・報告書の作成に協力して頂いた整理員の方々に深くお礼を申し上げ、序の言葉にかえさせていただきます。

平成28年3月31日

桜井市教育委員会

教育長 石田 泰敏

例 言

1. 本書は、平成26年度国庫補助事業として桜井市教育委員会が実施した市内遺跡の埋蔵文化財発掘調査の報告書である。本報告書は、大福遺跡第32次発掘調査と安倍寺跡第22次発掘調査の成果を掲載している。
2. 調査主体：桜井市教育委員会
教育長 石田泰敏、事務局長 田井中正行、事務局次長 北 光秀、
桜井市纏向学研究センター所長 寺澤 薫
文化財課長 渡辺芳久、主幹 文化財係長事務取扱 井前貴雄、調査研究係長 橋本輝彦、
主任 松宮昌樹、福辻淳、丹羽恵二、技師 森 暢郎
臨時職員 木場佳子、三沢朋未、飯塚健太、中田いずみ（～9月30日）、
生島雅美（10月1日～）、東 紘子（10月1日～11月30日）
3. 調査担当者：丹羽恵二、三沢朋未、飯塚健太
4. 調査補助員：堂浦千景、小島宏貴、加藤江莉（奈良大学）、神所尚暉（同）、深水恵理香（同）
5. 調査作業員：井上久幹、上田猛、北村勝弘、吉岡靖夫、吉田友倅、南幸弘、田村則佳、
森貞之、高見淳、甲谷郷美、北島弘、田中俊光、北島奈美子
6. 整理作業及び報告書作成：上記補助員及び嶋岡由美、吉川晴美、小松令子、太田久仁子
7. 現地調査及び遺物整理に関して以下の機関、団体、個人の方々からさまざまなご指導、ご教示を賜った。ここに記して感謝の意を表します。（敬称略、順不同）
大脇 潔、白井 勇、佐藤亜聖（元興寺文化財研究所）、村田裕介（同）
8. 本書の執筆は各調査担当者がおこない、文末に明記している。編集は三沢がおこなった。
9. 本書における方位・レベルはすべて世界測地系によるものを示し、レベルは海拔高を表す。
10. 本書記載の遺物実測図の断面は、土師質のもの、石器－白抜き、須恵質のもの－黒塗り、瓦質・瓦－網日とした。
11. 図版の遺物番号は、該当する各節の遺物番号に対応している。
12. 出土遺物をはじめとする調査記録一切は、桜井市教育委員会の管理のもと桜井市立埋蔵文化財センターで保管している。活用されたい。

目 次

第1章 平成26年度の国庫補助による発掘調査	1
第2章 発掘調査の成果	
第1節 大福遺跡第32次試掘調査報告	3
第2節 安倍寺跡第22次発掘調査報告	37
図版	
抄録	

挿 図 目 次

図1 桜井市の位置	1
図2 平成26年度国庫補助による調査位置図 (S=1/40,000)	2
図3 大福遺跡第32次調査位置図 (S=1/4,000)	3
図4 1 トレンチ平・断面図 (S=1/100)	5
図5 1 トレンチ出土遺物 (S=1/3)	5
図6 2 トレンチ平・断面図 (S=1/100)	5
図7 2 トレンチ出土遺物 (S=1/3)	6
図8 3 トレンチ平・断面図 (S=1/100)	6
図9 3 トレンチ出土遺物① (S=1/3)	7
図10 3 トレンチ出土遺物② (S=1/3)	8
図11 4 トレンチ平・断面図 (S=1/100)	8
図12 4 トレンチ出土遺物 (S=1/3)	9
図13 5 トレンチ平・断面図 (S=1/100)	9
図14 5 トレンチ出土遺物 (S=1/3)	10
図15 6 トレンチ平・断面図 (S=1/100)	11
図16 6 トレンチ出土遺物 (S=1/3)	12
図17 7 トレンチ平・断面図 (S=1/100)	13
図18 7 トレンチ出土遺物 (S=1/3)	13
図19 8 トレンチ平・断面図 (S=1/100)	14
図20 8 トレンチ出土遺物 (S=1/3・1/6・1/8)	15
図21 9 トレンチ平・断面図 (S=1/100)	15
図22 9 トレンチ出土遺物 (S=1/3)	16

図23	10トレンチ平・断面図 (S=1/100).....	16
図24	10トレンチ出土遺物 (S=1/3).....	17
図25	11トレンチ平・断面図 (S=1/100).....	17
図26	11トレンチ出土遺物 (S=1/3).....	18
図27	12トレンチ平・断面図 (S=1/100).....	18
図28	12トレンチ出土遺物 (S=1/3).....	19
図29	13トレンチ平・断面図 (S=1/100).....	19
図30	13トレンチ出土遺物 (S=1/3).....	20
図31	14トレンチ平・断面図 (S=1/100).....	20
図32	14トレンチ出土遺物 (S=1/3).....	21
図33	15トレンチ平・断面図 (S=1/100).....	21
図34	15トレンチ出土遺物① (S=1/3).....	22
図35	15トレンチ出土遺物② (S=1/3).....	23
図36	15トレンチ出土遺物③ (S=1/3).....	24
図37	16トレンチ平・断面図 (S=1/100).....	25
図38	16トレンチ出土遺物 (S=1/3).....	25
図39	17トレンチ平・断面図 (S=1/100).....	26
図40	18トレンチ平・断面図 (S=1/100).....	26
図41	各トレンチの層位関係 (東西).....	28
図42	各トレンチの層位関係 (南北).....	29
図43	調査地における遺構や遺物の傾向 (S=1/4,000).....	30
図44	調査地周辺における弥生時代中期～後期の様相.....	32
図45	安倍寺跡第22次調査位置図 (S=1/4,000).....	37
図46	調査区平面図 (S=1/60).....	38
図47	調査区断面図 (S=1/60).....	39
図48	遺構断面図① (S=1/60).....	41
図49	遺構断面図② (S=1/60).....	42
図50	石列平面図 (S=1/30).....	43
図51	調査区出土土器① (S=1/3).....	44
図52	調査区出土土器② (S=1/3).....	45
図53	調査区出土瓦① (S=1/5).....	46
図54	調査区出土瓦② (S=1/5).....	47
図55	調査区出土瓦③ (S=1/5).....	48

表 目 次

表1	平成26年度国庫補助による発掘調査一覧	1
表2	大福遺跡と坪井大福遺跡の変遷	32
表3	大福遺跡第32次調査 調査区一覧	34
表4	出土遺物観察表 (大福遺跡第32次調査)	34
表5	出土遺物観察表 (安倍寺跡第22次調査)	50

図 版 目 次

図版1	大福遺跡第32次調査 (1)	9トレンチ② (南より)
	1トレンチ① (西より)	図版7 大福遺跡第32次調査 (7)
	1トレンチ② (北より)	10トレンチ① (西より)
	2トレンチ① (西より)	10トレンチ② (南より)
図版2	大福遺跡第32次調査 (2)	11トレンチ① (西より)
	2トレンチ② (南より)	図版8 大福遺跡第32次調査 (8)
	3トレンチ① (西より)	11トレンチ② (南より)
	3トレンチ② (南より)	12トレンチ① (西より)
図版3	大福遺跡第32次調査 (3)	12トレンチ② (北より)
	4トレンチ① (西より)	図版9 大福遺跡第32次調査 (9)
	4トレンチ② (南より)	13トレンチ① (西より)
	5トレンチ① (西より)	13トレンチ② (南より)
図版4	大福遺跡第32次調査 (4)	14トレンチ① (西より)
	5トレンチ② (南より)	図版10 大福遺跡第32次調査 (10)
	6トレンチ① (北西より)	14トレンチ② (南より)
	6トレンチ② (南より)	15トレンチ① (西より)
図版5	大福遺跡第32次調査 (5)	15トレンチ② (南より)
	7トレンチ① (南西より)	図版11 大福遺跡第32次調査 (11)
	7トレンチ② (南より)	16トレンチ① (西より)
	8トレンチ① (西より)	16トレンチ② (北より)
図版6	大福遺跡第32次調査 (6)	17トレンチ① (西より)
	8トレンチ② (南より)	図版12 大福遺跡第32次調査 (12)
	9トレンチ① (西より)	17トレンチ② (南より)

- 18トレンチ① (西より) SP-215 (南より)
- 18トレンチ② (南より) SP-216 (南より)
- 図版13 大福遺跡第32次調査 (13)
出土遺物① SP-217 (南より)
SP-218 (南より)
- 図版14 大福遺跡第32次調査 (14)
出土遺物② SP-202 (南より)
- 図版15 大福遺跡第32次調査 (15)
出土遺物③
- 図版16 大福遺跡第32次調査 (16)
出土遺物④
- 図版17 大福遺跡第32次調査 (17)
出土遺物⑤
- 図版18 大福遺跡第32次調査 (18)
出土遺物⑥
- 図版19 大福遺跡第32次調査 (19)
出土遺物⑦
- 図版20 大福遺跡第32次調査 (20)
出土遺物⑧
- 図版21 安倍寺跡第22次調査 (1)
調査区全景 (西より)
東拡張区全景 (北より)
- 図版22 安倍寺跡第22次調査 (2)
南壁断面 (西より)
南壁断面 (東より)
拡張区 東壁断面 (南より)
- 図版23 安倍寺跡第22次調査 (3)
石列検出状況 (北より)
SP-103 上層 (南より)
SP-103 下層 (南より)
SP-204 (南より)
SP-204 柱跡 (東より)
- 図版24 安倍寺跡第22次調査 (4)
SP-213 (南より)
SP-214 (南より)
- 図版25 安倍寺跡第22次調査 (5)
SP-101 (北西より)
SP-104 (西より)
SP-206、203 (西より)
SP-205 (西より)
SP-219 (東より)
SP-220 (南より)
SP-227 (南より)
SP-229 (南より)
SP-230 (南より)
SP-234 (東より)
SP-236 (西より)
SP-237 (南より)
SD-106断面 (北より)
SD-110、112断面 (北より)
- 図版26 安倍寺跡第22次調査 (6)
調査区出土遺物
- 図版27 安倍寺跡第22次調査 (7)
下層遺構出土遺物
- 図版28 安倍寺跡第22次調査 (8)
調査区出土瓦①
- 図版29 安倍寺跡第22次調査 (9)
調査区出土瓦②

第1章 平成26年度の国庫による発掘調査

1. 桜井市の位置と環境

桜井市は、奈良盆地の東南部に位置する人口およそ6万人、面積98.93km²の都市である。市域の北西部は奈良盆地東南部にあたる平野部が広がっており、北東部から東部・南部にかけては大和高原や龍門山地などの山地で構成されている。平野部は、大和川の本流である初瀬川とその支流である寺川をはじめとした河川の堆積からなり、古くから農耕地として利用されてきた。付近は、奈良盆地と宇陀・吉野地域との結節点にあたっており、市内には複数の古道が通っているなど、古くから交通の要衝であったと考えられ、市域には多くの遺跡が分布している。

桜井市内では、いくつかの遺跡から旧石器時代の遺物が出土しており、縄文時代については遺構を伴う遺跡の存在が知られていることから、古くから生活の痕跡を窺い知ることができる。市内で人の活動が活発になったのは弥生時代以降であり、絵画土器が出土した芝遺跡や袈裟襷文銅鐸が出土した大福遺跡などが平野部に形成されている。古墳時代前期には纏向遺跡が出現し、出現期古墳である箸墓古墳を含む纏向古墳群が登場する。その他にも、桜井茶臼山古墳やメスリ山古墳といった大型前方後円墳が築造されており、古墳時代後期から飛鳥時代にかけては赤坂天王山古墳や文殊院西古墳といった古墳が多く築造されている。山田寺跡や安倍寺跡、百濟大寺と推定されている吉備池廃寺など、大王家や古代氏族と密接な関係をもつ古代寺院がいくつも存在している。このように桜井市には、古代国家の形成期に重要な役割を果たしたと考えられる遺跡が多数みられる。

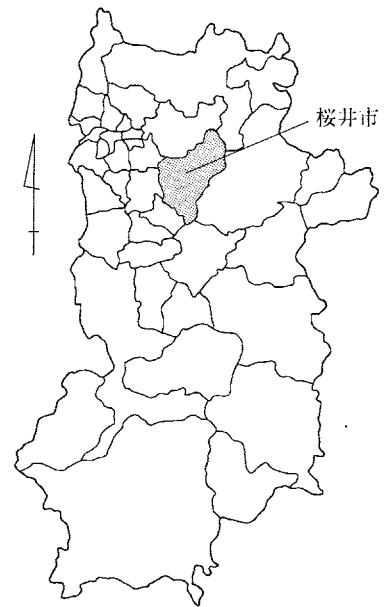


図1 桜井市の位置

2. 平成26年度の発掘調査

平成26年度に実施した国庫補助による発掘調査は4件である(表1)。このうち、大福遺跡第32次調査は大型店舗建設に伴う試掘調査であり、安倍寺跡第22次調査は個人住宅建設に伴う調査であった。これ以外の2件の調査は範囲確認調査であった。本書では、大福遺跡第32次調査と安倍寺跡第21次調査の成果について報告する。

表1 平成26年度国庫補助による発掘調査一覧

地図No	調査名称	所在地	期間	面積	主な遺構・遺物	担当者
1	縦向遺跡第182次	大字辻64番地1ほか	8月1日～9月16日	165㎡	土坑、土器	森
2	大福遺跡第32次	大字大福地内	9月11日～9月29日	162㎡	弥生土器	丹羽・飯塚
3	安倍寺跡第22次	安倍木材団地1丁目5番地7	9月18日～10月17日	72㎡	柱穴群、溝、瓦	三沢
4	縦向遺跡第183次	大字辻56番地1	10月27日～2月6日	214㎡	溝、土坑、建物跡	森



図2 平成26年度国庫補助による調査位置図 (S=1/40,000)

第2章 発掘調査の成果

第1節 大福遺跡第32次試掘調査報告書

1. はじめに

本調査は、桜井市大字大福地内において計画された大型店舗建設に伴う試掘調査である。大型店舗建設による造成工事および建物の基礎工事などが埋蔵文化財に与える影響を調べるのが主な目的であった。約7万㎡に及ぶ対象地内で、遺構面の深度やその状況を効率よく把握するために3m×3mの方形の調査区を18ヶ所設定した。調査面積は計162㎡で、試掘期間は平成26年9月11日～9月29日である。

本調査地は坪井・大福遺跡の北よりに位置する。坪井・大福遺跡は桜井市大字大福及び樺原市常磐町に広がる弥生時代を中心とした集落遺跡である。桜井市では、県遺跡地図による「坪井・大福遺跡」とすぐ東に隣接する「大福遺跡」と併せた範囲を大福遺跡の調査として取り扱っており、本調査も大福遺跡の調査として報告する。この地域の過去の調査をみると、第3次調査では、方形周溝墓（弥生時代後期末～古墳時代初頭）の周溝底面より検出された埋納坑から大福銅鐸（突線紐1式）が出土し、銅鐸の埋納の様子や時期を限定できる貴重な成果をあげている。また、第22次、第30次調査では弥生時代中期の集落を取り囲む環濠と思われる大規模な溝を検出している。第26・28次調査では弥生時代後期の溝などを検出し、溝の埋土から銅鐸片や送風管などの青銅器製造関連遺物、木甲や楯などの木製品など特筆すべき遺物が出土している。

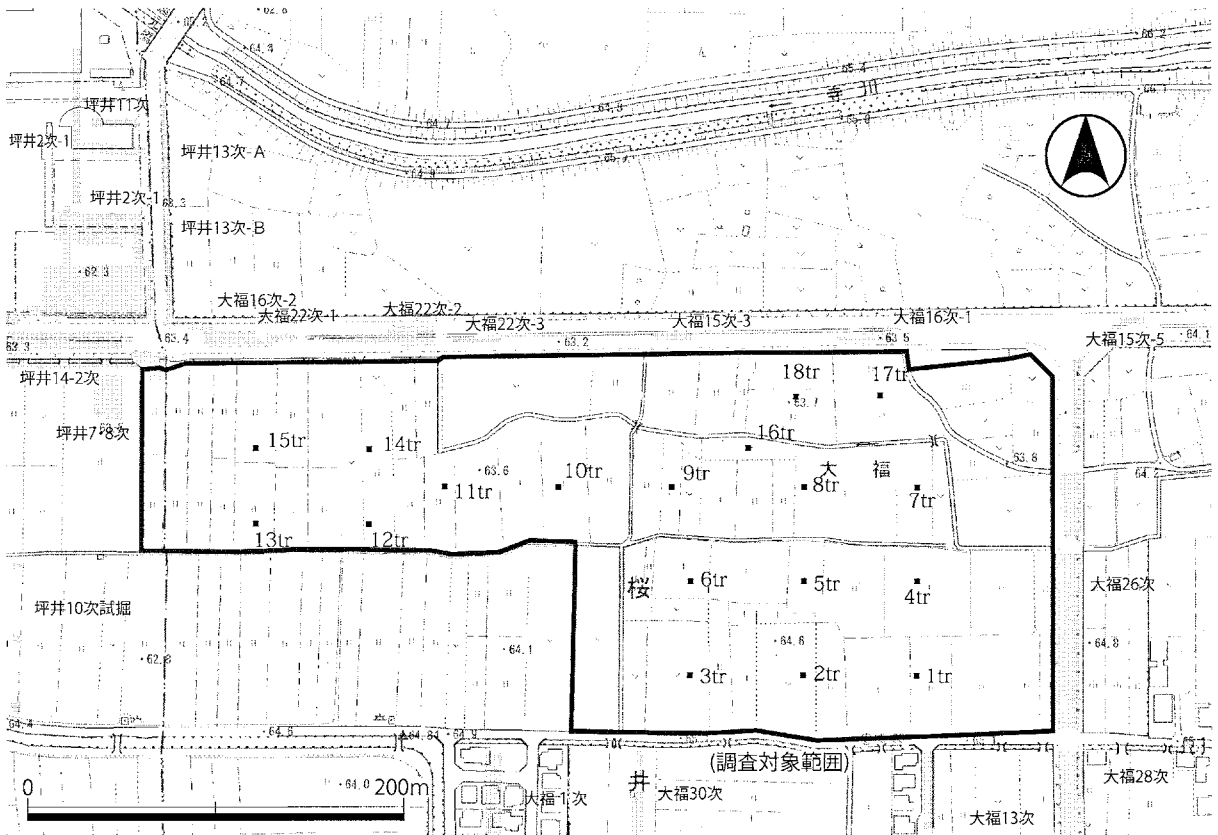


図3 大福遺跡第32次調査位置図 (S=1/4,000)

これらの成果を概括すると、県遺跡地図による「坪井・大福遺跡」の範囲には弥生時代中期の環濠集落（以下、坪井・大福の環濠集落）が、「大福遺跡」には弥生時代後期の集落が存在していたと考えられ、両者の集落は時期的にも地域的にも連続してつながることから密接な関係があると考えられる。

2. 調査の方法

今回の調査は前述したように遺構面の深さ及びその状況を確認することが大きな目的であった。調査の方法は、表土及び現代耕作土を重機により除去し、遺構面の深度を確認したあと、各調査区の一部に断割りを設け、地山面、包含層、遺物、遺構などの有無を確認した。遺物、遺構の検出を主眼においた調査ではないので、必要以上の遺構掘削はおこなっていない。

また、限られた範囲の調査区であったため、各層位の意味を正確に把握できなかった。例えば、土器を含む層が遺構の埋土であるのか、もしくはある時期の基盤層（遺構面）となるのか、などを正確に認識することは不可能であった。以下、調査の所見を記していくが、今後、広範囲な調査が実施されるとき、各層の意味や遺構面の認識等にある程度変更が生じる可能性があることは断っておく。

3. 各調査区の成果

(1) 1トレンチ（図4・5）

【基本層序】 基本層序は、上から現代耕作土（1～2層 層厚約40cm）、旧耕作土に関連する土層（3～6層 層厚約15cm）、灰黄褐色シルト層（19層 層厚約45cm）、黒褐色シルト層（粗粒砂混じる）（20層 厚さ約10cm）、明オリーブ灰色粗～中粒砂層（21層）となる。19層までは確実に遺物を含む層である。20層からは遺物を確認できなかったが、19層と近似した層で土器が含まれていてもおかしくはない。21層は周辺の状態からも遺物を含まない地山層になる可能性が高い。19・20・21層は面的に広がることから、それぞれの時代の基盤層となる可能性がある。19層上面から掘削されている遺構埋土を大きく分けると、にぶい黄橙色シルト層を基本とするもの（4～9層）、黒褐色シルト層を基本とするもの（12～19層）となる。出土遺物を含めて考えると、にぶい黄橙色層は、素掘溝やピット状の遺構で旧耕作土に土質が近似しているので中世の時期が想定される。13～19層は、遺構の性格は定かではないが、出土遺物から弥生時代後期の遺構と考えられる。20・21層上面から掘削されたと思われる遺構は1トレンチ内では確認できなかった。

【遺物】 1トレンチ内からは700片ほどの土器が出土している。そのうち図示できたものは東側に入れた断割りからの出土遺物である。どの層位から出土したものかははっきり特定できないが、15～18層の中の黒褐色シルト層を埋土とした遺構から出土したものが多くと考えられ、弥生時代後期を中心としたものである。その他1トレンチでは、中世土器や須恵器、庄内式期もしくは布留式期と思われる破片が出土している。

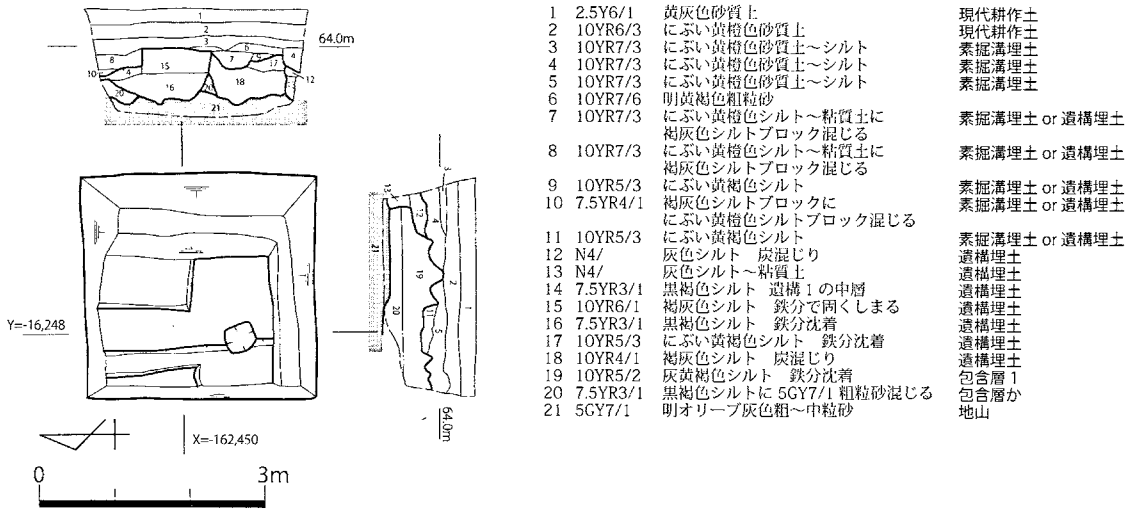


図4 1トレンチ平・断面図 (S=1/100)

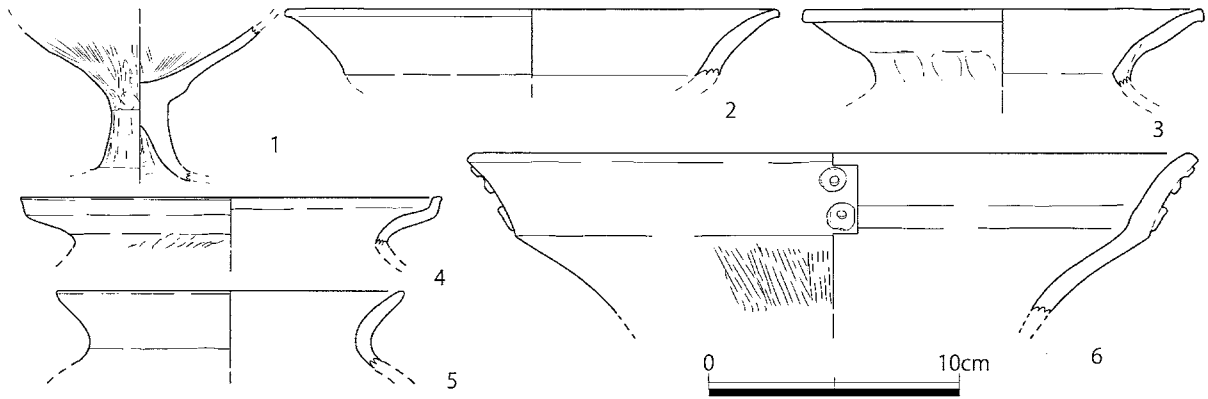


図5 1トレンチ出土遺物 (S=1/3)

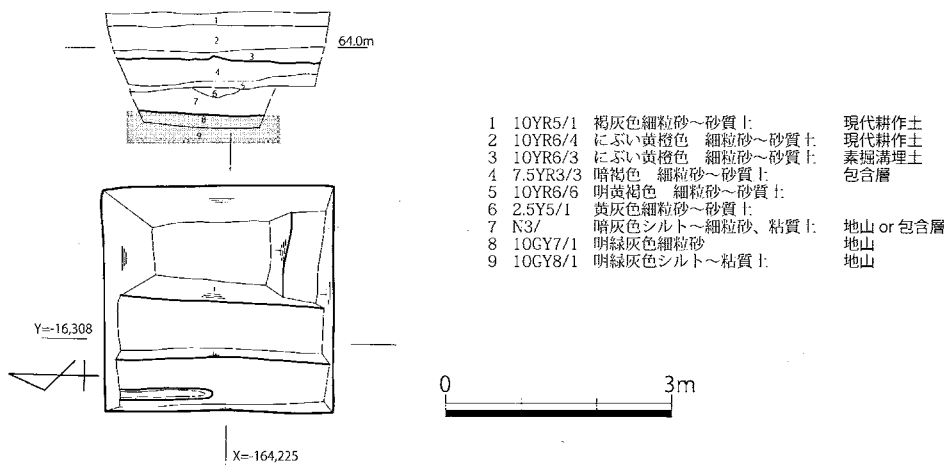


図6 2トレンチ平・断面図 (S=1/100)

(2) 2トレンチ (図6・7)

【基本層序】 基本層序は上から現代耕作土 (1～2層 層厚約45cm)、暗褐色細粒砂層 (4層 層厚約40cm)、明黄褐色細粒砂層 (5層 層厚約10cm)、暗灰色シルト～細粒砂層 (7層 層厚約40cm)、明緑灰色細粒砂～シルト層 (8・9層) となる。層厚が10cm程度しかない5層を除く、4・7・8層は面的に水平に広がるので、各層の上面が遺構面の候補となる。このうち4層までは確実に土器を含む層で包含層と確認できるが、それ以下は土器や遺構等が確認できないため評価が難しい。周辺の状況から、8層以下は地山層である可能性が高い。7層は比較的均質な層で地山層の可能性もあるが、本調査区内では判断しがたい。

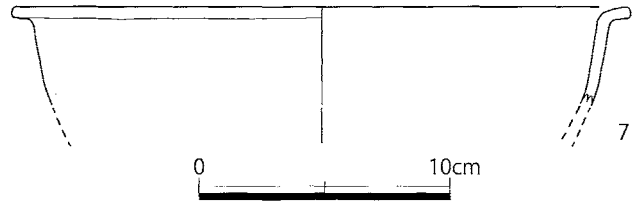


図7 2トレンチ出土遺物 (S=1/3)

【遺物】 2トレンチから出土したものは非常に少なく、破片数にしても10点に満たない。図示できたのは4層から出土した鉢の口縁部 (7) 1点である。小片のため、角度や直径は不確かであるが弥生時代中期ごろのものだと思われる。4層からは、その他に弥生時代の土器と思われる小片が2点ほど出土しているが詳細な時期は不明である。破片数が少ないため (7) がこの層の時期を表しているかは判断できない。その他、覆土からは須恵器等が出土している。

【遺物】 2トレンチから出土したものは非常に少なく、破片数にしても10点に満たない。図示できたのは4層から出土した鉢の口縁部 (7) 1点である。小片のため、角度や直径は不確かであるが弥生時代中期ごろのものだと思われる。4層からは、その他に弥生時代の土器と思われる小片が2点ほど出土しているが詳細な時期は不明である。破片数が少ないため (7) がこの層の時期を表しているかは判断できない。その他、覆土からは須恵器等が出土している。

(3) 3トレンチ (図8～10)

【基本層序】 基本層序は上から現代耕作土 (1・2層 層厚約40cm)、それ以下は遺構埋土と思われる土層が調査区壁面にかかっており、基本層序を抽出するのは難しい。遺構が掘削される面などを考慮に入れて考えると、現代耕作土層以下の基本層序は褐灰色シルト層 (にぶい黄褐色シルトブロック土混じる) (5層 層厚約30cm)、褐灰色シルト層 (9層 層厚約20cm)、黄灰色シルト～細粒砂層 (13層 層厚約30cm)、にぶい黄色細～中粒砂層 (14層) の順になる。このうち、5・9層は包含層であることは確認でき、14層は周囲の土質や状況から地山層と認識できる。13層は14層と同じような土質で

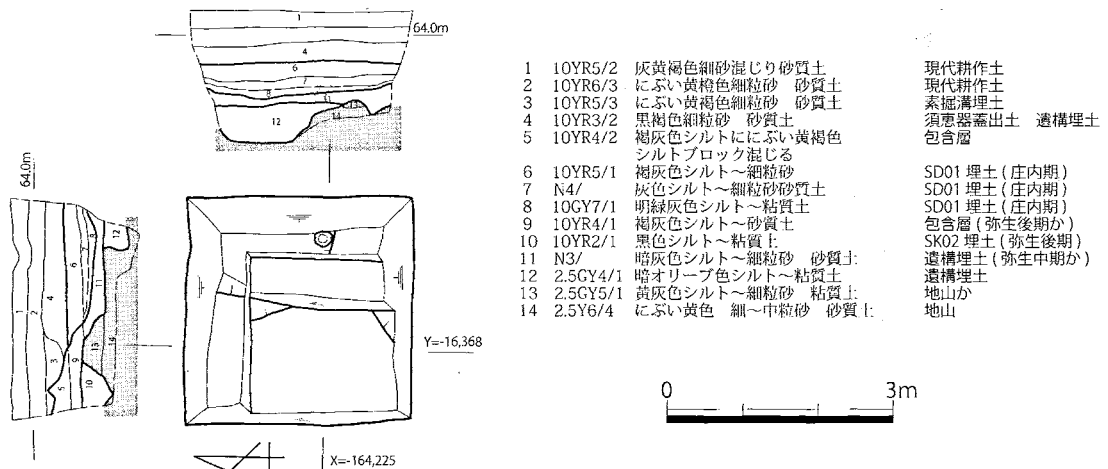


図8 3トレンチ平・断面図 (S=1/100)

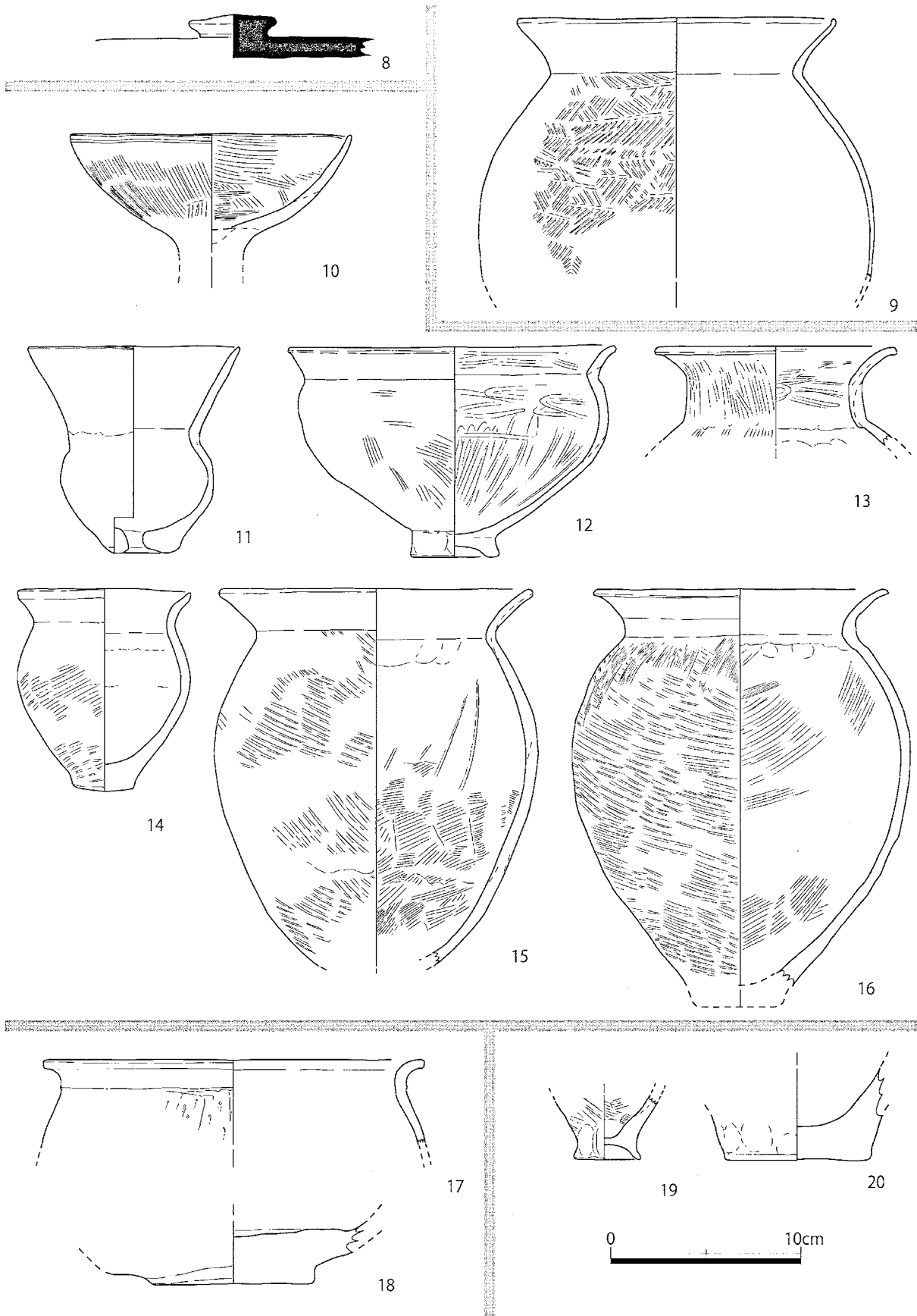


図9 3トレンチ出土遺物① (S=1/3)

あるが、色調などが上位の9層などに影響をうけているような層で地山層と思われるが、調査区の範囲では確定できなかった。

遺構埋土と認識できるのは、5層上面では中世素掘溝（3層）、須恵器坏蓋が出土した藤原京期と思われる溝状遺構（4層）で、9層上面では庄内式甕が出土した溝状の遺構（SD01 6～8層）、13層上面では遺構の形状は不明だが、10層を埋土とする遺構（SK02）と11・12層を埋土とする遺構が認識できる。このうち、6～8層を埋土とする溝状遺構は、その西肩がトレンチの南半で、南西の方向に直角に曲がることのできるため方形周溝墓の可能性が考えられる。

【出土遺物】 3トレンチからは200点程の土器片が出土している。遺構の埋土から出土したと想定されるものは破片も大きい。（8）は須恵器の坏蓋で4層から出土している。（9）は6～8層を埋土とする溝状遺構から出土しており矢羽根状タタキがあり、内面は摩滅しているがケズリを施しているものと思われ庄内式期の甕と思われる。（10～16）はトレンチ北西隅で検出

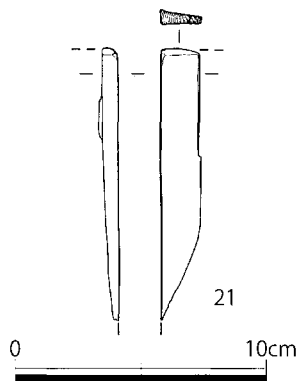


図10 3トレンチ出土遺物②(S=1/3)

された10層を埋土とする遺構から出土している。弥生時代後期後半のものと思われる。（17・18）は東側の断割り、（19・20）は北側の断割りから出土している。その中でも（17）は11層もしくは12層から出土しており、弥生時代中期の甕の口縁部と思われる。（21）は加工木の破片で北側の側溝から出土しているが、明確な層位は確認できなかった。こういった状況から、6層上面では、中世～藤原京期の遺構が、9層上面では庄内式期、13層上面では弥生時代中期と後期の遺構があると思われる。図示できなかった他の破片も中世、藤原京期、布留～庄内式期、弥生時代後期、弥生時代中期に属するものであり、確認できる遺構の時期を反映している。

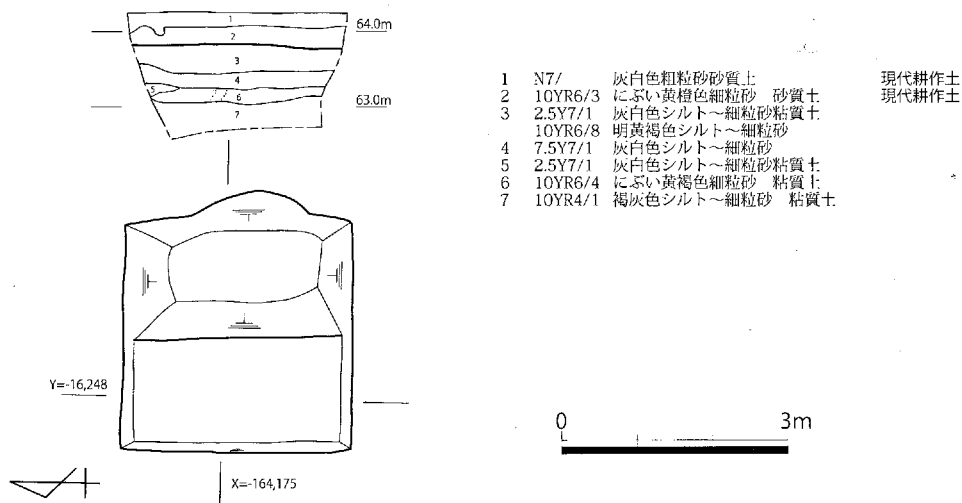


図11 4トレンチ平・断面図 (S=1/100)

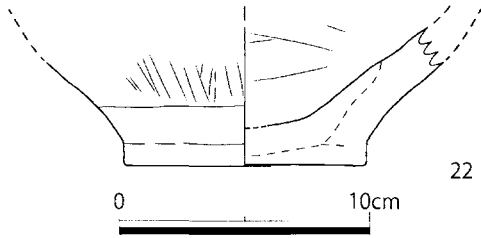


図12 4トレンチ出土遺物 (S=1/3)

(4) 4トレンチ (図11・12)

【基本層序】 基本層序は、現代耕作土 (1・2層 層厚約40cm)、灰白～明黄褐色シルト～細粒砂層 (3層 層厚約35cm)、灰白色シルト～細粒砂層 (4層 層厚約20cm)、にぶい黄褐色細粒砂層 (6層 層厚約20cm)、褐灰色シルト～細粒砂層 (7層) の順になる。

3・4・6層からは土器が出土したのを確認している。7層では確認できなかったが、周辺で見られるような明確な地山層は確認できず、調査区全体は湿地状堆積の印象を受けた。1～3層からは近世瓦、中世土器や須恵器、土師器、弥生土器が出土しているが、4・6層では古式土師器片や弥生土器しか出土していない。出土量が少ないので確定はできないが、4層以下は布留式期以前の堆積土と思われる。

【出土遺物】 4トレンチからは破片数にして50点程出土したが、図示できたのは壺の底部と思われる破片1点 (22) である。他に、布留式期と思われる破片や、弥生時代後期の破片が出土している。

(5) 5トレンチ (図13・14)

【基本層序】 基本層序は上から、現代耕作土 (1～3層 層厚約40cm)、明黄褐色シルト層 (4層 層厚約25cm)、灰黄色シルト層 (7・8層 層厚約30cm)、暗灰黄シルト層 (9層 層厚約25cm)、褐灰色シルト層 (10層 層厚約15cm)、浅黄色中～粗粒砂層 (11層) となる。このうち、4層上面及び7・8層上面では旧耕作に関連する素掘溝が確認できるので、4層は中世の遺物を包含する旧耕作土層の可能性が高い。また、7・8層及び9層は、弥生時代後期の土器を含む包含層となる。10層以下は遺物を確認することができなかった。10層は、比較的均質で、堅く締まることから地山層の可能性があり、11層は周辺の状況と比較すると地山層の可能性が高い。

【出土遺物】 5トレンチからは破片数にして600点以上の土器片が出土している。そのほとんどが、東側の断割から出土している。図示したのは12点で弥生時代後期後半のものである。層位ごとにみてもさほど型式差は認められない。破片が比較的大きく遺構から出土した可能性も考えられる。

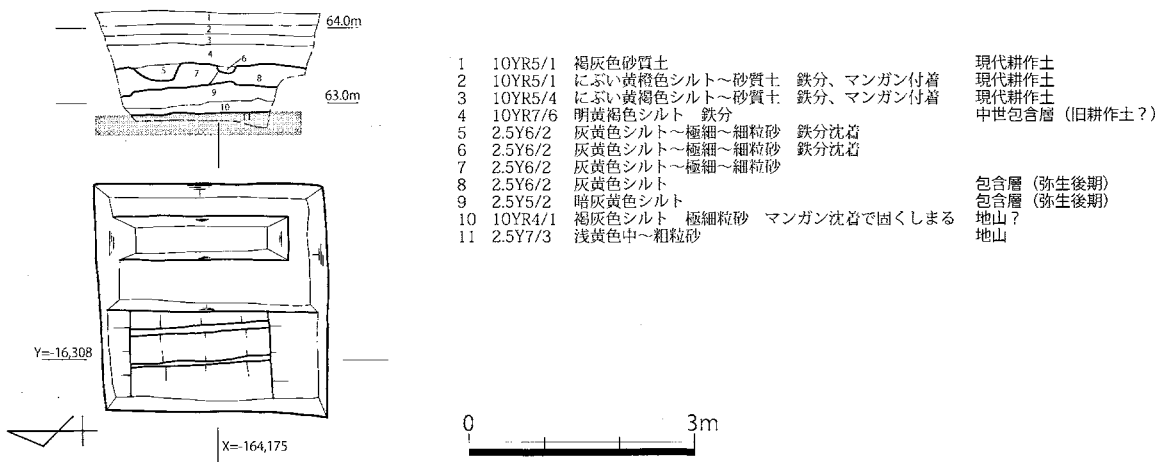


図13 5トレンチ平・断面図 (S=1/100)

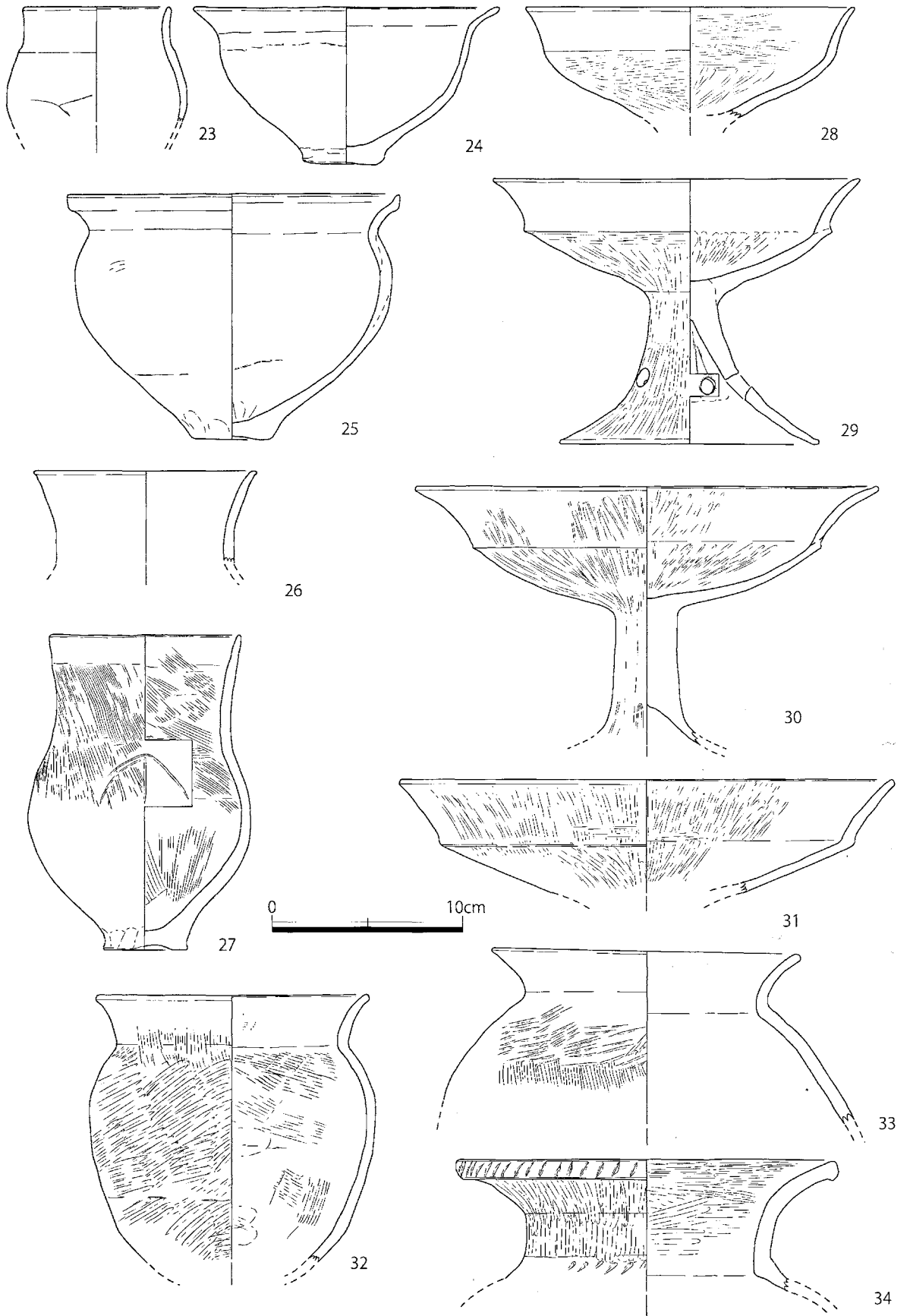


図14 5トレンチ出土遺物 (S=1/3)

(6) 6トレンチ (図15・16)

【基本層序】 基本層序は上から、現代耕作土 (1～2層 層厚約25cm)、灰褐色シルト層 (3層 層厚15cm)、にぶい橙色シルト層 (4層 層厚25cm)、褐灰色シルト層 (5層 層厚30cm)、暗灰黄色シルト層 (9層 層厚25cm)、暗灰黄色シルト層 (10層) の順になる。5層上面には素掘溝等が検出されることから3・4層は旧耕作に伴う層だと認識できる。5層は弥生時代後期以降の包含層、9層は遺物が確認できなかったがブロック混じりのシルト層などで、周辺で見られる地山層とは少し異なる。包含層か地山層か判断できない。10層は周辺との比較から地山層になる可能性が高い。9層上面では、6～8層を埋土とする幅1m以上、深さ1m以上の溝状の遺構が調査区東壁面で確認できる。7層下部から底部の一部を欠いた弥生時代後期後半の甕 (40) が出土しているので弥生時代後期後半の溝である可能性が高い。

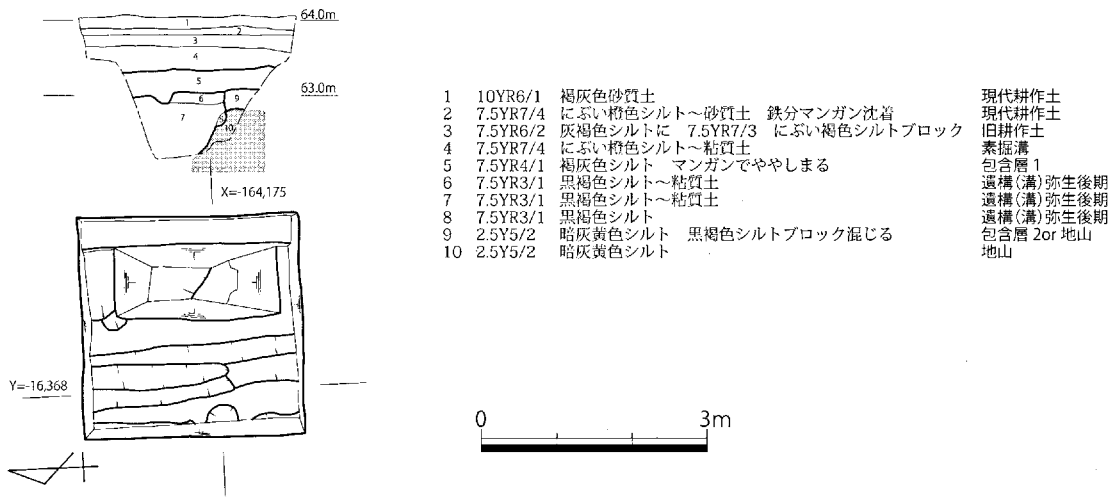


図15 6トレンチ平・断面図 (S=1/100)

【出土遺物】 6トレンチ内からは400点近い土器片が出土している。そのうち、東側の断割りで出土した10点を図示している。(35)は須恵器の甕で、4層から出土している。(36～44)は6～8層を埋土とする溝状遺構から出土しているもので、弥生時代後期後半のものと思われる。(37)は粘土紐を指圧やナデにより形成している甕の胴部で、図上の上端部は、口縁部となるのか、剥離しているのか判断がつかない。また(38)の脚部は(37)と胎土が似ており同一個体になる可能性があるが、接合点はない。甕(40)の上半部はほぼ完存しているが、底部は欠いている。出土状況からも打ち欠いてから投棄されたものと考えられる。壺(41)と(42)も接合箇所はないが、胎土が近似しているため同一個体の可能性がある。溝状遺構から出土したものは弥生時代後期後半が主なものを占め、遺構の埋没時期を示すものと思われる。その他、覆土からは中世土器、須恵器、弥生時代中期に属する遺物も出土しているが、いずれも小片で量も少ない。

(7) 7トレンチ (図17・18)

【基本層序】 基本層序は上から、現代耕作土 (1・2層 層厚約30cm)、にぶい褐色シルト層 (3層

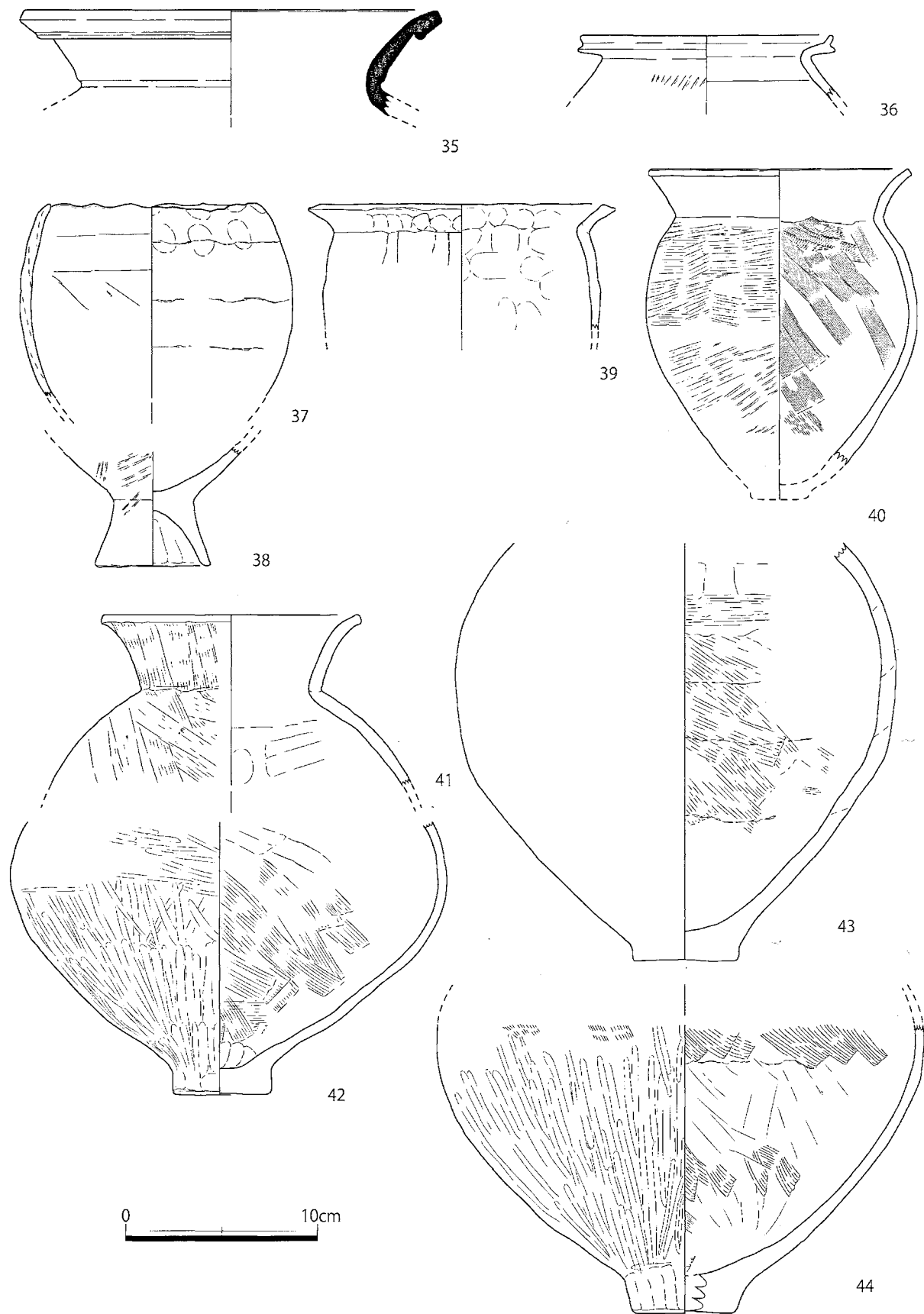


図16 6トレンチ出土遺物 (S=1/3)

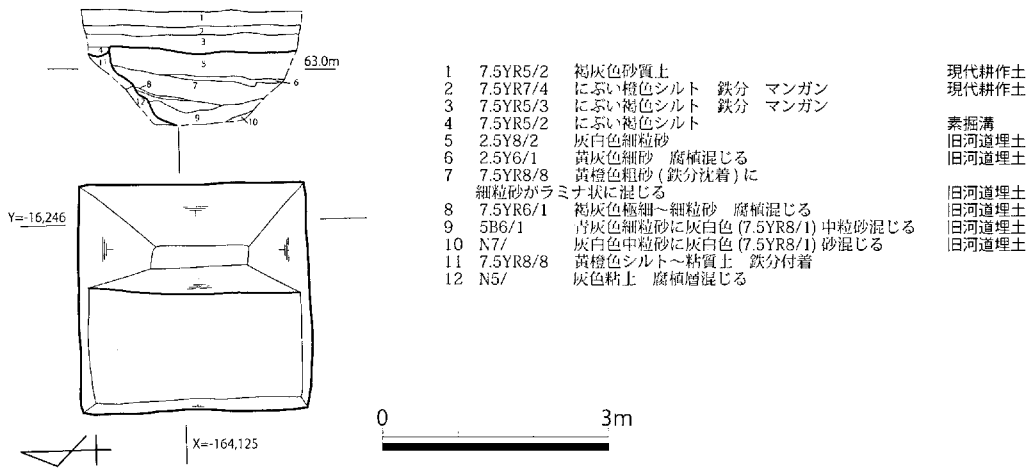


図17 7トレンチ平・断面図 (S=1/100)

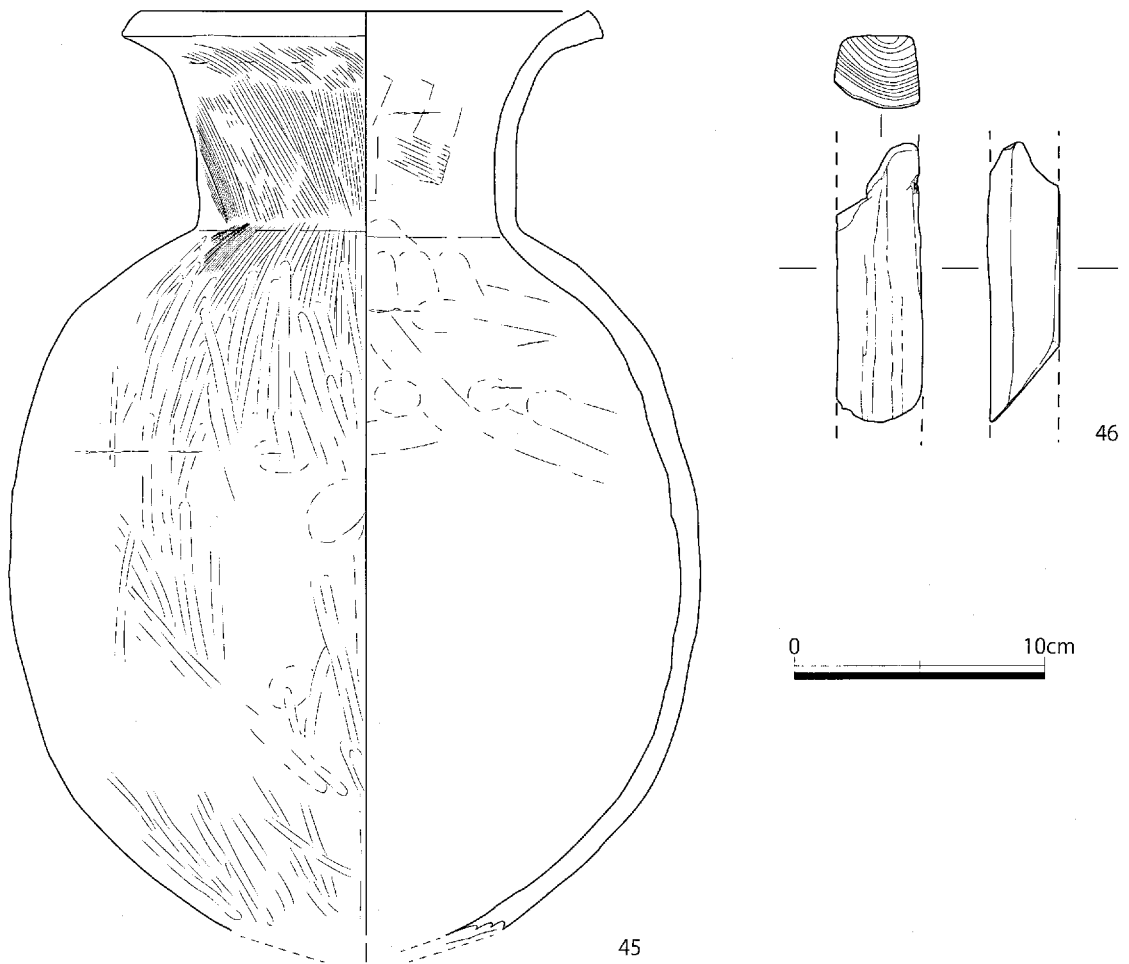


図18 7トレンチ出土遺物 (S=1/3)

層厚約20cm)となる。それ以下は調査区全体が溝もしくは河道状の遺構の埋土によって占められている。3層以下を大きく分層すると5～10層と11・12層の二つとなる。11層は土器を含んでいることが確認され、また12層は腐植を含む層であるので河道もしくは湿地状堆積であると考えられる。この二つの関係が一つの遺構の上・下層なのか、遺構埋土と基盤層の関係なのかは調査区内では判断できない。また、調査区北壁で5層上面に溜まっている土層から壺(45)の破片がまとまって出土しており、5～10層を埋土とする遺構の最終埋没時期を示す遺物の一つとなる。

【出土遺物】 7トレンチからは180点近くの土器片が出土しているが、そのほとんどは壺(35)のものである。壺(35)は全体の6割程が残存しているもので、北壁面にささる状態で出土した状況を考えてほぼ完形に近い状態であったと思われる。それ以外では7層付近から2点、11層から1点ずつ土師質の土器片が出土しているが、摩耗した小片で詳細な時期は不明である。

(8) 8トレンチ (図19・20)

【基本層序】 基本層序は上から、現代耕作土(1～2層 層厚約25cm)、旧耕作土層と思われる明黄褐色シルト層(3層 層厚約40cm)、それ以下はにぶい褐色シルト層(4層 層厚約20cm)、橙色粗粒砂層(5層 層厚約10cm)、灰色粘土層(6層 層厚約20cm)、暗黄灰色腐植混じりシルト～粘土層(7層)が水平に堆積していく。4層以下は湿地状堆積だと思われ、確認した最下層である7層においても瓦器が出土し、中世以降の堆積層であることが確認できた。

【出土遺物】 約50点の土器片が出土しているが、そのほとんどが現代から旧耕作土から出土しているもので、4層以下から出土したものは10点程である。出土したものは瓦器や土師器皿、羽釜などの中世の遺物が主なものである。そのうち、土器2点と、加工した木片2点を図示している。瓦器壺(47)及び羽釜(48)は、重機掘削、(49・50)は東側の断割りの際に出土したもので、(50)は7層出土のものと同確認している。(47)は瓦器壺の最終形態の形状をもつもので14世紀後半頃と思われる。(49)は厚さ0.8cmほどの板状の加工木の一部である。(50)は厚さ0.2mmと非常に薄い木片で、直径2mmの孔

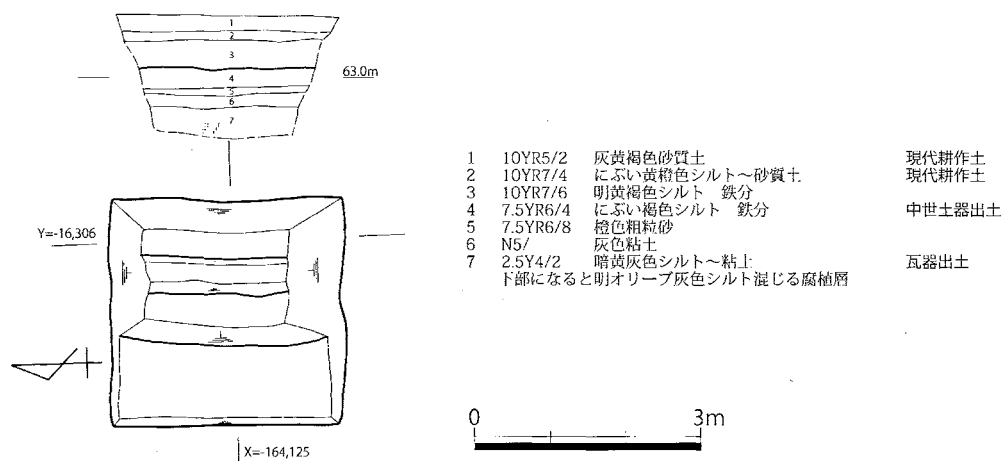


図19 8トレンチ平・断面図 (S=1/100)

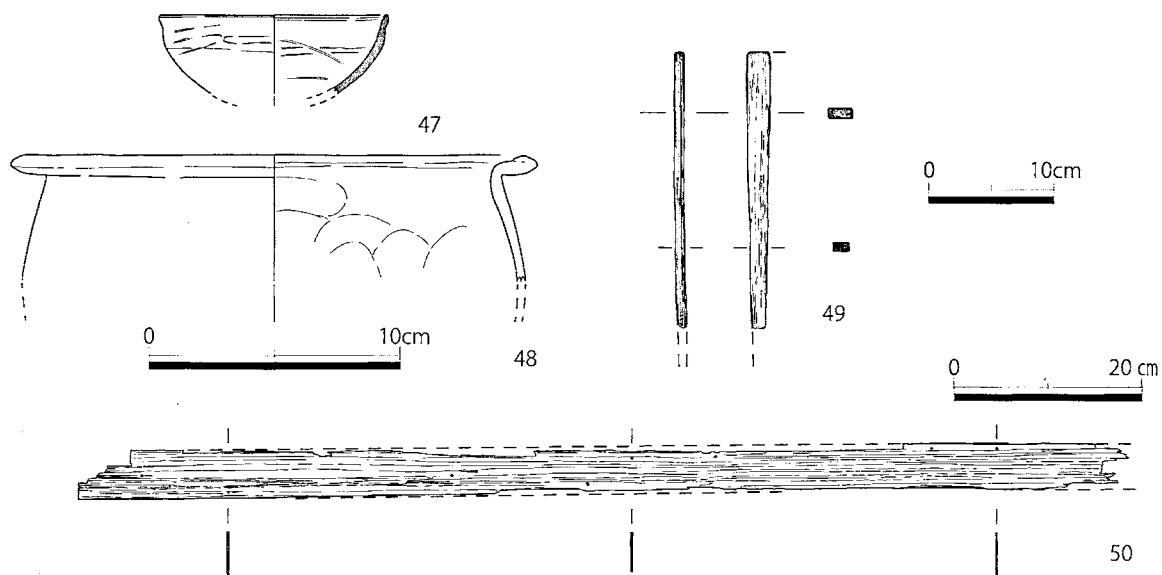


図20 8トレンチ出土遺物 (S=1/3・1/6・1/8)

が8つ確認できる。孔は2ずつあけられているように見え、図の左半で高さを変えて2×2ヶ所、右半ではほぼ水平に2×2ヶ所ある。ただ、互いの孔の間隔は異なる。(49)や(50)は何らかの部材の一部であると思われるが用途はわからない。

(9) 9トレンチ (図21・22)

【基本層序】 基本層序は上から、現代耕作土(1・2層 層厚約70cm)、それ以下はシルト層や粘土層が複雑に堆積しており基本層序はつかみにくい。人為的な埋土には見えず、湿地状や流路状の自然堆積だと考えられる。3～6層では中世土器が、7～9層では弥生時代後期の遺物を含んでいた。また現地表から-1.9mのところでもリーブ灰色のしまった粘土層(11層)がみられ、この層は周辺の成巣から地山層であると思われる。

【出土遺物】 90点ほどの土器片が出土している。前述したとおり3～6層では中世遺物が、7～9層

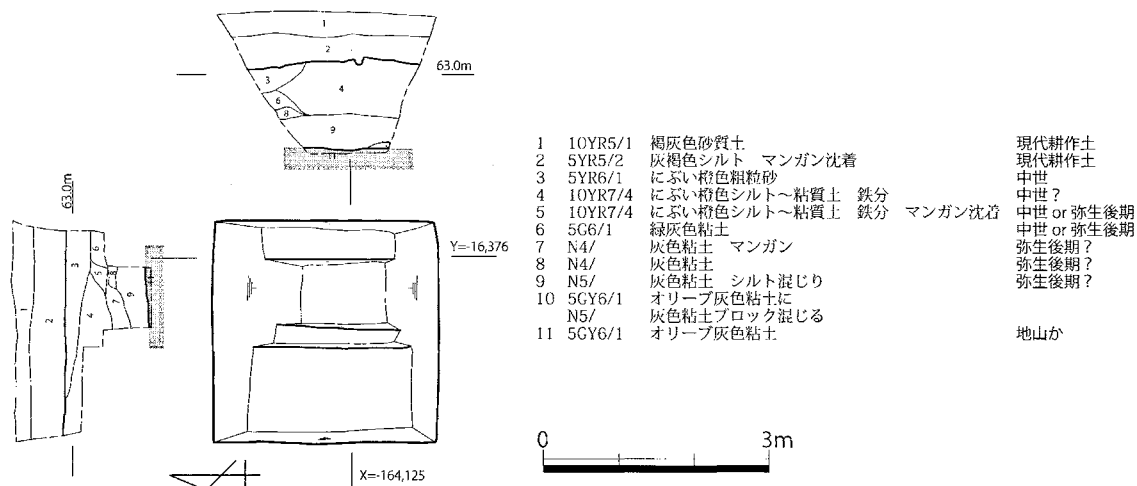


図21 9トレンチ平・断面図 (S=1/100)

では、中世遺物は含まず、弥生時代後期もしくは中期と思われる土器片が出土している。(51~54)は重機掘削中に出土したものであるが、その状況から3~6層から出土したものの可能性がある。(54)の瓦器塊の特徴から14世紀頃のものと思われる。(55)は東側に設定した断割りから出土しており、7~9層のいずれかの層から出土したものと思われる。平行した櫛描文が3条以上ある壺の胴部の破片で弥生時代中期のものと思われる。

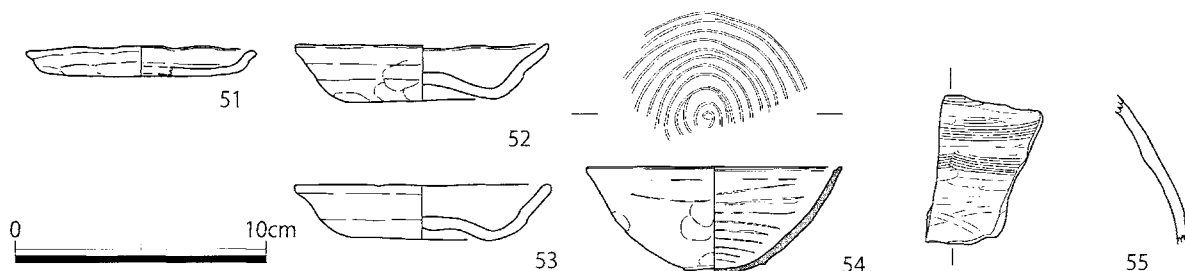


図22 9トレンチ出土遺物 (S=1/3)

(10) 10トレンチ (図23・24)

【基本層序】 基本層序は上から、現代耕作土 (1~2層 層厚約30cm)、旧耕作に関連すると思われる灰褐色細粒砂層 (3層 層厚約10cm) とにぶい橙色シルト層 (4層 層厚約20cm)、それ以下はにぶい黄橙色極細~細粒砂層 (5層 層厚約20cm)、浅黄橙色極細~細粒砂層 (6層 層厚約35cm)、緑灰色極細~細粒砂層 (7層 層厚約15cm)、褐灰色腐植混じりシルト層 (8層 層厚約20cm)、緑灰色粘土層 (9層) となる。5~6層は色調が段階的には変化するが土質は類似しておりはっきり分層することはできない。これらの層と腐植土が混じる8層を含めて、人為的な埋土とは見えず、湿地状の自然堆積層と考えられる。8層からは弥生時代中~後期と思われる小片が出土している。9層は周辺状況からは地山層であると推定できる。

【出土遺物】 調査区内からは100点ほど土器片を確認しているが、重機掘削中に出土した現代~旧耕作土のものをのぞくと20点ほどしかない。5~6層では土器片を確認できておらず、8層から出土し

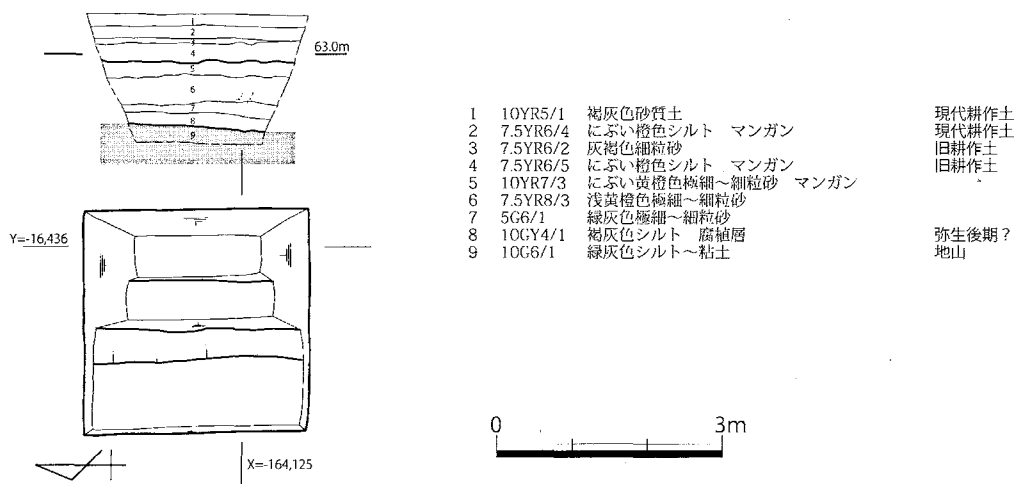


図23 10トレンチ平・断面図 (S=1/100)

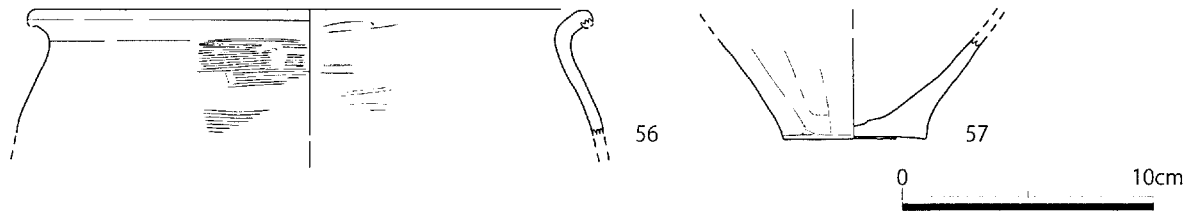


図24 10トレンチ出土遺物(S=1/3)

たものが主なものになる。図示した(56・57)は8層から出土したもので、いずれも弥生時代中期の甕の破片と思われる。図示はしていないが、8層から明らかに弥生時代後期のものも含まれ、10トレンチで確認された湿地状堆積は弥生時代後期以降の堆積となる。

(11) 11トレンチ (図25・26)

【基本層序】 基本層序は上から、現代耕作土(1～2層 層厚約40cm)、旧耕作に関連する層(3層 層厚約20cm)、灰白色シルト層(4層 層厚約25cm)、黒褐色シルト～粘質土層(6層 層厚約35cm)、オリーブ灰色粘土層(9層)の順となる。9層は周辺状況から地山層の可能性が高く、その直上の7・8層は溝状遺構の埋土と考えられる。4層は弥生時代中期及び後期、7・8層は弥生時代中期の破片を含む。6層は確実に出土したと思われる遺物を把握できなかったため、時期は決定しがたい。6層は包含層もしくは溝状遺構の上層埋土の可能性はある。

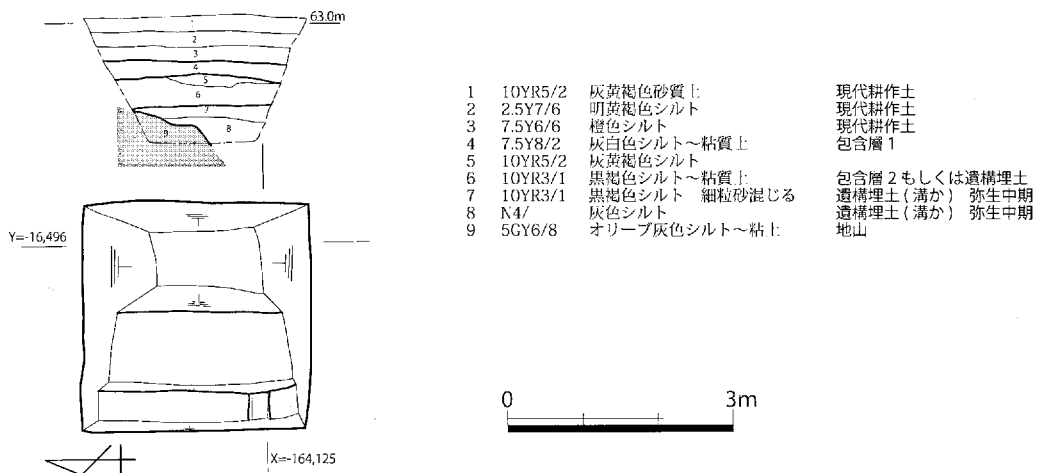


図25 11トレンチ平・断面図 (S=1/100)

【出土遺物】 調査区内からは200点近い土器片が出土している。耕作土より下は、どの層においても多くの土器片を含む。とくに7・8層は破片が大きく、このことから7・8層は遺構埋土であるということが裏付けられる。図示したもののうち(59・60)は3もしくは4層から出土し、(58・61～64)は7・8層から出土している。図示していない遺物を見ると、先述したように4層までは弥生時代後期の破片を含むようであるが、7層以下は弥生時代中期の破片しか出土していない。

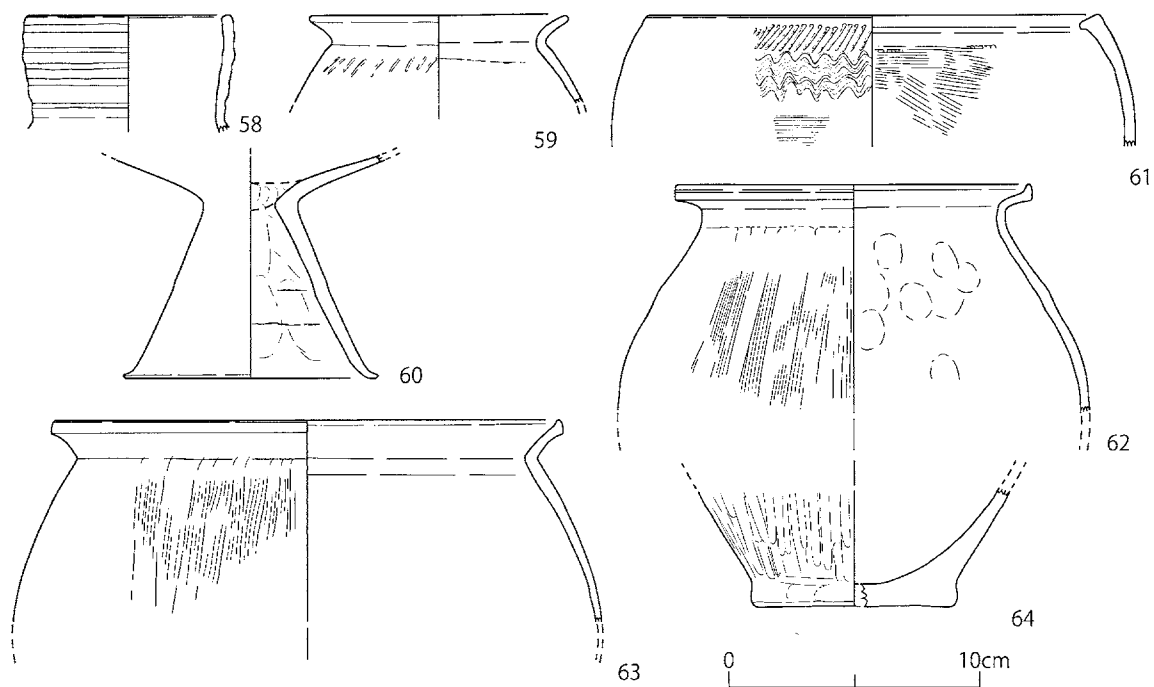


図26 11トレンチ出土遺物 (S=1/3)

(12) 12トレンチ (図27・28)

【基本層序】 基本層序は上から、現代耕作土 (1～2層 層厚約30cm)、灰褐色シルト層 (3層 層厚約25cm)、灰褐色シルトブロックが混じる明黄褐色シルト層 (12層 層厚15cm)、明黄褐色細～中粒砂層 (13層) の順となる。ここに挙げていないその他の層は、12層を基盤とする土坑状やピット状の遺構埋土と考えられる。13層は周辺の状況から地山層だと考えられる。3層は遺物を含む包含層、地山層直上の12層の位置づけは難しい。包含層もしくは地山層の可能性が考えられる。

【出土遺物】 調査区からは120点余りの土器片が出土している。土器は小片が多く図示できたのは2点のみである。断割りから出土した (65) は甕の破片で層位は特定できない。小片のため口径や傾き

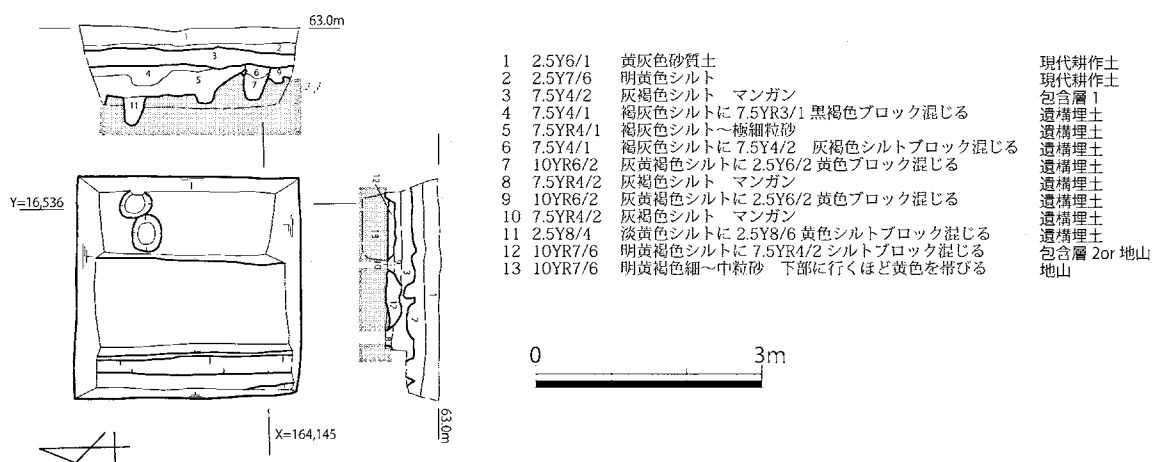


図27 12トレンチ平・断面図 (S=1/100)

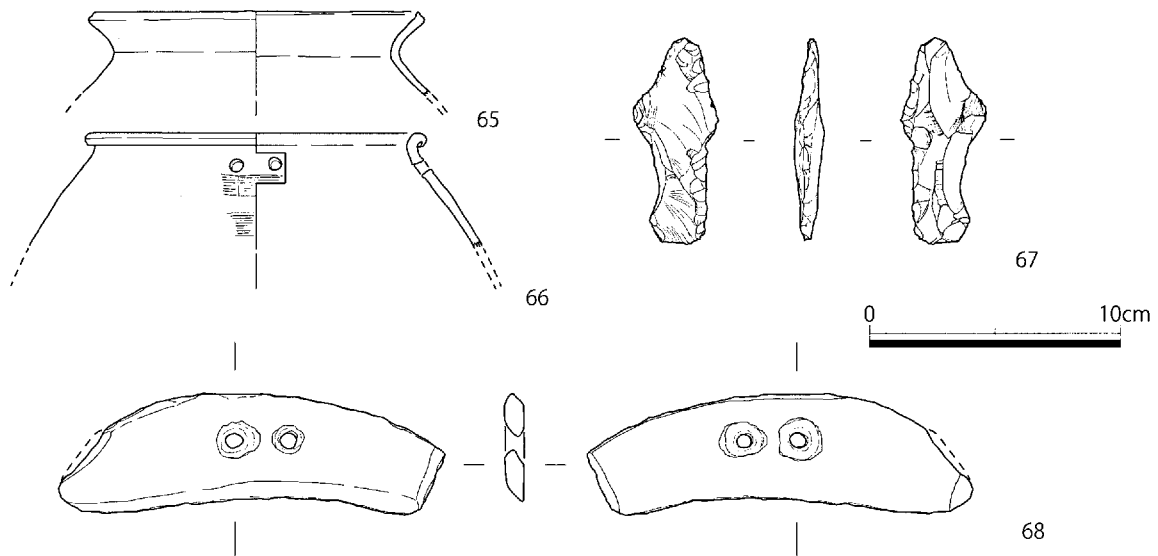


図28 12トレンチ出土遺物 (S=1/3)

などが推定しにくい。また、摩滅が著しく調整等も不明である。(66)は無頸壺の口縁で蓋を留めるための孔が2つ確認できる。(66)は3層から出土したものである。ほぼ完形の石庖丁(68)も3層から出土している。(67)はサヌカイト製の石製品で、調査区内の東に設定した断割りから出土しており4~11層のいずれかの遺構と思われる埋土から出土している。その他は小片のため時期や器種が確定できる個体は少ないが、全体的には弥生時代中期の土器片が多いと思われる。

(13) 13トレンチ (図29・30)

【基本層序】基本層序は上から、現代耕作土(1~2層 層厚約30cm)、灰褐色シルト層(3層 層厚約20cm)、灰褐色シルト層(6層 層厚約10cm)、橙~にぶい橙色シルト層(7層)の順となる。それ以外の4・5層は、6層を基盤層とする溝や土坑状などの遺構埋土と思われる。7層は地山層と考えられ、3層は遺物を多く含む包含層と考えられる。6層は地山層が土壌化したような層でまた遺物

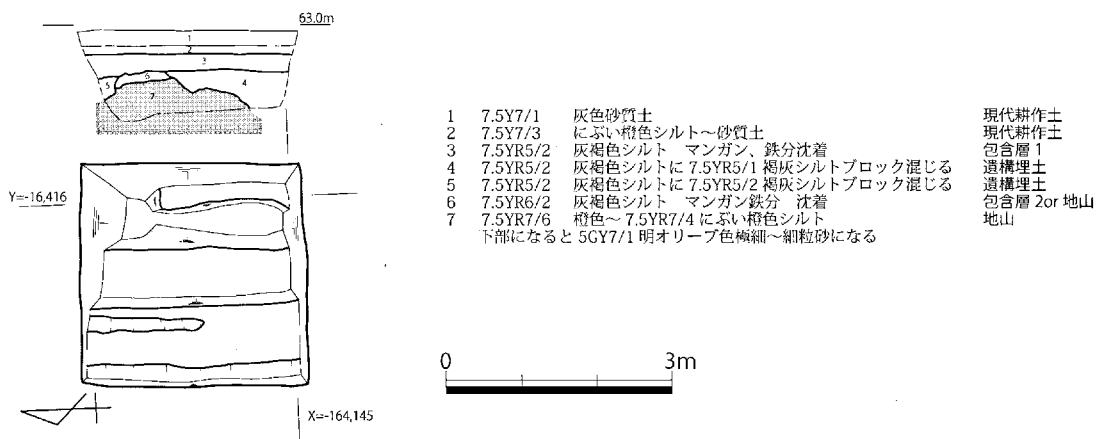


図29 13トレンチ平・断面図 (S=1/100)

を確認しておらず、面的に広がる層なのか不明で、位置づけが難しい。

【出土遺物】 調査区からは150点ほどの土器片が出土している。壺（69）は3層から出土しており、甕（70）は確実な層は確認できないが、東側の断割り部分から出土しており、4もしくは5層の遺構の埋土から出土していることは間違いない。図示していない中では、サヌカイト片が他の調査区より多く出土しているのが特徴的である。弥生時代中期の土器が多い。

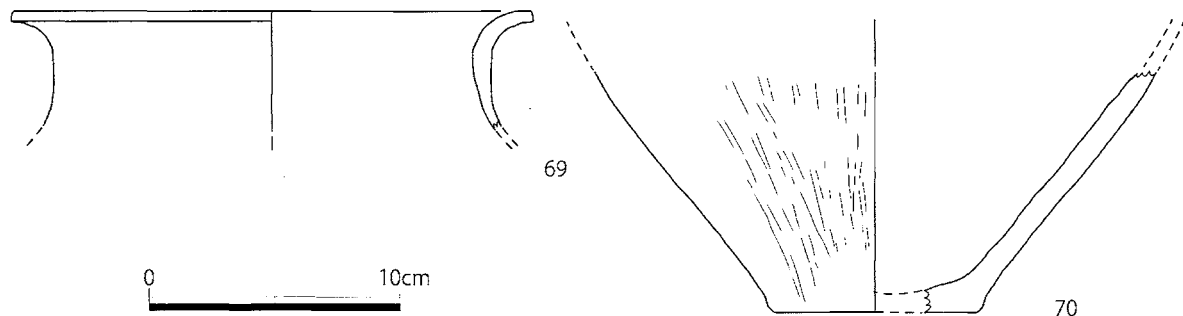


図30 13トレンチ出土遺物 (S=1/3)

(14) 14トレンチ (図31・32)

【基本層序】 基本層序は上から、現代耕作土（1～2層 層厚約35cm）、灰褐色シルト～褐灰色シルト質粘質土層（7・8層 層厚約40cm）、明オリーブ灰色細粒砂層（10層）の順となる。3～6層は7層上面で検出される素掘溝や溝状の遺構である。3層は中世素掘溝の埋土と思われるが、4～6層は素掘溝にしては少し規模が大きい。9層は炭ブロック等を含むので遺構埋土の可能性が高い。7・8層は土器を多く含む層で包含層もしくは9層を埋土とする遺構の上層の可能性もある。10層は周辺から地山層だと考えられる。

【出土遺物】 調査区内からは150点ほどの土器片が出土している。図示したものは東に設定した断割りから出土したもので9層から出土したものが中心であるが、(71・73・75)に関しては、層位を確認する途中で出土したもので3層などの上位の層が混じり込んでいる可能性がある。(73・74)はい

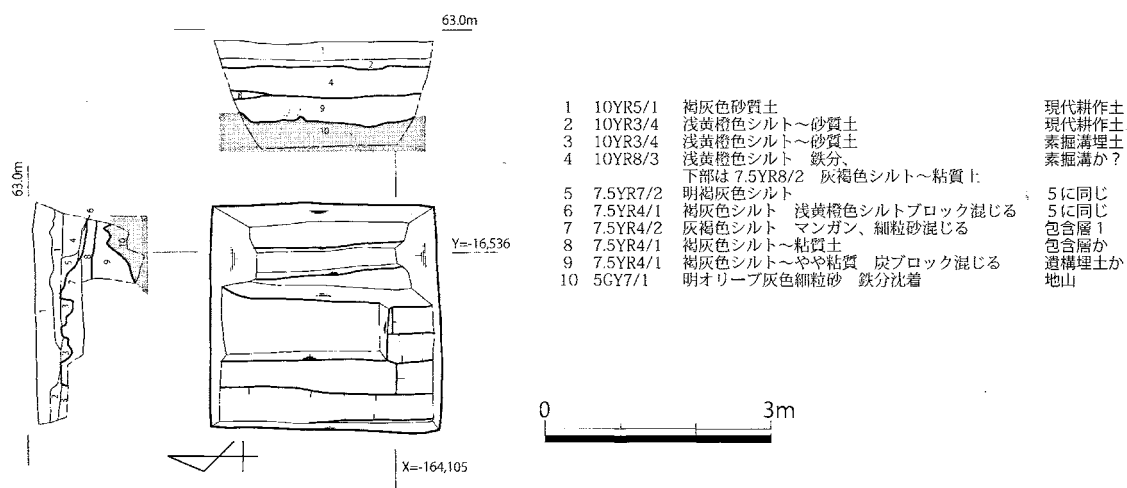


図31 14トレンチ平・断面図 (S=1/100)

いわゆるV様式の甕で、(75)は弥生時代中期の甕と考えられる。(71)は布留式期の器台の破片と思われる。このことから、前述したように出土層位が不明確な(71)を含めて考えると、9層を埋土とする遺構は、布留式期もしくは弥生時代後期に埋没したものと考えられる。本調査区からは、(75)のように弥生時代中期の遺物片も多く含まれており、周辺に弥生時代中期の遺構があったことも示している。

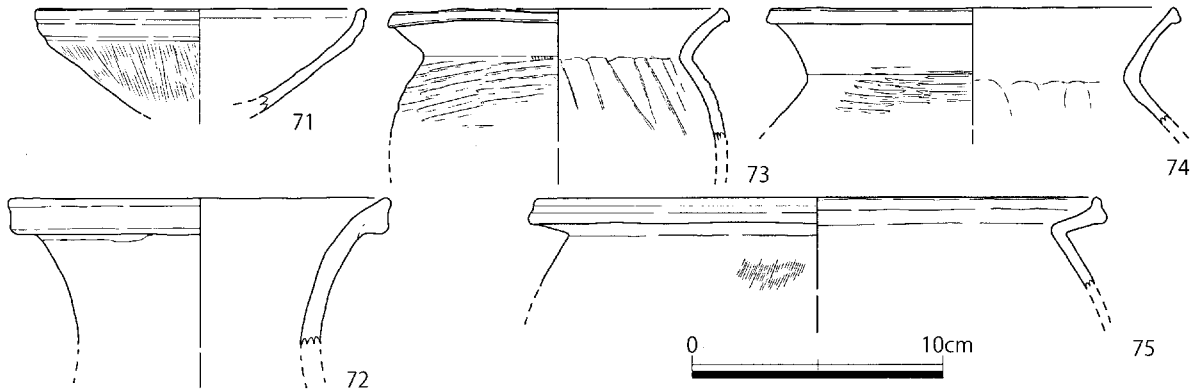


図32 14トレンチ出土遺物 (S=1/3)

(15) 15トレンチ (図33~36)

【基本層序】 基本層序は上から、現代耕作土 (1~2層 層厚約35cm)、褐灰色シルト層 (4層 層厚約25cm)、褐灰色極細粒砂混じりシルト層 (6層 層厚約30cm)、褐灰色粘質土層 (7層 層厚約20cm)、明オリーブ色粘土ブロック混じり褐灰色シルト層 (8層 層厚約40cm)、明オリーブ灰色粘土層 (9層) の順となる。このうち、周辺の状況から4層は包含層で、9層は地山層の可能性が高い。7・8層は土器、獣骨、木片等の遺物が出土し、土器片も大きいので溝などの遺構埋土の可能性が高い。6層は、7・8層に比べ土器片が小さくなる。前述した溝埋土の上層もしくは包含層の可能性が考えられる。

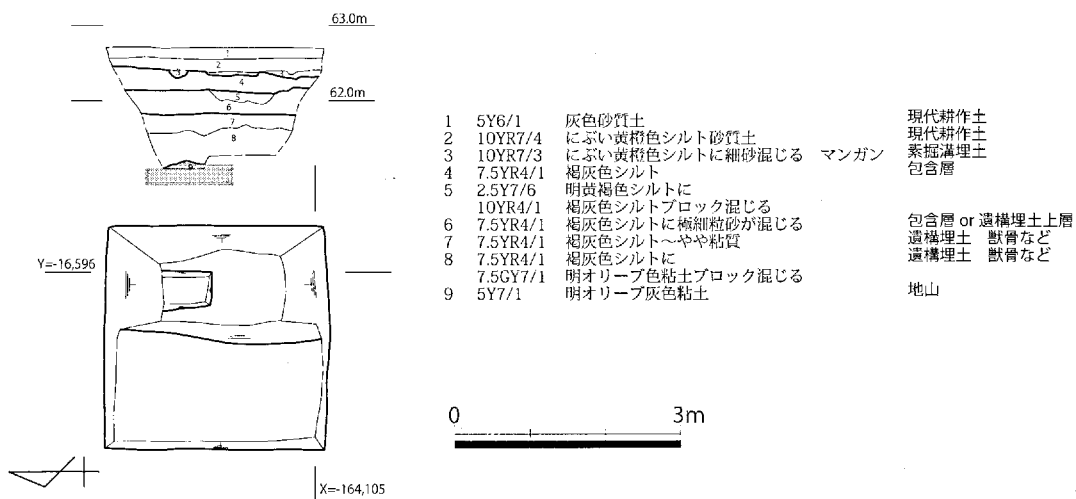


図33 15トレンチ平・断面図 (S=1/100)

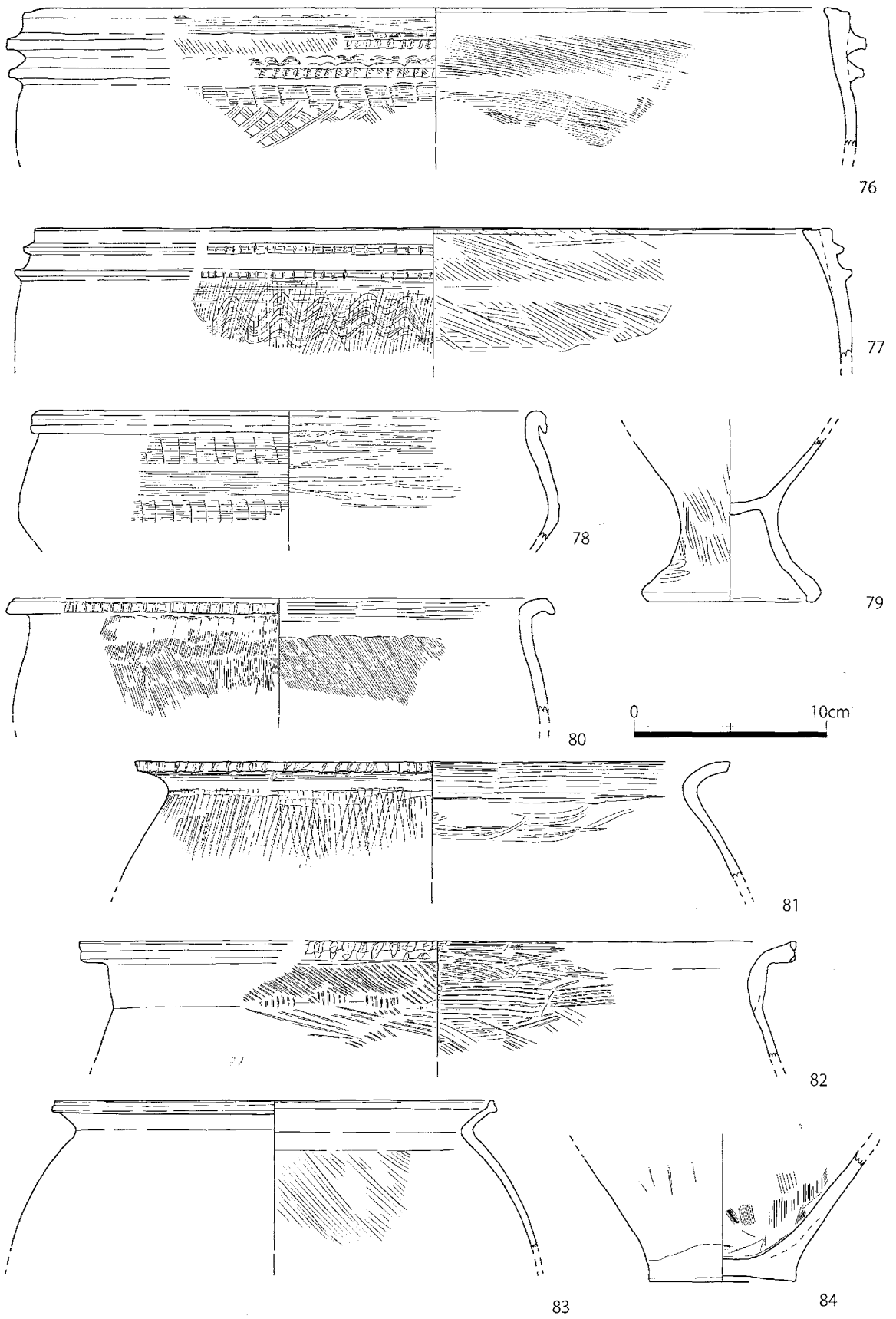


図34 15トレンチ出土遺物①(S=1/3)

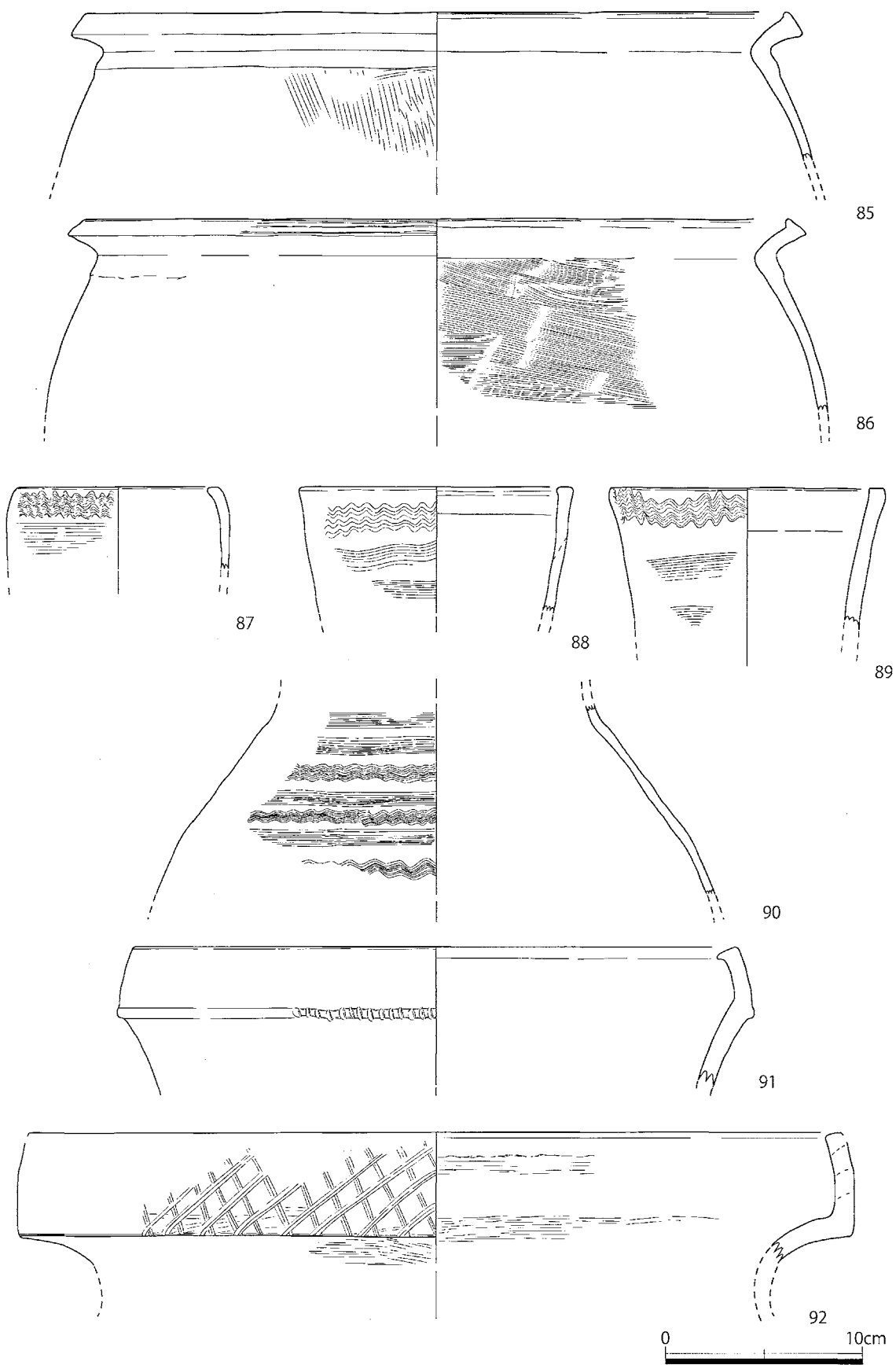


図35 15トレンチ出土遺物②(S=1/3)

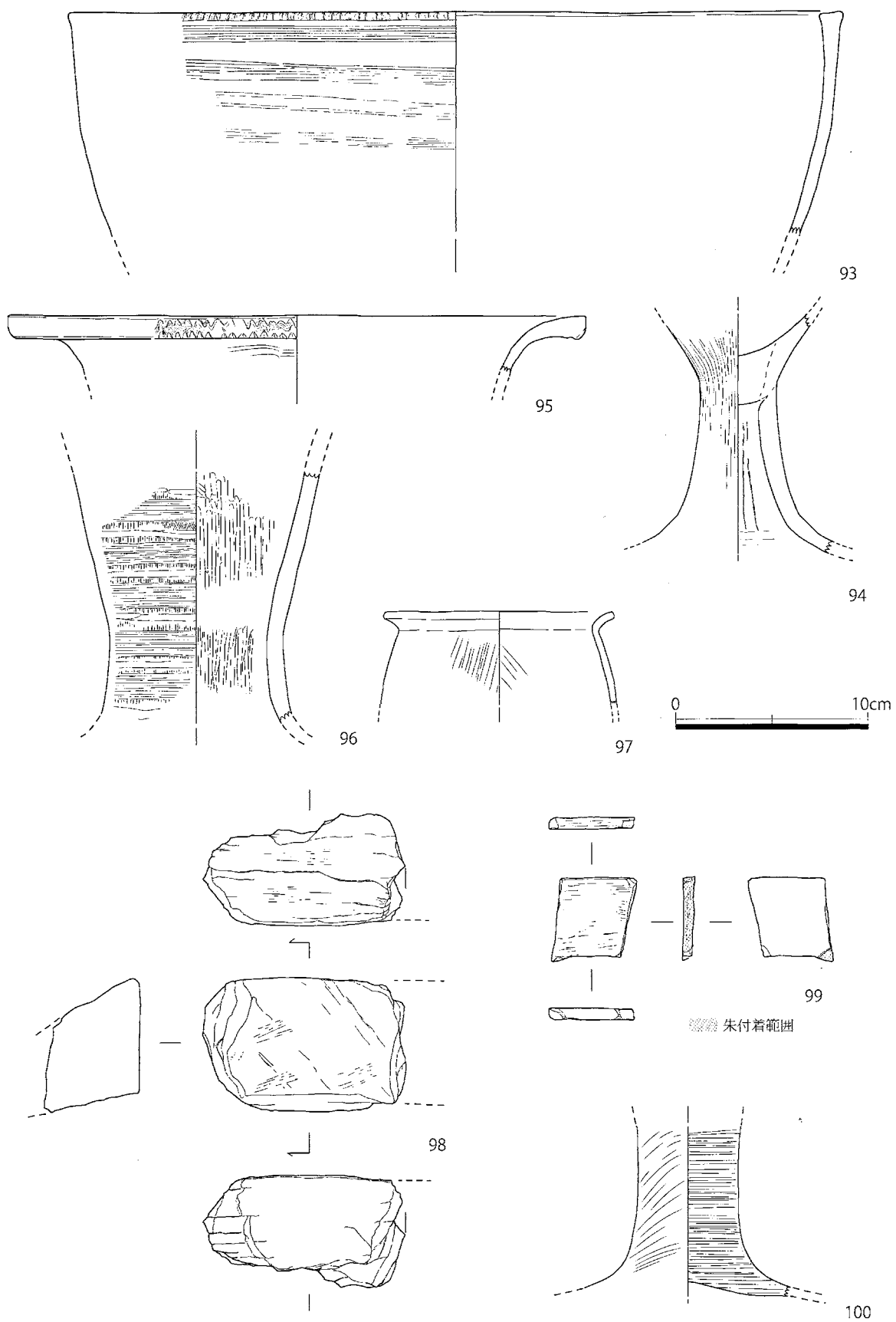


図36 15トレンチ出土遺物③(S=1/3)

【出土遺物】 調査区内からは600点近い土器片が出土している。特に、7・8層で出土したものが多く、破片も大きい。図示したもののうち、(76~92)、(99・100)が7・8層から出土している。土器は甕・壺・鉢などで、壺・鉢には櫛描の簾状文や流水文、斜格子文など文様も多彩で、弥生時代中期中葉に比定できる。(99)は砥石と思われ、表面の一部に朱が付着している。(100)は木製高杯の脚部と考えられる。(93・95・97)は6層、(94・96・98)は精査時に出土しているため出土層位は不明である。これらの土器もいずれも弥生時代中期中葉のものである。(98)は砥石で3面利用している。図示していない破片もそのほとんどが弥生時代中期中葉のものである。

(16) 16トレンチ (図37・38)

【基本層序】 基本層序は上から、現代耕作土 (1~2層 層厚約50cm)、明黄褐色細粒砂層 (3層 層厚約25cm)、灰色粘土層 (4層 層厚20cm)、明オリーブ灰色粘土層 (5層 層厚約25cm)、灰色粘土層 (6層) の順となる。3層以下は水平な堆積で、色調及び土質で分層しているが、その変化は段階的で明確な境はない。湿地状の自然堆積だと考えられる。5層からは中世土師器皿だとと思われる小片が出土しており、中世以後の堆積だと考えられる。16トレンチのすぐ北側には水路があり、調査区を設定している田圃は周辺より一段低い。現況からも水路の影響を受けている堆積だと想定できる。

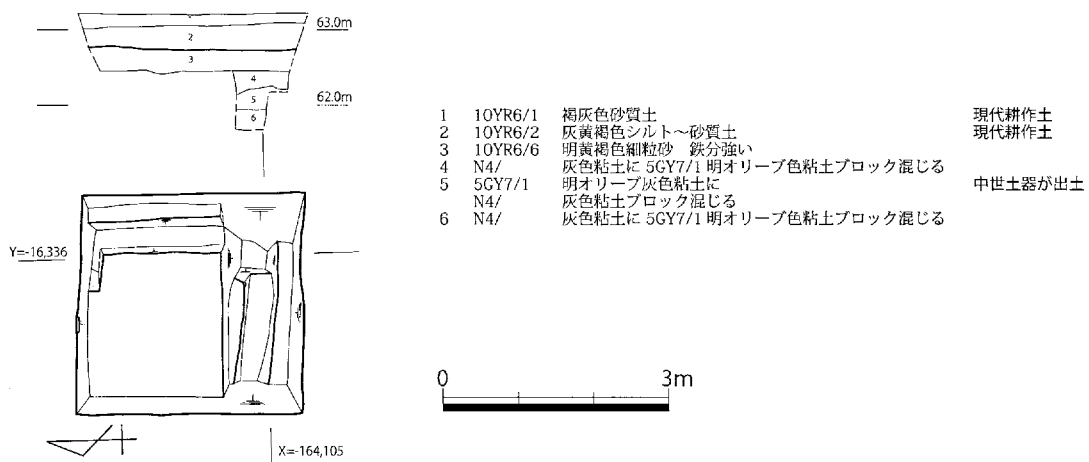


図37 16トレンチ平・断面図 (S=1/100)

【出土遺物】 調査区内からは7点の土器片しか出土していない。いずれも小さい破片で、土師器皿、須恵器片などである。図示できたのは3層から出土した土師器皿(101)1点である。



図38 16トレンチ出土遺物 (S=1/3)

(17) 17トレンチ (図39)

【基本層序】 基本層序は上から、現代耕作土 (1・5層 層厚約30cm)、灰褐色シルト層 (6層 層厚約10cm)、にぶい褐色シルト層 (7層 層厚約10cm)、浅黄橙色極細~細粒砂層 (8層 層厚約15cm)、にぶい橙色極細~細粒砂層 (9層 層厚約20cm)、橙色シルト層 (10層 層厚約50cm)、褐灰色粘土層 (11層 層厚約20cm)、褐灰色粘土層 (12層 層厚約20cm)、黄灰色シルト~粘質土層 (13層 層厚約

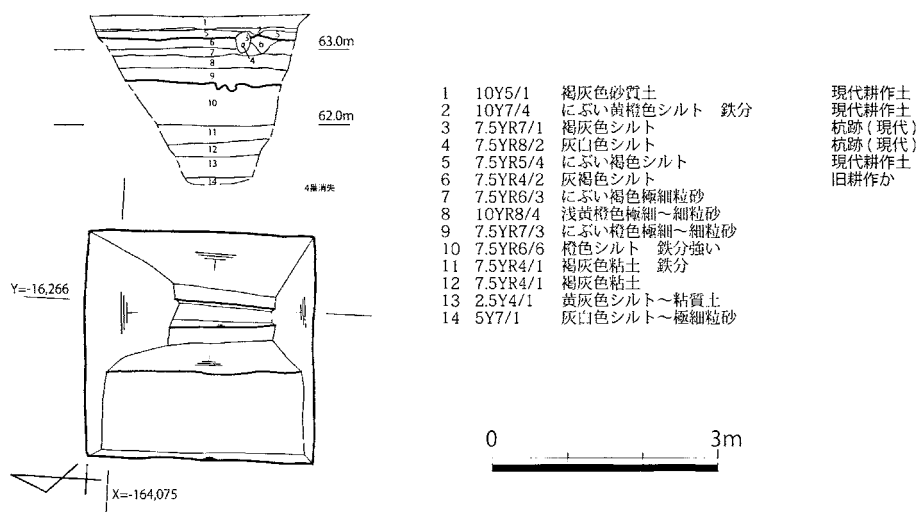


図39 17トレンチ平・断面図 (S=1/100)

25cm)、灰白色シルト～極細粒砂層(14層)の順である。現代耕作土耕作土直下に見られる灰褐色シルト(6層)は他の場所で見られる包含層と色調は類似しているが、土器がほとんどみられないことや、混じりがあるものの均質にみえるので旧耕作土層の可能性はある。10層以下は水平堆積層で層の変化も段階的で境目ははっきりしない。湿地状の自然堆積の可能性はある。この調査区からは土器は出土していない。

(18) 18トレンチ (図40)

【基本層序】 基本層序は上から、現代耕作土(1・2層 層厚約25cm)、褐灰色シルト極細粒砂層(3層 層厚10～30cm)、灰黄褐色極細～細粒砂層(4層 層厚約15cm)、にぶい橙色シルト～粘質土層(5層 層厚約15cm)、にぶい橙色シルト～粘質土層(6層 層厚約15cm)、褐灰色シルト～粘質土層(7層 層厚約20cm)、灰オリーブ色細～中粒砂層(8層)の順となる。現代耕作土直下に見られる3層は他の地点でみられる包含層と類似しているが、土器が含まれないことなどから17トレンチの6

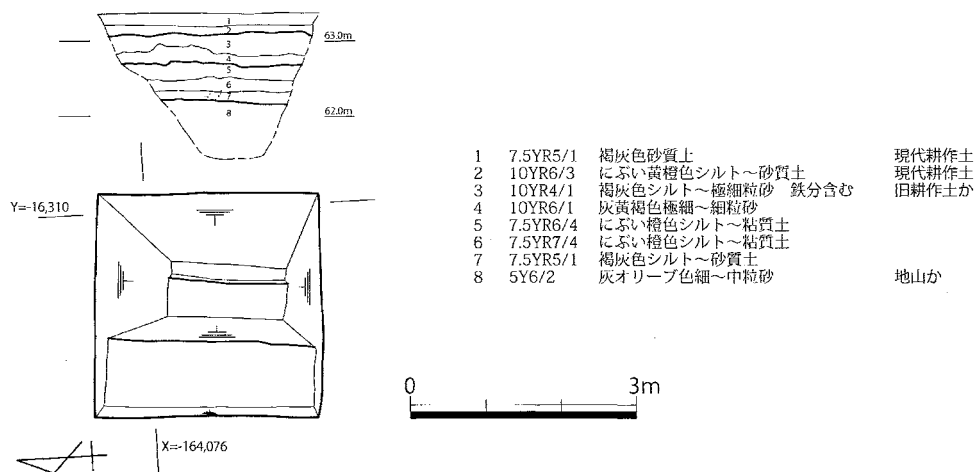


図40 18トレンチ平・断面図 (S=1/100)

層と同じで旧耕作土と思われる。褐灰色シルト層以下は水平堆積層で、各層の上面がその候補となるが、各層とも明確な遺構や遺物は確認できなかった。8層は他の地点で見られる地山層と似ており、地山層の可能性はある。土器は10点ほど出土しているが、小片のため図化できなかった。

4. 層位や遺物・遺構からみた各トレンチの相互関係

(1) 各調査区の層位関係 (図41・42 表3)

ここでは各トレンチで確認できた層をもとに調査対象地内の状況をまとめていきたい。

まず、現地表面を比較すると、調査区の中で最も高い地点は1トレンチの64.45mで、最も低いのは15トレンチの62.7mで、比高差は約1.7mである。一番北側の調査区である18トレンチは63.3mで1トレンチと比較すると1m余の比高差となる。このように調査対象地の中では、西や北に行くほど低くなる地形である。これは、調査地のすぐ北側に流れる寺川の影響を受けている。蛇行しながら北西に向かって流れる寺川は、調査地の北東付近ではちょうど真西に向きを変え、調査地の北西側で北に向かって流れを変える。こういった状況から寺川に近づくにつれ標高が低くなり、また下流に向かうほど低くなるという北西方向に向かってなだらかに傾斜する地形といえる。

次に現代耕作土や旧耕作土より下の堆積状況を見ていく。東よりの調査区をみると、1・3トレンチで黒褐色シルトや灰褐色シルト層が検出され、2トレンチ-4層もそれにあたる可能性が高い。5・6トレンチでも同様の土層が認められる。この層の標高は調査区によって異なるが、現地形の比高差と同じ傾向を示すことから共通する土層の可能性が高い。弥生時代後期の土器を多く含む共通点をもつことから裏付けられる。4・7~9・16~18トレンチではこれらの包含層は検出されない。4・8・16~18ではおそらく中世以降に堆積したと思われる湿地状堆積で、南側の調査区より寺川の影響を強く受けているといえる。ただ、7・9トレンチでは古墳時代前期もしくは弥生時代後期の可能性がある流路状遺構が確認されているため、当該期の遺構面は全くないわけではなく、これらの範囲の平面的なつながりは掴みにくい。

西よりの調査区である12~15トレンチで確認される現代耕作土直下にみられる灰褐色シルト層は、標高もさほど大差ないので、12~15トレンチ周辺に広く堆積する層であろう。弥生時代中期の土器を多く含むが14トレンチでは弥生時代後期の破片も出土しているので、弥生時代中期~後期に堆積した包含層と思われる。包含層の下に弥生時代中期の遺構が確認されているなど、これらのトレンチではほぼ同じ傾向を示す結果となっている。これらのすぐ東側にある11トレンチでも弥生時代後期の土器を含む包含層(4層)が確認されているが、西側のトレンチの包含層とは色調が異なり、連続する同一層なのか不明である。ただ、包含層下層では弥生時代中期の溝状遺構が確認され調査成果は似ている。

先に挙げた東側と西側で確認された包含層の直接的なつながりは10・11トレンチの成果からは確認できない。10トレンチで確認された地山層の標高が低いのも現地形の状況からは違和感があり、10・11トレンチ付近に西側と東側の層位を分断するなんらかの要因があると思われる。

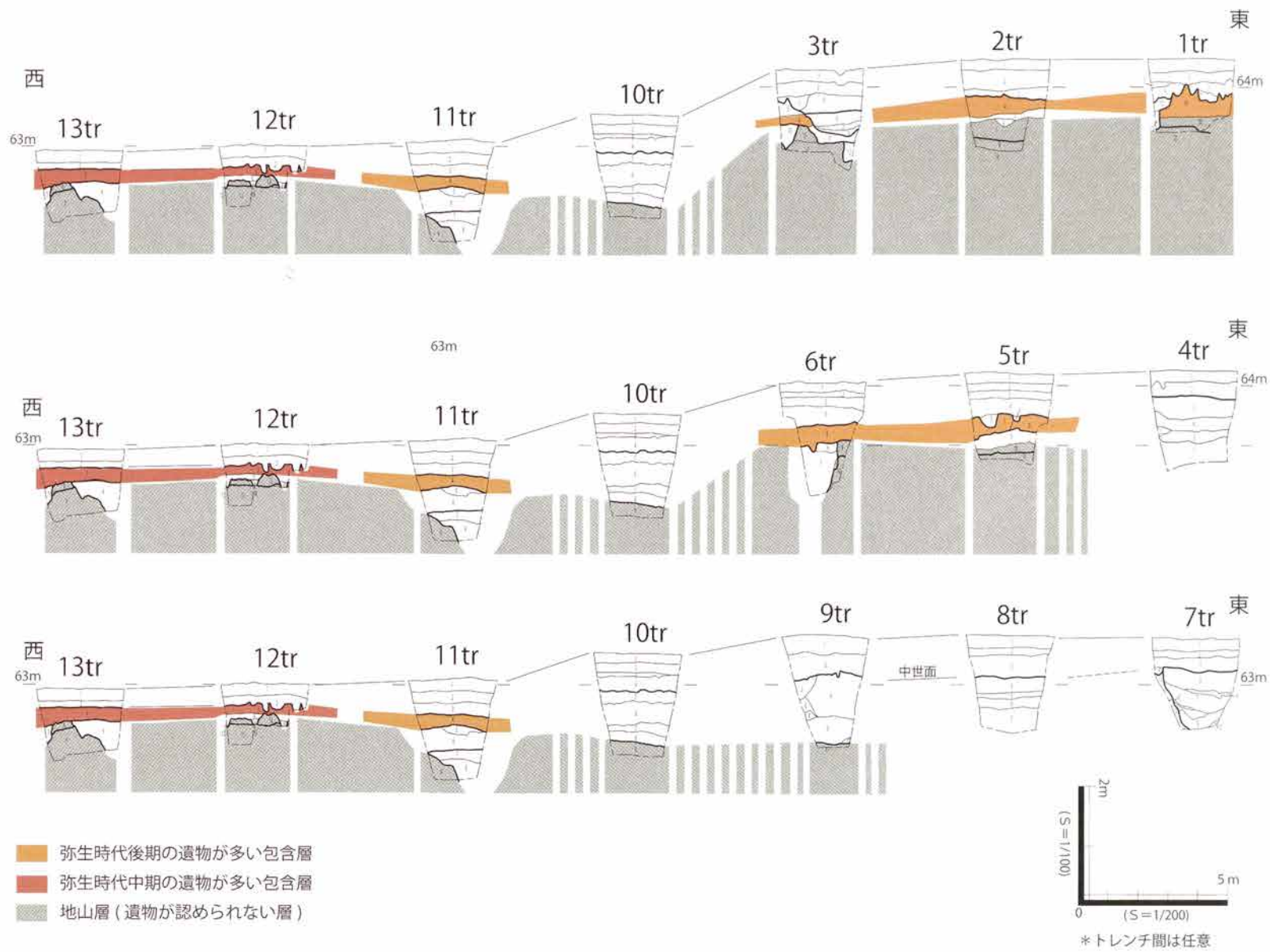


図41 各トレンチの層位関係 (東西)

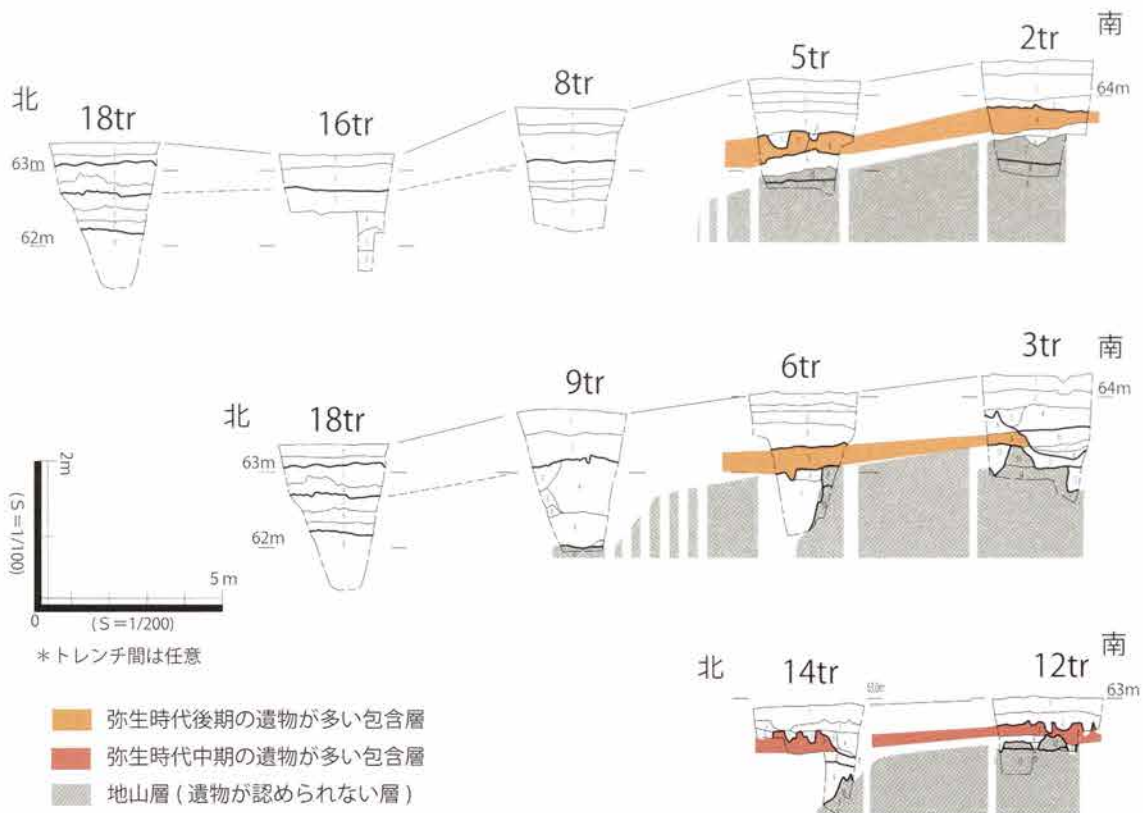


図42 各トレンチの層位関係 (南北)

(2) 各調査区の遺構の状況 (表3)

各調査区で検出できた遺構をみると、藤原京期の南北の溝状遺構が3トレンチで、庄内式期のL字状に曲がる溝が同じく3トレンチで検出されている。弥生時代後期の遺構は1・3・5～7・14トレンチで検出されており、6トレンチでは比較的大きな溝状の遺構を見つけている。弥生時代中期の遺構は可能性も含めて、3・11～15トレンチで検出されている。その中でも11・15トレンチでは比較的大規模な溝状遺構が検出されたと考えている。

(3) 各調査区の遺物出土状況 (表3)

次に遺物の出土状況を比較していきたい。表3では出土量やそれぞれのトレンチ内での時期別の相対的な比較を表している。掘削の方法の違いや時期を推定できる破片にバラつきがあるので厳密な比較とはならないが、おおよその傾向はこれにより知ることができる。まず、出土量を比較すると、1・5・6・15トレンチが多く、少ないのは10点程の2・18トレンチ、全く出土しなかったのは、16・17トレンチである。各調査区で確認できる出土土器の時期の傾向は、当然、検出された遺構の傾向と似ている。1・3～7トレンチでは弥生時代後期の遺物が相対的に多く、11～15トレンチでは弥生時代中期の遺物が多く出土している。11・14トレンチは弥生時代中期の土器が多いものの後期の土器も一定程度出土している。庄内～布留式期や須恵器 (おそらく藤原京期) といった土器も一定程度出土しているが、1～6トレンチなどの南東側調査区の方がより多く出土している。瓦器や土師器などの中世土器も広い範囲で出土しているが、8～10トレンチは比較的割合が多い。

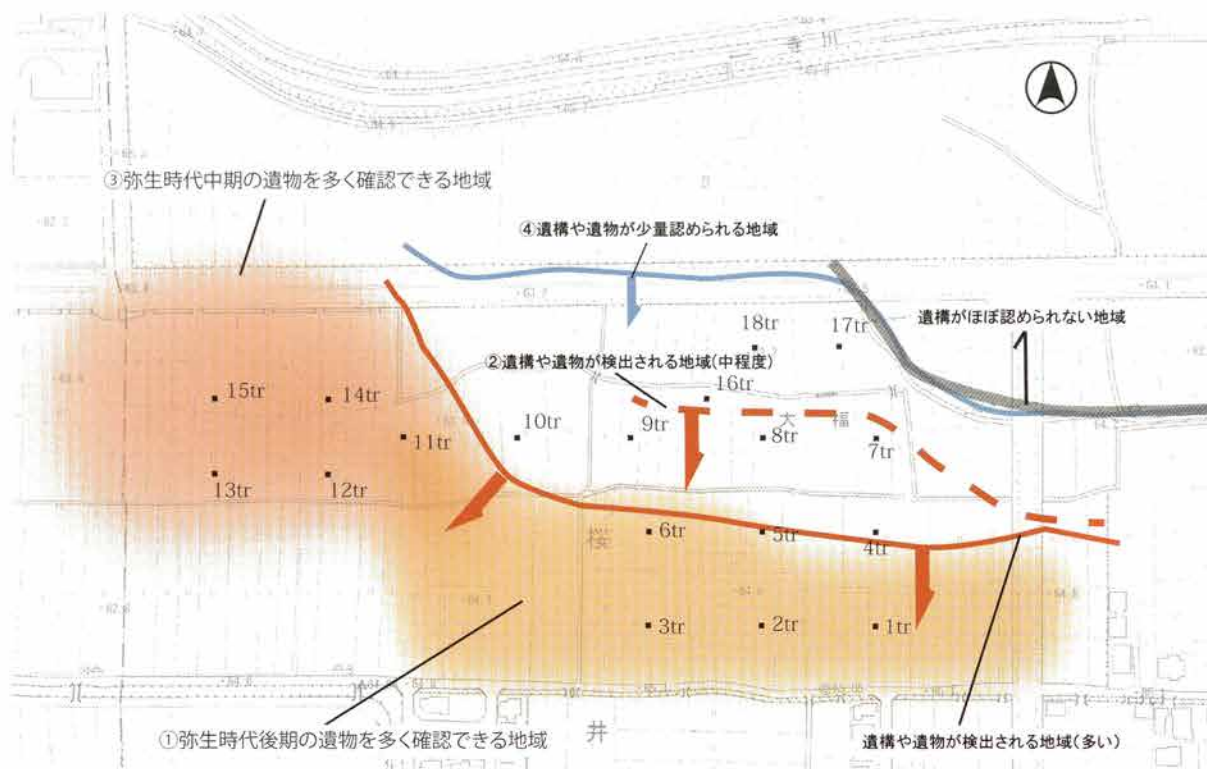


図43 調査地における遺構や遺物の傾向 (S=1/4,000)

(4) 小結 (図43)

以上のことから、土層の堆積状況や遺構や遺物の傾向をまとめてみたい。調査成果から、①1～3・5・7トレンチ、②4・7～10トレンチ③11～15トレンチ④16～18トレンチのおおよそ4つの地域分けることができる。まず、①の南東側の地域は、弥生時代後期の遺構や遺物が多く見つかる地域である。また、弥生時代中期、庄内～布留式期、藤原京期など他の時期も少ないながら確認できる。複数の時期の遺構面が確認され、遺構面の保存状態は非常に良好で、より南側の調査区の方がその傾向が強い。②の地域は、弥生もしくは古墳時代の可能性がある河道状の遺構がみられたり、中世の湿地状堆積が確認されたりと、遺構の残存状況の傾向はつかみにくい。①や③の地域でみられる弥生時代の包含層は確認できず、全体的には中世頃の寺川やその支流の影響を受けているものと考えられる。遺構や遺物の量も①と③の地域に比べると少ない。

③の地域は弥生時代の包含層が広く残っており、その下には弥生時代中期の遺構面が良好に残っている。弥生時代後期の遺構もみられるが、弥生時代中期の遺構や遺物が圧倒的に多い。検出遺構や遺物の出土量も非常に多い。

④の地域は②の地域に比べ、より寺川に近づくためか、遺構や遺物の出土量はより少なくなる。今回調査をおこなっていないが、17トレンチのすぐ東側の田圃は、周囲よりも一段低く、寺川の旧氾濫原にあたると思われる。このように、この範囲は中世やそれ以降の寺川やその支流の影響を強く受け、遺構や遺物の検出量は少ないといえる。

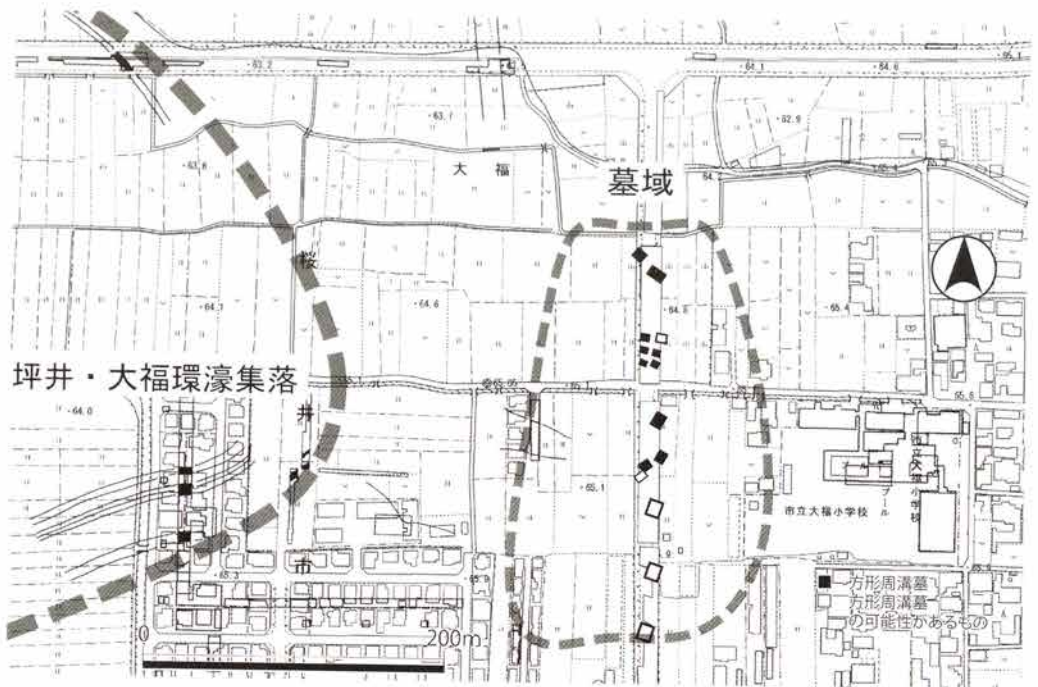
5. まとめ

今回の調査は3×3mの調査区を18ヶ所設けるといふ試掘調査の方法をとり、広範囲な地域を効率よく把握することに努めた。調査の性格上、土層の堆積状況の把握を主な目標としたため、遺構などの平面的な広がりについては把握しきれなかった面がある。しかしながら、先述したようにおおよその傾向を掴むことができた。ここではそれらの成果と周辺でおこなわれた過去の調査成果を加味し、まとめにかえたい。

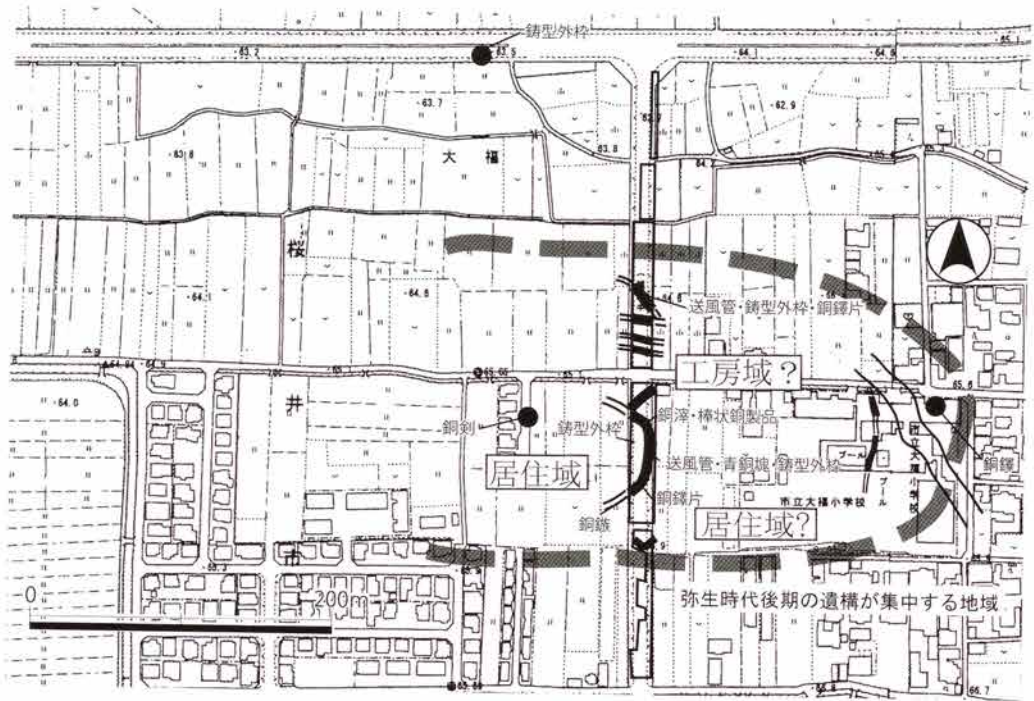
今回の調査地周辺の調査成果をまとめたものとして、橋本輝彦氏による『大福遺跡を歩く』(2005)がある。これは、「坪井・大福遺跡」と「大福遺跡」の調査成果を地図上にプロットしたもので、弥生時代中期を中心とする坪井・大福の環濠集落の範囲や弥生時代後期の遺物が集中する範囲を図示している。ここに図示された環濠集落の範囲は、平成24年度におこなわれた大福遺跡第30次調査でも裏付けられ、現時点でも精度が高いものである。今回の調査地にあてはめると、10もしくは11トレンチ付近にその推定ラインが通る。11トレンチで、弥生時代中期の溝状遺構が確認されていることや、10トレンチを境に東側と西側の包含層などが連続しない状況からみても、10と11トレンチの間に環濠帯が通る可能性が高く、橋本氏の推定ラインを裏付ける結果となっている。

また、橋本氏はこの環濠集落とその東側に広がる大福遺跡を中心とする弥生時代後期の遺物が集中する範囲との関係にふれ、両者が同一集団による集落であると考え、中期の環濠集落が後期段階で環濠の内や外に分散するという動向を表していると指摘した。この考えは平成18～20年度に行われた大福遺跡第25・26・28次調査成果から、さらに可能性が高くなるものと考えている(丹羽2009)。この一連の調査は、今回の調査地の東端にある南北道路の建設に伴う調査で、結果として「大福遺跡」の東側を南北350mにわたって遺構の状況を明らかにすることができた。この調査では、寺川の氾濫原の位置やその時期、弥生時代中期の方形周溝墓群の検出、弥生時代後期の集落を形成する溝の検出、青銅器鑄造関連遺物の発見などの大きな成果が得られ、図44に表しているように、弥生時代中期から後期の集落の変遷をより具体的にイメージできるようになった。今回の調査にあてはめると、東側の地区の調査成果(図43)と大きく関連してくる。遺構や遺物の多寡をはじめとし、1～3・5・6トレンチに後期の遺物が集中する成果などは、第25・26・28次の調査成果をさらに西側でも平面的に確認した結果となっている。

このように今回の調査は、これまでの成果と同様の結果をもたらし、よりその精度を増すことになった。「坪井・大福遺跡」や「大福遺跡」を考える場合、橋本氏が指摘したように、弥生時代中期の環濠集落と弥生時代後期の集落との関係や変遷が一つの大きなテーマとなる。今回の調査対象地は、弥生時代中期と後期の集落の地理的に接点のとなる場所で、そのテーマに対する答えを出せる地点として期待は大きい。このような重要性を鑑みると、今後この場所での広範囲で平面的な調査が必要であろう。(丹羽)



弥生時代中期の様相



弥生時代後期の様相

図44 調査地周辺の弥生時代中期と後期の様相

表2 大福遺跡と坪井大福遺跡の変遷

	弥生時代														古墳時代	
	前期	中期前半			中期後半			後期					古墳	古墳		
	VI-1	VI-2	VI-1	VI-2	VI-3	VI-4	VI-1	VI-2	VI-3	VI-4	VI-5	VI-6	VI-7	VI-8	古墳	古墳
大福遺跡																
坪井・大福遺跡																

【参考文献】

- 萩原儀征1987『大福遺跡大福小学校地区発掘調査概報』桜井市教育委員会
- 橋本裕行1991『坪井遺跡の検討』『みずほ』第3号 大和弥生文化の会
- 松本洋明1991『坪井・大福遺跡の調査から』『みずほ』第3号 大和弥生文化の会
- 清水真一1996『中和幹線道第5次（大福遺跡第15次調査）』『桜井市内埋蔵文化財1996年度発掘調査報告書1』
- 露口真広2000『坪井・大福遺跡坪井地区の新所見と再検討』『みずほ』第34号 大和弥生文化の会
- 松本洋明2000『坪井・大福遺跡の検討から（Ⅱ）』『みずほ』第34号 大和弥生文化の会
- 露口真広2001『坪井・大福遺跡（坪井地区における環濠の変遷）』『みずほ』第35号 大和弥生文化の会
- 大和弥生文化の会2003『奈良県の弥生土器集成』
- 川部浩司2006『坪井・大福遺跡の再評価』『みずほ』第40号 大和弥生文化の会
- 橋本輝彦2005『大福遺跡を歩く』桜井市立埋蔵文化財センター
- 丹羽恵二 2009『奈良県桜井市大福遺跡（第26・28次）の調査～奈良盆地東南部における中期から後期の様相～』近畿弥生の会 第18回集会兵庫場所発表要旨集 近畿弥生の会
- 武田雄志2013『大福遺跡第30次発掘調査』『50cm下の桜井』桜井市立埋蔵文化財センター展示解説書 桜井市立埋蔵文化財センター発掘調査速報展19 財団法人桜井市文化財協会
- 橋本輝彦・武田雄志2014『大福遺跡を歩くⅡ』桜井市立埋蔵文化財センター



写真 上空からみた調査地（南東より）＊平成18年撮影

表3 大福遺跡第32次調査 調査区一覧

トレンチ名	現地表標高(m)	遺構密度	遺構の概要	土器片の概数	出土遺物の時期(種類)とその割合				
					弥生中期	弥生後期	庄内・布留式期	須恵器	瓦器・土師器皿
1	64.45	密	弥生後期?の土坑	700	-	◎	○	○	○
2	64.4	不明	弥生後期包含層の検出	10	-	△	-	△	△
3	64.3	密	藤原京期溝、庄内式期、溝弥生後期土坑、弥生中期溝?	200	○	◎	○	○	△
4	64.25	不明	布留式期以前の湿地状堆積?	50	△	○	-	○	○
5	64.2	不明	弥生後期包含層の検出	660	△	◎	-	△	△
6	64	密	弥生後期溝	390	△	◎	-	△	△
7	63.75	不明	布留式期?の河道か	150	-	◎	○	-	△
8	63.8	不明	中世の湿地状堆積	50	-	○	-	-	◎
9	63.8	不明	中世河道と弥生時代後期の河道?	100	△	○	-	-	○
10	63.5	不明	弥生後期以後の湿地状堆積	100	△	○	-	-	○
11	63.05	密	弥生中期の溝	200	◎	○	-	△	△
12	63.05	密	弥生中期の土坑、ピット	120	◎	△	-	-	-
13	62.9	密	弥生中期の土坑?	140	◎	△	-	-	-
14	62.85	密	弥生後期の遺構	140	◎	○	○	△	-
15	62.7	密	弥生中期の溝?	580	◎	△	-	-	-
16	63.25	不明	湿地状堆積か	10	-	-	-	△	○
17	63.4	不明	湿地状堆積か	0	-	-	-	-	-
18	63.3	不明	湿地状堆積か	10	△	-	-	-	△

出土量の比率: ◎>○>△、-はなし、ほとんどなし

表4 出土遺物観察表

報告番号	トレンチ番号	出土位置・層位	器種・種別	色調	焼成	口縁(底部)残存率	法量(cm)			形態的特徴・調整など
							口径	底径	器高(残存)	
1	1	精査	土師器 高坏	外面: 10YR7/2 におい黄橙、10YR5/1 褐灰 内面: 7.5YR7/1 灰白~7.5YR8/2 灰白	良好	柱状部は全周			(6.1)	外面: ミガキ(柱状部~坏部) 内面: ミガキか(坏部)
2	1	15~18層か	土師器 高坏	外面: 10YR5/6 赤 内面: 2.5YR5/6 明赤褐	良好	1/8	19.4		(2.7)	外面: ヨコナデ(口縁部) 内面: ヨコナデ(口縁部)
3	1	15~18層か	土師器 甕	外面: 7.5YR4/1 褐灰 内面: 7.5YR6/3 におい褐	良好	1/7	15.8		(3.1)	外面: ヨコナデ(口縁部) 内面: ヨコナデ(口縁部)
4	1	15~18層か	土師器 甕	外面: 5YR6/6 橙、7.5YR3/4 におい橙 内面: 7.5YR7/4 ~7/9 におい橙	良好	1/6	16.6		(2.0)	外面: ヨコナデ(口縁部)、タタキ(胴部) 内面: ヨコナデ(口縁部)
5	1	15~18層か	土師器 壺	外面: 10YR4/3 におい黄褐 内面: 10YR4/3 におい黄褐	良好	1/4	13.8		(3.1)	外面: ヨコナデ(口縁部) 内面: ヨコナデ(口縁部)
6	1	15~18層か	土師器 壺	外面: 10YR5/2 灰黄褐 内面: 10YR4/5 におい黄褐	良好	1/5	28.4		(6.4)	外面: ナデ、竹管浮文(口縁部)、ミガキ(頸部) 内面: ナデ(口縁部)
7	2	4層	土師器 鉢か	外面: 5YR5/4 におい赤褐 内面: 5YR5/6 明赤褐~10YR6/3 におい黄橙	良好	1/16	22.2		(3.9)	外面: ナデ(口縁部) 内面: ナデ(口縁部)
8	3	4層	須恵器 坏蓋	外面: N 6/0 灰 内面: 7.5Y4/3 暗オリーブ~7.5Y6/1 灰	良好	-			(2.2)	外面: 同型ナデ(柄み) 内面: ナデ
9	3	SD-01	土師器 甕	外面: 2.5Y5/3 黄褐 内面: 2.5Y5/3 黄褐	良好	1/3	15.7		(13.7)	外面: ナデ(口縁部) タタキ(胴部) 内面: ナデ(口縁部) ケズリ? マメツで不明(胴部)
10	3	SK-02	土師器 高坏	外面: 10YR7/3 におい黄橙 内面: 10YR7/3 におい黄橙	良好	全周	14.6		(6.7)	外面: ヨコナデ(口縁部) ハケ(胴部)、ナデ 内面: ハケ(胴部) 一部ナデケシ
11	3	SK-02	土師器 長径壺	外面: 7.5YR6/6 橙 内面: 7.5YR7/4 におい橙	良~やや不良	ほぼ完形	11		10.9	外面: マメツ激しく調整不明 内面: マメツ激しく調整不明 底部に穿孔あり
12	3	SK-02	土師器 鉢	外面: 10YR5/3 におい黄橙 7.5YR5/4 におい褐 内面: 2.5Y6/3 におい黄	良好	3/4 底部全周	17		11.1	外面: ヨコナデ(口縁部)、タタキ後ミガキ(胴部) 内面: ヨコナデ(口縁部) ナデ? (胴部) タテミガキ(胴部)
13	3	SK-02	土師器 壺	外面: 10YR6/3 におい黄橙 内面: 10YR6/3 におい黄橙	良好	1/2	12.4		(5.2)	外面: ミガキ(頸部) 内面: ミガキ(頸部) ナデ、指オサエ
14	3	SK-02	土師器 甕	外面: 10YR4/3 におい黄橙 内面: 10YR3/1 黒褐	やや不良	ほぼ完形	9		10.7	外面: ヨコナデ(口縁部) タタキ(胴部) 内面: ヨコナデ(口縁部) ナデ? (胴部)
15	3	SK-02	土師器 甕	外面: 10YR6/3 におい黄褐 内面: 10YR6/3 におい黄橙 7.5YR5/2 灰褐	良好~やや不良	2/5 (底部なし)	15		(19.8)	外面: ナデ(口縁部) タタキ(胴部) 内面: ナデ(口縁部) ナデ ハケ(胴部)
16	3	SK-02	土師器 甕	外面: 10YR7/3 におい黄橙 内面: 10YR7/3 におい黄橙	良好	全周	15		(20.9)	外面: ナデ(口縁部) ハケ(胴部) タタキ(胴部) 内面: ナデ(口縁部) ハケ(胴部)
17	3	12層か	土師器 甕	外面: 7.5YR6/3 におい褐 内面: 7.5YR6/4 におい橙	良好	1/10	19.8		(4.4)	外面: ヨコナデ(口縁部) ケズリ(胴部) 内面: ヨコナデ(口縁部)

報告 番号	トレン チ番号	出土位置・層位	器種・種別	色調	焼成	口縁(底部) 残存率	法量 (cm)			形態的特徴・調整など
							口径	底径	器高(残存)	
18	3	12層か	土師器 壺か	外面: 10YR4/1 褐灰 内面: 10YR3/1 黒褐	良好	底部のみ 全周		8.5	(3.3)	外面: ナデ 内面: ナデ 指オサエ
19	3	北側断割り	土師器 鉢か	外面: 10YR8/3 浅黄褐 2.5Y5/1 黄灰 内面: 10YR7/4 におい黄橙 2.5Y5/4 黄灰	良好	底部のみ 全周		3.5	(3.4)	外面: タタキ 内面: ハケ
20	3	北側断割り	土師器 甕か	外面: 5YR5/4 におい赤褐 内面: 5YR5/8 明赤褐	良好	底部のみ 全周		7.6	(4.8)	外面: ナデ 指オサエ 工具痕 内面: ナデ
21	3	北側断割り	木製品 用途不明	—	—	—	(残存長) 10.8	(残存幅) 1.6	(残存厚み) 0.6	
22	4	断割り	土師器 壺	外面: 7.5YR6/6 橙 内面: 2.5Y7/3 浅黄	良好	底部径 1/3		9.6	(5.5)	外面: 工具によるナデか 内面: ナデ
23	5	7~8層	土師器 壺	外面: 7.5YR6/4 におい黄橙 内面: 7.5YR6/4 におい黄橙	良好	1/3	7.6		(6)	外面: ナデ (口縁部) (胴部) 内面: ナデ
24	5	7~8層	土師器 鉢	外面: 5YR6/6 橙 N3/暗灰 内面: 5YR6/6 橙 N4/灰	良好	2/3	15.8		(8.3)	外面: ナデ (全体) 内面: ナデ (全体)
25	5	7~8層	土師器 鉢	外面: 5YR6/6 橙 7.5YR3/4 におい橙 内面: 7.5YR7/4 ~ 7/6 におい橙	良好	1/5	16.25	4.2	12.85	外面: ヨコナデ (口縁)、タタキのち ナデか (胴部) 内面: 磨滅のため不明
26	5	9層	土師器 壺	外面: 5YR5/6 明赤褐 内面: 5YR5/6 明赤褐	良好	1/4	11.4		(4.8)	外面: ハケ?のちナデ 内面: ナデ
27	5	7~8層	土師器 長頸壺	外面: 10YR6/3 におい黄橙 N3/暗灰 内面: 10YR6/3 におい黄橙	良好	ほぼ完形	9.4		16.5	外面: ヨコナデ (口縁部) ハケ (頸部) ナデ (胴部~底部) 線刻あり 内面: ヨコナデ (口縁部) ハケ (頸 部~底部) ナデ (底部)
28	5	7~8層	土師器 高坏	外面: 7.5YR6/4 におい橙 内面: 7.5YR6/4 におい橙	良好	1/5 強	7		(5.8)	外面: ミガキ 内面: ミガキ
29	5	7~8層	土師器 高坏	外面: 10YR6/3 におい黄橙 N3/暗灰 内面: 10YR6/3 におい黄橙 N3/暗灰	良好	口径1/2 底径1/2	19.1	13.4	(14)	外面: ヨコナデ ミガキ 脚部4方 透し孔 内面: ミガキ ナデ
30	5	7~8層	土師器 高坏	外面: 10YR5/4 におい黄橙 内面: 10YR6/4 におい黄橙	良好	1/20	24		(12.9)	外面: ナデ (口縁部) ミガキ (皿部) 内面: ミガキ
31	5	7~8層	土師器 高坏	外面: 7.5YR7/4 におい橙 内面: 7.5YR7/3 におい橙	良好	3/4	25.6		(5.9)	外面: ミガキ 内面: ミガキ
32	5	7~8層	土師器 甕	外面: 10YR5/3 におい黄褐 内面: 10YR5/3 におい黄褐	良好	2/5	14		14	外面: ハケのちナデ (口縁部) タタキ (胴部) スス付着 内面: ハケ
33	5	7~8層	土師器 甕	外面: 5YR6/6 橙 7.5YR5/4 におい褐 内面: 2.5YR5/6 明赤褐	良好	1/2	15.7		(9.2)	外面: ヨコナデ (口縁部)、タタキ、ハ ケ (胴部) 内面: ヨコナデ (口縁部)
34	5	7~8層	土師器 壺	外面: 7.5YR7/3 におい橙 内面: 7.5YR7/3 におい橙 ~ 5YR6/4 におい橙	良好	5/8	19.8		(6.3)	外面: 刻目 (口縁)、タタキミガキ 内面: ヨコミガキ (口縁部)
35	6	断割り(4層か)	須恵器 壺	外面: N3/暗灰 内面: N4/灰	良好	1/5	21.4		(4.5)	外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ
36	6	7層	土師器 甕	外面: 10YR5/2 灰黄褐 内面: 10YR4/2 におい黄橙	良好	1/8	13		(3.4)	外面: ヨコナデ (口縁部)、タタキ (胴部) 内面: ヨコナデ (口縁部)
37	6	7層	土師器 甕か	外面: N1.5/黒 内面: 10YR7/2 におい黄橙 10YR4/2 灰黄褐	良好	—	(胴部最大 径) 10.4		(7.7)	外面: ナデ (下の方はほとんど剥離) スス付着 内面: ナデ
38	6	7層	土師器 台付壺 か	外面: 10YR6/1 褐灰 内面: 10YR7/2 におい黄橙	良好	4/5 (底部)	6.8		(6.1)	外面: タタキ (胴部) ナデ (脚部) スス付着 内面: ナデ (脚部内面)
39	6	7層	土師器 甕	外面: 10YR6/3 におい黄橙 内面: 10YR6/1 褐灰	良好	1/5 強	16		(6.5)	外面: 指オサエ及びナデ 内面: 指オサエ及びナデ
40	6	7層	土師器 甕	外面: 7.5YR5/3 におい橙 内面: 10YR4/2 灰黄褐	良好	全周	13.4		(15.5)	外面: ナデ (口縁) タタキ (胴部) スス付着 内面: ナデ (口縁) ハケ (胴部)
41	6	7層	土師器 壺	外面: 10YR6/3 におい黄褐 内面: 10YR6/3 におい黄橙	良好	1/4	13.2		(9)	外面: ハケ 内面: ナデ
42	6	7層	土師器 壺	外面: 10YR6/3 におい黄褐 7.5YR6/4 にお い橙 内面: 10YR6/3 におい黄褐 7.5YR6/4 にお い橙	良好	底部は 全周	4.8		(14)	外面: ミガキ 内面: ハケ
43	6	7層	土師器 壺	外面: 2.5Y6/1 黄灰 内面: 2.5Y5/1 黄灰	良好	底部は全周	5.2		(21.8)	外面: ミガキか調整不明 内面: ハケ
44	6	7層か	土師器 壺	外面: 10YR 5/1 褐灰 内面: 10YR 6/2 灰黄褐	良好	2/3	5		(14)	外面: ハケ (ナデ) のちミガキ 内面: ハケもしくはナデ
45	7	北壁(5層上面)	土師器 甕	外面: 7.5YR6/4 5YR6/4 におい橙 内面: 7.5YR6/4 5YR6/4 におい橙	良好	3/4	17.8		(36.5)	外面: ハケ (頸部) ハケのちミガキ (体 部上部) ミガキ 内面: ハケ (頸部) ナデ (胴部) 工 具痕
46	7	9層か	木製品 用途不明	—	—	—	(残存長) 9.1	(幅) 3.4	厚さ (2.9)	
47	8	精査	瓦器 塊	外面: N7/ 灰白 3/ 暗灰 内面: N8/ 灰白 7/ 灰白	良好	1/4	9		(3.1)	外面: 暗文 指ナデ 内面:
48	8	重機掘削	土師器 羽釜	外面: 7.5YR7/4 におい橙 内面: 7.5YR7/4 におい橙	良好	1/12	20		(5)	外面: ナデ 内面: ナデ 指オサエ
49	8	断割り	木製品 用途不明	—	—	—	(残存長) 21	(残存幅) 1.9	(厚さ) 0.8	
50	8	7層	木製品 用途不明	—	—	—	(残存長) 111.9	(幅) 5.2	(厚さ) 0.2	
51	9	重機掘削	土師器 皿	外面: 5YR5/4 におい赤褐 内面: 5YR5/4 におい赤褐	良好	1/3	9		(1.2)	外面: ヨコナデ (口縁) 指オサエ 内面: ナデ
52	9	重機掘削	土師器 皿	外面: 7.5YR7/4 におい橙 内面: 10YR7/4 におい黄橙	良好	3/4	10		(2.3)	外面: ヨコナデ 指オサエ 内面: ナデ
53	9	重機掘削	土師器 皿	外面: 7.5YR6/4 におい橙 内面: 7.5YR6/4 におい橙	良好	7/8	10		(2.2)	外面: ヨコナデ 指オサエ 内面: ヨコナデ ナデ
54	9	機械掘削	瓦器 塊	外面: N5/ 4/ 灰 内面: N4/ 灰 2.5GY8/1 灰白	良好	1/5 強	10		(4.2)	外面: ナデ 指オサエ 内面: 暗文
55	9	断割り	土師器 壺	外面: 5YR4/4 におい赤褐 内面: 7.5YR4/1 黄灰	良好	—			(5.1)	外面: 線描文 ミガキ 内面: ナデ
56	10	8層	土師器 鉢か	外面: 10YR5/3 におい黄褐 内面: 10YR5/2 灰黄褐	良好	1/14	22		(4.9)	外面: ナデ 線描文 内面: マメツ ミガキ?
57	10	8層	土師器 甕	外面: 5YR5/4 におい赤褐 ~ 7.5YR4/1 褐灰 内面: 5YR5/4 におい赤褐 ~ 10YR5/2 灰黄褐	良好	底部は 全周	5.8		(3.8)	外面: ナデ 内面: 磨滅 ナデ

報告番号	トレンチ番号	出土位置・層位	器種・種別	色調	焼成	口縁(底部)残存率	法量 (cm)			形態的特徴・調整など
							口径	底径	器高(残存)	
58	11	7~8層	土師器 水差型土器	外面:25YR6/3にぶい黄 内面:10YR6/2灰黄褐	良好	1/12	8	(4.5)	外面:ナデ 凹線文 内面:ナデ	
59	11	3層	土師器 甕	外面:25YR5/6明赤褐 内面:10YR7/4にぶい黄橙	良好	1/2弱	10	(3.5)	外面:磨減 刻点文 内面:磨減	
60	11	3層	土師器 高坏	外面:75YR7/3にぶい橙 内面:10YR7/3にぶい黄橙	良好	1/3強 (底部径)	10	(8.7)	外面:磨減 内面:ナデ	
61	11	7~8層	土師器 鉢	外面:10YR6/3にぶい黄橙 5/1褐灰 内面:10YR6/3にぶい黄橙	良好	1/12	18	(5.2)	外面:ナデ(口縁端部) 波状文 櫛描文 内面:ナデ ハケ	
62	11	7~8層	土師器 甕	外面:10YR6/1褐灰 内面:10YR7/2にぶい黄橙	良好	1/6	14	(9)	外面:ナデ(口縁) ハケ 内面:ナデ 指オサエ?	
63	11	7~8層	土師器 甕	外面:10YR5/2灰黄褐 内面:10YR5/1褐灰	良好	1/20	18	(7.8)	外面:ハケの後ナデ? 内面:ナデ	
64	11	7~8層	土師器 甕か	外面:10YR5/2灰黄褐 内面:10YR7/3にぶい黄橙	良好	4/1	8	(4.6)	外面:ミガキ 内面:磨減	
65	12	断割り	土師器 甕	外面:25YR5/6明赤褐 内面:25YR5/6明赤褐	良好	1/10	13	(3.2)	外面:磨減 内面:磨減	
66	12	3層	土師器 無頸甕	外面:75YR6/3にぶい褐 内面:75YR6/3にぶい褐	良好	1/6弱	13	(4.5)	外面:ナデ(口縁端部) 櫛描文 2つ 孔あり 内面:ナデ	
67	12	断割り	石 用途不明	外面:N3/暗灰 内面:N3/暗灰			(残存長) 8.2	(残存幅) 3.3	(残存厚) 1.1	
68	12	断割り	石 石砲丁	外面:75Y6/2灰オリーブ 内面:10Y6/1灰			(残存長) 14.7	(残存幅) 4.2	(残存厚) 0.7	先端少し欠ける
69	13	3層	土師器 壺	外面:10YR8/4浅黄橙 75YR7/4にぶい橙 内面:10YR8/4浅黄橙 75YR7/4にぶい橙	良好	1/8	20.6	(4.6)	外面:磨減 内面:磨減	
70	13	4か5層	土師器 甕か	外面:25YR5/6明赤褐 内面:25YR5/6明赤褐~75YR7/4にぶい橙	良好	1/10弱	8	(9.6)	外面:ミガキか 内面:磨減	
71	14	断割り	土師器 高坏	外面:75YR6/4にぶい橙 内面:75YR6/4にぶい橙	良好	1/5弱	13	(4.1)	外面:ナデ(口縁部) ハケ 内面:ナデ	
72	14	9層	土師器 壺	外面:75YR4/1褐灰 内面:10YR5/2灰黄褐	良好	9/10	15	(5.8)	外面:ナデ 内面:ナデ	
73	14	断割り	土師器 甕	外面:10YR5/2灰黄褐 75YR5/1褐灰 内面:10YR6/2灰黄褐~3/1黒褐	良好	3/4	13	(5.1)	外面:ヨコナデ(口縁)、タタキ(胴部) 内面:ヨコナデ(口縁)、ナデ(胴部)	
74	14	9層	土師器 甕	外面:75YR4/2灰褐 内面:25Y6/2灰黄 25Y3/1黒褐	良好	1/9	16	(5.5)	外面:ナデ(口縁) タタキ(胴部) 内面:ナデ	
75	14	断割り	土師器 甕	外面:5YR7/6橙 内面:5YR7/6橙	良好	1/7	22.2	(3.5)	外面:ナデ(口縁部) ハケ(胴部) 内面:ナデ	
76	15	壁面精査	土師器 鉢	外面:75YR6/4にぶい橙 内面:75YR6/4にぶい橙	良好	1/10	40.6	(7.2)	外面:波状文 櫛状文 刻み目 格子文 内面:ナデ ハケ	
77	15	8層	土師器 鉢	外面:75YR6/3にぶい褐 内面:75YR6/3にぶい褐~75YR5/1褐灰	良好	1/12	41.2	(6.8)	外面:ナデ 刻み目 ハケ ハケのち 波状文 内面:ハケのちナデ	
78	15	8層	土師器 鉢	外面:75YR6/3にぶい褐 7/2明褐灰 内面:75YR6/3にぶい褐 7/2明褐灰	良好	1/10	25.6	(6.8)	外面:ナデ(口縁部) 櫛状文 内面:ナデのちヨコミガキ	
79	15	7~8層	土師器 鉢頸部か	外面:10YR4/1褐灰(脚内部) 5Y6/4にぶい黄 内面:10YR5/3にぶい黄褐	良好	底部は全周	8.8	(8.4)	外面:ミガキ 内面:ナデ?	
80	15	7~8層	土師器 甕	外面:5YR6/4橙 5YR4/1褐 内面:25YR6/6橙 10YR5/1褐灰	良好	1/6	27.4	(6)	外面:刻み目 ハケ 内面:ハケ	
81	15	7~8層	土師器 甕	外面:75YR4/2灰褐~75YR6/4にぶい橙 内面:75YR6/4にぶい橙	良好	1/4	(6)	外面:刻み目 ハケ 内面:ハケ(口縁部)		
82	15	7層	土師器 甕	外面:75YR6/4にぶい橙 内面:75YR6/4にぶい橙	良好	1/8	37	(5.9)	外面:ナデ(口縁端部) 刻み目 ハケ 内面:ハケ	
83	15	8層	土師器 甕	外面:10YR2/1黒 内面:25Y6/2灰黄	良好	1/4	22.6	(7.7)	外面:ナデ 内面:ナデ(口縁部) ハケ(胴部)	
84	15	8層	土師器 甕	外面:75YR5/2灰褐 内面:10YR6/3にぶい褐	良好	底部は全周	7.6	(6.8)	外面:ナデ 内面:ハケ	
85	15	8層	土師器 甕	外面:25Y6/2暗灰黄 内面:10YR5/2灰黄褐	良好	1/8	35.4	(7.5)	外面:ナデ(口縁) ハケ 内面:ナデ	
86	15	壁面精査	土師器 甕	外面:10YR7/3にぶい黄橙 内面:10YR7/3にぶい黄橙	良好	1/12	35.6	(9.8)	外面:平行文(口縁部) 内面:ハケ	
87	15	7~8層	土師器 壺	外面:10YR6/3にぶい黄橙 内面:75YR7/3にぶい橙	良好	1/5	9	(4.1)	外面:ナデ(口縁部) 波状文 櫛描文 内面:ナデ	
88	15	7層	土師器 壺	外面:10YR 6/4にぶい黄褐 内面:10YR 7/4にぶい黄褐	良好	1/6	13.6	(6.3)	外面:ナデ(口縁部) 波状文 櫛描文 内面:ナデ(口縁部)	
89	15	7~8層	土師器 壺	外面:75YR6/2灰褐 内面:75YR6/2灰褐	良好	1/5	14	(7.2)	外面:波状文、櫛描文 内面:ヨコナデ(口縁)	
90	15	7層	土師器 壺	外面:10YR7/3にぶい黄橙 内面:10YR7/4にぶい黄橙	良好	—	(頸部) 16.0	(9.5)	外面:ナデ 櫛描文 波状文 内面:ナデ	
91	15	7~8層	土師器 壺	外面:10YR6/4にぶい黄橙 内面:10YR7/4にぶい黄橙	良好	1/14	30.2	(7.1)	外面:ナデ(口縁) 刻み目 内面:ナデ	
92	15	8層	土師器 壺	外面:75YR7/4にぶい橙 75YR6/1褐灰 内面:75YR6/4にぶい橙	良好	1/7	41.2	(6.7)	外面:ミガキ?のち斜格子文 内面:ミガキ、ハケもしくはナデ	
93	15	精査	土師器 鉢	外面:75YR7/4にぶい橙 10YR4/1褐灰 内面:75YR7/4にぶい橙	良好	1/8	40	(11.6)	外面:ナデ 刻み目 櫛描文 内面:ナデ	
94	15	壁面精査	土師器 高坏	外面:5YR6/6橙~10YR4/2灰黄褐 内面:(皿部分) 10YR5/2灰黄褐	良好	脚部は全周	(12.5)	外面:ミガキ 内面:ナデ		
95	15	6層	土師器 広口壺	外面:75YR6/4にぶい橙 内面:75YR6/4にぶい橙	良好	1/10	30	(3.1)	外面:ナデ 波状文 刻み目 ミガキ 内面:ナデ	
96	15	壁面精査	土師器 細頸壺	外面:75YR6/3にぶい褐~10YR5/1褐灰 内面:10YR6/4にぶい黄褐~10YR6/1褐灰	良好	1/8 (頸部)	(13.1)	外面:ハケのちヨコミガキのち櫛状文 内面:ミガキ		
97	15	6層	土師器 壺	外面:75YR7/6橙 内面:5YR7/6橙	良好	1/8	11.8	(4.8)	外面:ナデ(口縁部) ハケ 内面:ナデ(口縁部) ハケ	
98	15	壁面精査	石 砥石	—			(残存長) 6	(残存幅) 8.5	(残存厚) 4.8	擦り痕あり
99	15	7層か	石 砥石	—			(残存長) 4.3	(残存幅) 4	(残存厚) 0.6	側面に朱附着 平面も若干朱附着 擦り痕あり
100	15	7~8層	木製品 高坏	—			—	(8.8)		
101	16	3層	土師器 皿	外面:10YR6/3にぶい黄橙 内面:10YR6/3にぶい黄橙	良好	1/4弱	9	(1.05)	外面:ヨコナデ ナデ 内面:ナデ	

第2節 安倍寺跡第22次発掘調査報告

1. はじめに

安倍寺跡第22次調査は、安倍木材団地1丁目5-7でおこなった、個人住宅建設に伴う発掘調査である。調査地は安倍寺跡¹⁾の北東隅に位置しており、安倍文殊院の南西、安倍史跡公園の北東に立地する。

周辺の調査では、今回の調査地のおよそ50m北でおこなわれた安倍寺遺跡第12次調査において、古代の官道である阿倍山田道の道路側溝と考えられる古代の石組の溝が検出されており、第12次調査からおよそ25m南に位置する第14次調査でも、第12次調査で検出された溝の延長の可能性のある溝が検出されている。今回の調査地は、安倍寺遺跡第12・14次調査の南に隣接していることから、阿倍山田道の道路側溝の延長を確認することが期待された。また、安倍寺の北限もしくは東限付近にあることから、安倍寺の寺域を考えるうえで重要な場所である。

調査は平成27年9月18日から10月17日におこなった。調査面積は約72㎡である。

2. 調査の方法と基本層序

申請地の中央東寄りに南北2.5m×東西10mのトレンチを設定した。その後、トレンチの北側に南北6m×東西8m、東側に南北2.5m×東西約3mの拡張をおこなった。基本層序は上から現代耕作土、旧耕作土・床土、遺構ベース層と続いている。現代耕作土から旧耕作土とその床土(図47-1~17)までをバックホーで掘削し、それ以降を人力に切り替え掘削をおこなった。

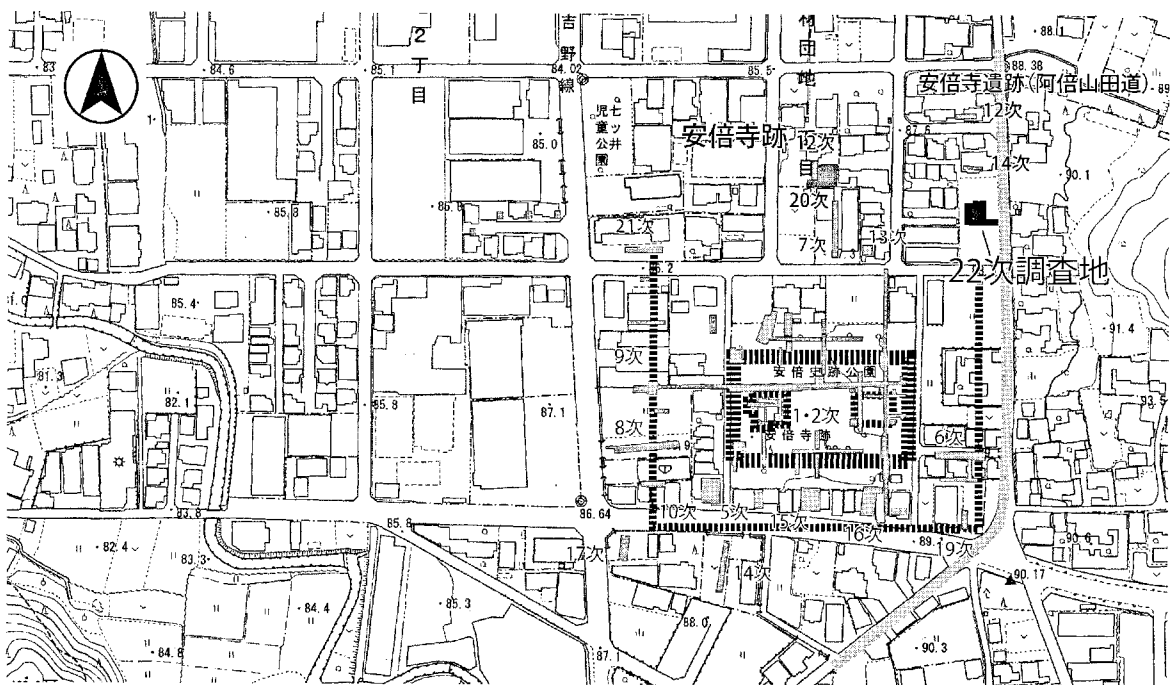


図45 調査区周辺地図(S=1/4,000)

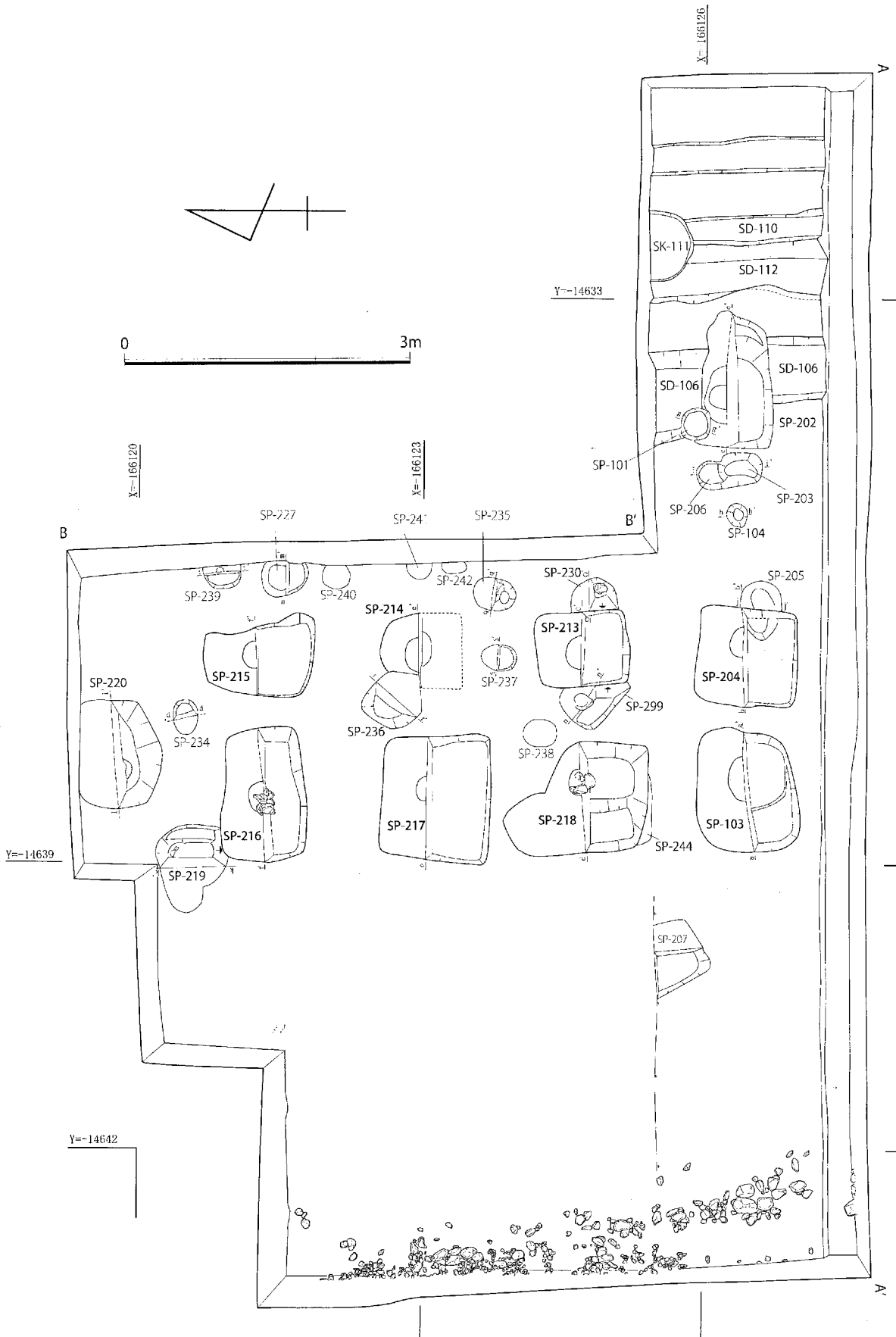
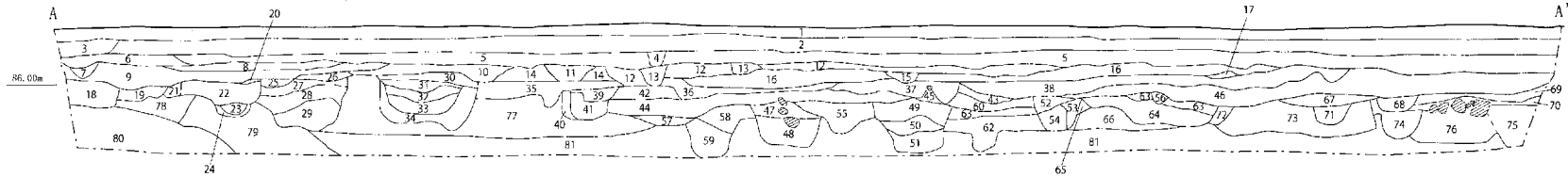


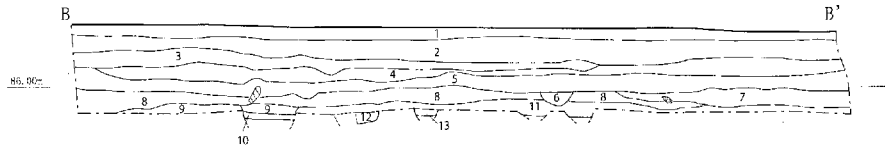
图46 調査区平面図 (S=1/60)

南壁断面



- | | | | | | |
|--|----------------|---|--------------------|---|--------------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 極細砂 2. 2.5Y 6/3 にぶい黄色 細砂 3. 2.5Y 5/2 暗灰黄色 細砂～粗砂 (Mg少量沈着) 4. 10YR 6/3 にぶい黄褐色 シルト質細砂 【素掘り掘場土】 5. 10YR 5/6 黄褐色 粗砂 【旧耕作土】 6. 2.5Y 5/3 黄褐色 細砂～極細砂 7. 2.5Y 5/2 暗灰黄色 細砂～粗砂 (Mg少量沈着) 8. 10YR 5/6 黄褐色 細砂 9. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 細砂～粗砂 10. 10YR 5/6 黄褐色 細砂 11. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 細砂～粗砂 (φ2～4mmの礫混じる) 12. 2.5Y 5/3 黄褐色 細砂～粗砂 (Mg少量沈着) 13. 10YR 5/3 にぶい黄褐色 粗砂 (拳大の礫と瓦混じる) 14. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 細砂 (φ3mm程度の礫混じる) 15. 2.5Y 5/6 黄褐色 細砂 (φ3cm程度の礫混じる) 16. 2.5Y 4/4 オリーブ褐色 細砂 17. 2.5Y 4/6 オリーブ褐色 細砂～粗砂 18. 10YR 4/2 灰黄褐色 細砂 (Mg少量沈着) 19. 10YR 4/6 褐色 細砂～粗砂 (拳大の礫混じる) 20. 2.5Y 5/4 オリーブ褐色 シルト質細砂 21. 2.5Y 4/2 暗灰黄色 細砂～粗砂 22. 2.5Y 5/2 暗灰褐色 細砂 (φ2～4mmの礫と土器が多く混じる) 23. 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 粗砂 24. 10YR 5/1 褐色 細砂～粗砂 | <p>【現代耕作土】</p> | <ol style="list-style-type: none"> 25. 10YR 3/4 暗褐色 細砂 (炭少量混じる) 26. 2.5Y 5/4 黄褐色 細砂 (Mg少量沈着) 27. 2.5Y 5/2 暗灰黄色 粗砂 28. 2.5Y 4/2 暗灰黄色 シルト質細砂 29. 10YR 4/4 褐色 粗砂～中砂 30. 10YR 3/4 暗褐色 細砂 (φ2～3mmの礫混じる) 31. 2.5Y 4/4 オリーブ褐色 細砂～極細砂 32. 2.5Y 4/4 オリーブ褐色 細砂質シルト (φ5mm～1cmの礫と炭混じる) 33. 2.5Y 5/4 黄褐色 細砂 34. 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 シルト質細砂 35. 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 細砂 (φ3～5mmの礫混じる) 36. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 粗砂 (φ3～4mmの礫と炭混じる) 37. 10YR 5/6 黄褐色 粗砂 (拳大の礫混じる) 38. 10YR 4/2 灰黄褐色 粗砂 39. 10YR 3/4 暗褐色 細砂～粗砂 (炭少量混じる) 40. 10YR 3/3 暗褐色 細砂 (炭少量混じる) 41. 10YR 4/4 褐色 シルト質細砂 (炭、焼土混じる) 42. 2.5Y 4/4 オリーブ褐色 粗砂 43. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 粗砂 (炭少量混じる) 44. 10YR 4/8 褐色 粗砂 45. 10YR 4/4 褐色 細砂 (炭少量混じる) 46. 2.5Y 5/6 黄褐色 細砂 (炭少量混じる) 47. 10YR 4/4 褐色 シルト質細砂 (φ2～3mmの礫混じる) 48. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 シルト質細砂 (拳大の礫混じる) | <p>【SD-112 埋土】</p> | <ol style="list-style-type: none"> 49. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 細砂～極細砂 50. 10YR 3/3 暗褐色 細砂～極細砂 (φ1～2mmの礫混じる) 51. 10YR 4/6 褐色 シルト質細砂 (φ1～2mmの礫混じる) 52. 10YR 4/4 褐色 極細砂 53. 10YR 4/6 褐色 シルト質細砂 54. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 シルト質細砂 (φ2～3mmの礫混じる) 55. 10YR 5/3 にぶい黄褐色 細砂～粗砂 56. 10YR 4/4 褐色 シルト質細砂 (φ2～4mmの礫混じる) 57. 10YR 4/2 灰黄褐色 細砂～極細砂 58. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 細砂 (10YR 6/8 明褐色のφ1cmのブロック混じる) 59. 10YR 3/2 黒褐色 シルト質細砂 (10YR 6/8 明褐色のφ5mm～1cmの礫混じる) 60. 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 粗砂 61. 2.5Y 4/4 オリーブ褐色 シルト質細砂 62. 2.5Y 4/1 灰灰色 シルト質極細砂 63. 2.5Y 4/4 オリーブ褐色 シルト質極細砂 (炭少量混じる) 64. 2.5Y 4/4 オリーブ褐色 細砂～粗砂 65. 2.5Y 4/2 暗灰黄色 シルト質極細砂 66. 2.5Y 3/3 暗オリーブ褐色 シルト質細砂 67. 2.5Y 5/2 暗灰黄色 シルト質細砂 (φ2～3mmの礫混じる) 68. 2.5Y 4/4 オリーブ褐色 粗砂 69. 10YR 4/4 褐色 細砂～粗砂 70. 10YR 5/2 灰黄褐色 細砂～極細砂 71. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 極細砂 72. 2.5Y 5/3 黄褐色 シルト質細砂 73. 2.5Y 4/4 オリーブ褐色 細砂～極細砂 (10YR 6/8 明黄褐色のブロック混じる) 74. 2.5Y 5/4 黄褐色 シルト質極細砂 75. 10YR 4/4 褐色 極細砂 76. 2.5Y 4/6 オリーブ褐色 細砂 77. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 細砂 78. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 細砂 79. 2.5Y 3/2 黒褐色 シルト質細砂 80. 2.5Y 4/6 オリーブ褐色 極細砂 81. 10YR 3/3 暗褐色 細砂 | <p>【SD-106 埋土】</p> |
|--|----------------|---|--------------------|---|--------------------|

拡張区 東壁断面



- | | | | |
|--|---|--------------------|--------------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 南壁断面1, 2と同じ 2. 南壁断面1, 2と同じ 3. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 細砂 4. 10YR 5/6 黄褐色 極細砂 5. 10YR 4/4 褐色 極細砂 (炭が混じる) 6. 10YR 5/2 灰黄褐色 細砂 (7.5YR 5/8 明褐色のブロック多量に混じる) 7. 10YR 4/5 にぶい黄褐色 細砂～粗砂 | <ol style="list-style-type: none"> 8. 10YR 4/2 灰黄褐色 細砂 9. 10YR 5/2 灰黄褐色 細砂 (φ5mm～1cmの礫混じる) 10. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 極細砂 (φ2～3mmの礫混じる) 11. 10YR 3/4 暗褐色 シルト質細砂 12. 10YR 4/4 褐色 細砂～極細砂 13. 10YR 3/3 暗褐色 粗砂 【SP-240 埋土】 | <p>【SP-236 埋土】</p> | <p>【SP-227 埋土】</p> |
|--|---|--------------------|--------------------|



図47 調査区断面図 (S=1/60)

3. 検出遺構

調査区中央付近で大型の柱穴を3基検出したため、北側へ調査区を拡張し調査をおこなった。また、当初の調査区内には阿倍山田道の道路側溝と思われる遺構が検出されなかったため、さらに東側へ調査区の拡張をおこなった。主な検出遺構は、柱穴や古代の溝、石列である。

柱穴群 (SP-103、204、213~218) トレンチの中央から東寄りに、柱穴を8基検出した。規模はいずれも1辺1.0mから1.5m程で形状は方形である。SP-214に関しては、SP-236によって攪乱を受けており正確な形状は不明であるが、これらが1つの施設を形成する柱穴群であると考えられることから、もとは方形であったと判断する。芯々間の距離は東西が約1.4m、南北が約1.7mで、柱の規模は直径約35cmである。これら8基の柱穴は、芯々間の距離が一定であり柱の規模も同じことから、3間以上×1間の同一建物であると考えられる。

柱穴群の内、SP-103は、柱穴検出面の上層で柱の抜き取りと考えられる痕跡を検出している。SP-204は柱穴の掘り方と柱痕跡の検出面が層位的に異っていた。上層では柱痕跡のみを検出したため、遺構ベース面を古代の面まで下げ、SP-204に対応する柱の掘り方を確認するまでは、SP-103と一連の柱穴であると考えすることは困難であった。柱痕跡と柱の掘り方の間の層は、柱を建てた後の整地土か、建物廃絶以後しばらく柱のみが存在していた可能性が考えられる。

SP-103とSP-216の柱跡からは多量の平瓦と丸瓦が出土しており、柱の抜き取り後に埋められたものと考えられる。SP-103に関しては、柱痕跡の下層からも瓦が多量に出土している。上層の抜き取り後に入れられたと考えられる瓦と、下層で出土した瓦の間には瓦が出土しない層が確認できることから、下層の瓦は柱を建てる際に埋められた可能性があるが、他の柱穴ではこのような出土状況が確認できていないため断定はできない。出土遺物は瓦の他に、須恵器の坏身などが出土している。

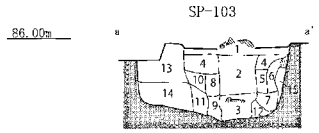
その他の柱穴 (SP-202、220、229、230、236、244) 柱穴群の周辺からは複数の柱穴を検出している。SP-202は柱穴群から東へ約2.7m離れた位置で検出された柱穴である。柱穴の規模は1辺がおおよそ1.5mと柱穴群と同規模であり、柱穴の埋土も先述した8基の柱穴群と酷似していることから、同一の建物である可能性も考えられる。しかし、検出位置がSP-204よりも20cmほど北に位置しており、主軸が他の柱穴とずれてしまうことから断定はできない。この柱穴はSD-106に重複している。

SP-220はトレンチの北端で検出した柱穴である。半分は調査区外のため正確な形はわかっていないが、おそらく隅丸方形の柱穴と思われる。規模は1辺おおよそ1.2mで柱の規模は20cmほどである。須恵器の坏身などが出土している。

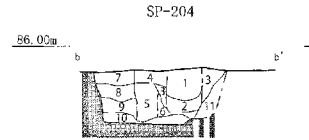
SP-229、230、244は、これらの柱穴に柱穴群が重複する形で検出した柱穴である。柱穴群によって攪乱を受けており正確な形状や規模は不明であるが、おそらく長辺が60cm前後の方形の柱穴であったと考えられる。須恵器の坏身や土師器の塊が出土している。

SP-236はSP-214に重複する形で検出された柱穴である。規模は1辺52cm、深さ43cmの隅丸方形の柱穴である。柱の痕跡は確認できていない。出土遺物は須恵器の坏蓋が出土している。

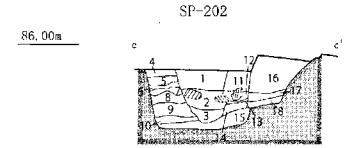
溝 (SD-106、112) トレンチ東拡張区で南北方向に延びる溝SD-106とSD-112を検出した。それ



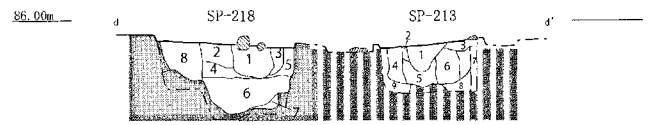
1. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 粗砂 (瓦多く含む)
2. 10YR 4/4 褐色 シルト質細砂
3. 10YR 4/1 褐灰色 シルト質極細砂 (瓦多く含む)
4. 10YR 4/6 褐色 シルト質極細砂
5. 10YR 4/6 褐色 極細砂
6. 10YR 5/2 灰黄褐色 細砂 (φ1~2mmの礫混じる)
7. 10YR 5/6 黄褐色 シルト質極細砂
8. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 細砂
9. 10YR 5/2 灰黄褐色 シルト質細砂 (7.3YR 6/6 橙色のブロック含む)
10. 10YR 4/4 褐色 細砂
11. 10YR 4/2 灰黄褐色 細砂
12. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 シルト質細砂 (φ2~3mmの礫混じる)
13. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 細砂
14. 10YR 4/4 褐色 極細砂



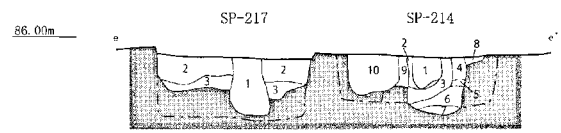
1. 10YR 5/2 灰黄褐色 粘質シルト (φ1mmの礫混じる)
2. 10YR 3/2 黒褐色 シルト質極細砂
3. 10YR 5/3 にぶい黄褐色 細砂 (10YR 4/2 褐色のブロック含む)
4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 細砂
5. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 粗砂混じりシルト質細砂
6. 10YR 3/4 暗褐色 シルト質極細砂
7. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 極細砂
8. 10YR 4/2 灰黄褐色 極細砂
9. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 シルト質細砂 (φ2~3mmの礫混じる)
10. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 シルト質細砂
11. 【SP-205の理上】 (SP-205の5と同じ)



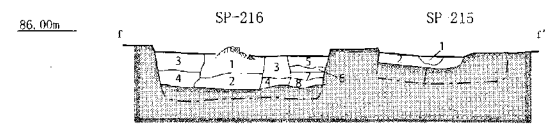
1. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 細砂 (礫混じる)
2. 10YR 5/2 灰黄褐色 シルト質細砂
3. 10YR 6/1 褐灰色 粗砂
4. 10YR 3/3 暗褐色 極細砂
5. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 細砂
6. 10YR 3/4 暗褐色 シルト質極細砂
7. 10YR 5/6 黄褐色 細砂
8. 10YR 4/2 灰黄褐色 極細砂
9. 10YR 5/2 灰黄褐色 粗砂
10. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 シルト質細砂
11. 10YR 4/6 褐色 極細砂
12. 10YR 5/1 褐灰色 粗砂
13. 10YR 4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂
14. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 シルト質細砂
15. 10YR 6/2 灰黄褐色 極細砂
16. 10YR 4/4 褐色 細砂 (φ2~4mmの礫混じる)
17. 10YR 3/4 暗褐色 細砂
18. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 粗砂



- | | |
|---|---|
| <p>【SP-218 土層】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 10YR 5/4 灰黄褐色 極細砂質シルト 2. 2.5Y 4/6 オリーブ褐色 粗砂 3. 10YR 4/6 褐色 細砂 4. 10YR 4/6 褐色 シルト質細砂 (φ2~3mmの礫混じる) 5. 10YR 4/4 褐色 粗砂 6. 10YR 4/6 褐色 シルト質極細砂 (炭混じる) 7. 10YR 4/4 褐色 シルト質細砂 8. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 細砂 | <p>【SP-213 土層】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 10YR 5/1 褐灰色 粗砂混じり粘質シルト 2. 10YR 4/6 褐色 極細砂 (10YR 5/1 褐灰色のブロック混じる) 3. 10YR 4/4 褐色 細砂 4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 極細砂 (10YR 5/8 黄褐色のブロック混じる) 5. 10YR 3/2 黒褐色 細砂 (10YR 5/8 黄褐色のφ1~2mmのブロック混じる) 6. 10YR 3/3 暗褐色 シルト質極細砂 7. 【SP-230理上】 (SP-230の5と同じ) 8. 【SP-230理上】 (SP-230の4と同じ) 9. 【SP-299理上】 (SP-299の2と同じ) |
|---|---|



- | | |
|--|--|
| <p>【SP-217 土層】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 10YR 6/1 灰褐色 粘質シルト (柱材残る) 2. 10YR 5/8 黄褐色 細砂 (φ10cmの礫混じる) 3. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 細砂 (φ3~5mmの礫混じる) | <p>【SP-214 土層】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 10YR 5/2 灰黄褐色 シルト質細砂 (柱材少量残る) 2. 10YR 6/4 にぶい黄褐色 細砂 3. 2.5Y 5/3 黄褐色 極細砂質シルト 4. 10YR 6/4 にぶい黄褐色 細砂 5. 2.5Y 4/4 オリーブ褐色 細砂 (粘土が少量混じる) 6. 10YR 4/4 褐色 シルト質極細砂 7. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 細砂 8. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 細砂 9. 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 細砂 (粘土混じる) 10. 【SP-236理上】 (SP-236の1と同じ) |
|--|--|



- | | |
|---|--|
| <p>【SP-216 土層】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 10YR 6/2 灰黄褐色 極細砂 2. 10YR 4/4 褐色 細砂 3. 10YR 4/6 褐色 細砂 (φ2~3mmの礫混じる) 4. 10YR 5/6 黄褐色 極細砂 5. 10YR 4/4 褐色 粗砂 6. 10YR 4/2 にぶい黄褐色 シルト質極細砂 7. 10YR 4/6 褐色 細砂 (φ2~4mmの礫混じる) 8. 10YR 3/3 暗褐色 細砂 | <p>【SP-215 土層】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 10YR 4/4 褐色 細砂 2. 10YR 5/3 にぶい黄褐色 細砂 |
|---|--|



図48 遺構断面図①(S=1/60)

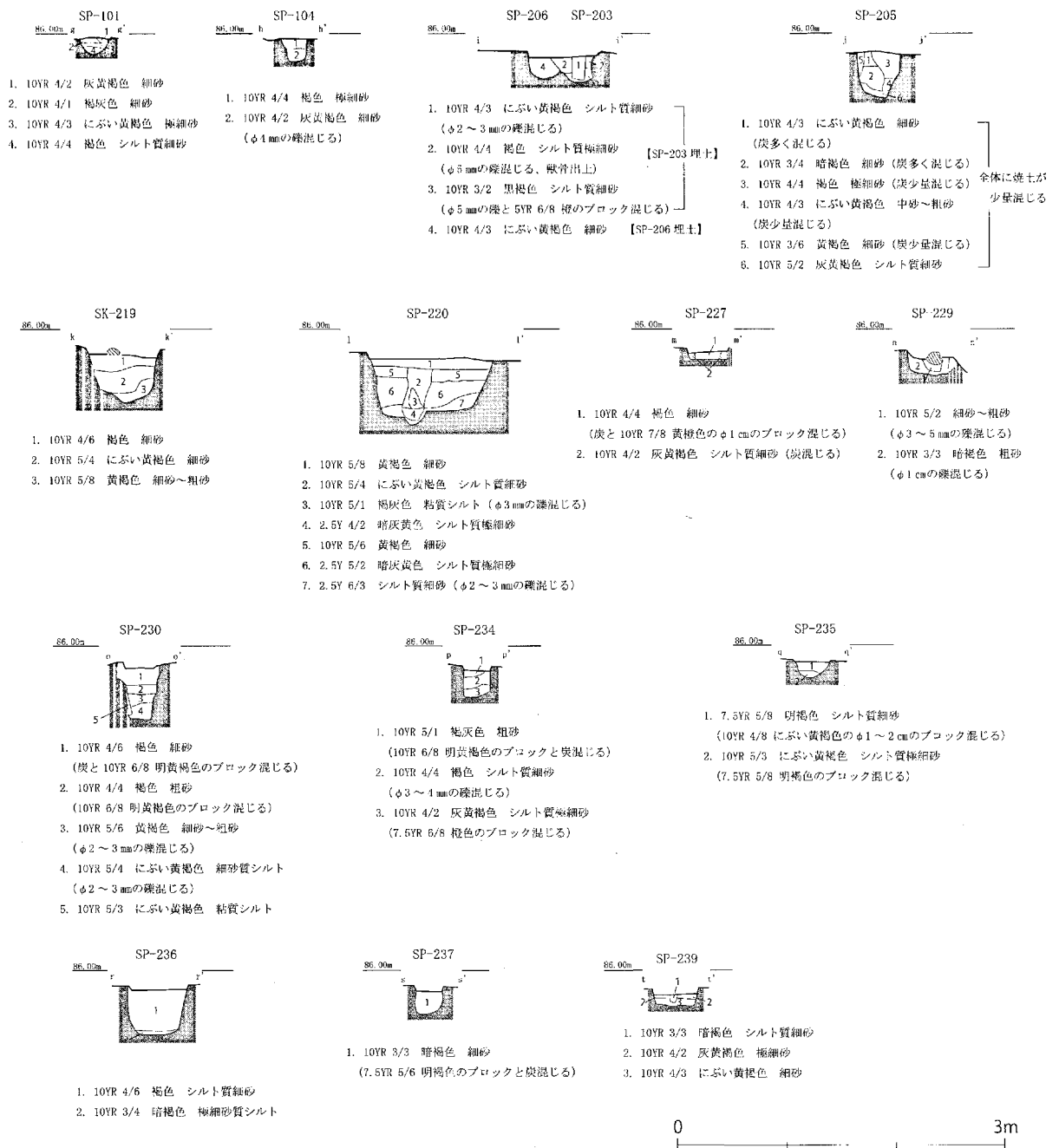


図49 遺構断面②(S=1/60)

ぞれの規模はSD-106で幅80cm、深さ35cmほどで、SD-112は検出幅70cm、深さ40cmほどである。SD-112は東側にSD-110が重複しており正確な幅は不明である。SD-106は溝の中央付近でSP-202が重複している。このSD-106は一度堆積した土を再び掘削し直していることから、長く溝として機能していたと推測できる。時期についてはどちらの遺構からも土器が小片しか見つかっておらず、断定することは困難である。

調査区内ではSD-112より東になると、旧耕作土より下層の土層堆積の様相が西側と異なっており、遺物も西側とは違い弥生土器が出土している。

石列 トレンチの西端で石列を検出した。北西から南東へ向かって伸びており、トレンチ外まで続い

ている。この石列の下からは、須恵器の壺の口縁部が出土しており、その土器から6世紀後半以降にこの石列が形成されたと考えられる。

下層遺構 SP-204の掘り方の下層から古墳時代中期頃の遺構を確認した。今回の調査では下層遺構まで調査をおこなっていないため形態や性格は不明であるため図化していない。この遺構からは、土師器の甕と甑がまとまった状態で出土している。

東拡張区のSD-110、112の下層から弥生時代の土坑を検出した。遺物は弥生時代後期の壺が出土している。

4. 出土遺物 (図51~55、図版26~29)

遺物はコンテナ数にして16箱分が出土した。内容は瓦や土器が大半である。土器は図51・52、瓦は図53~55の通りである。

土器 (1・2) は柱穴群の内、SP-213とSP-214の柱跡から出土した坏身である。(3) は柱穴群周辺で出土した坏身である。(4~9) 柱穴群周辺で検出された遺構から出土した土器である。図化できた大半が坏身であり、受部に凹線を施している。(10) はSP-236出土の坏蓋である。(11) はSD-110から出土した須恵器の甕である。装飾はほとんど施されていないが、外面にわずかにカキ目が施されている。(12・13) は石列付近で出土した土器である。その内(12) は石列の下層から出土した須恵器の壺である。口縁部は外反しており、全面に波状文による装飾が施されている。(14・15) は包含層内

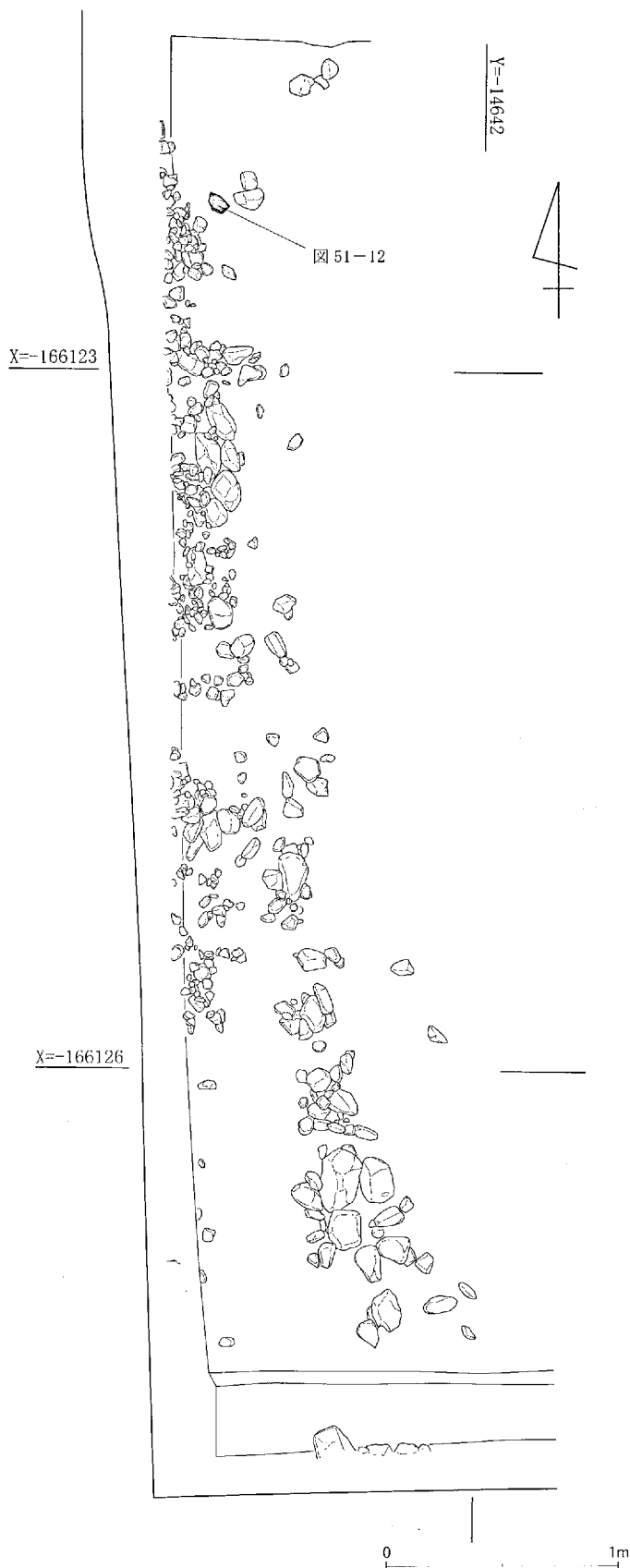


図50 石列平面図 (S=1/30)

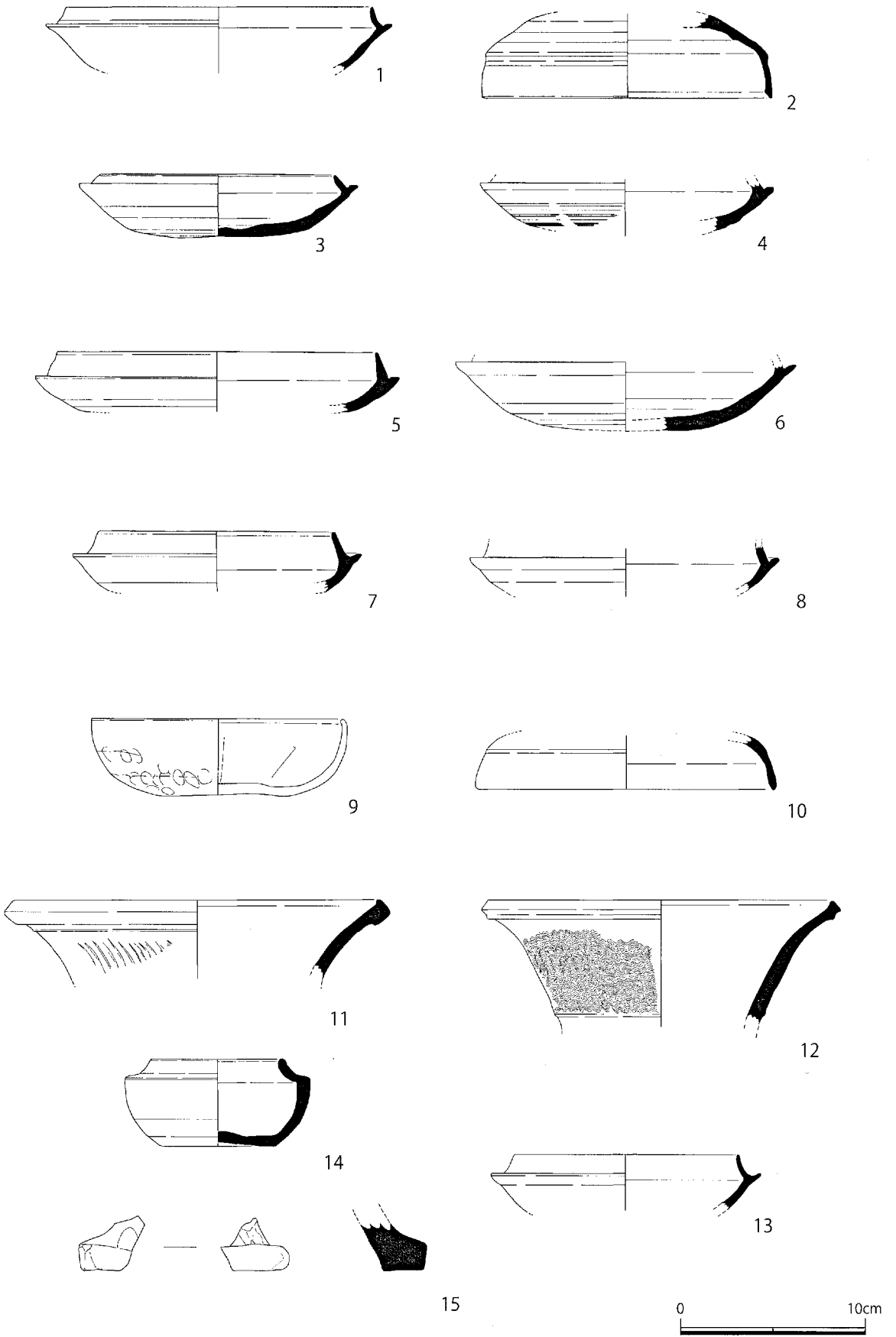
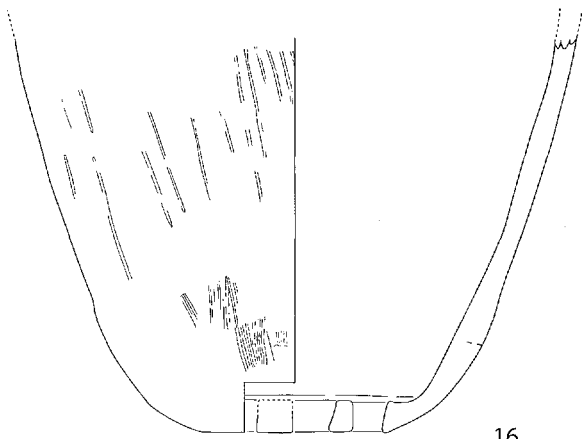
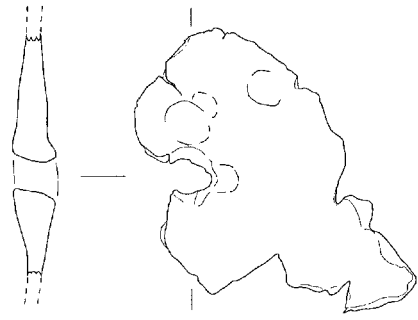


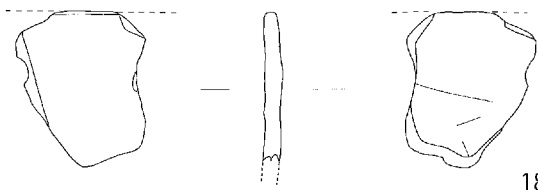
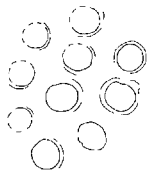
图51 調査区出土土器①(S=1/3)



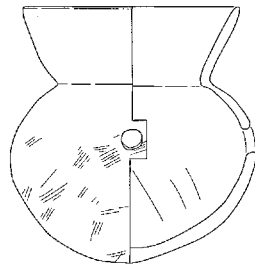
16



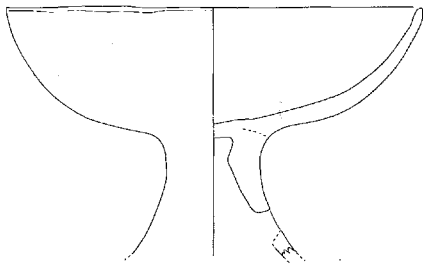
17



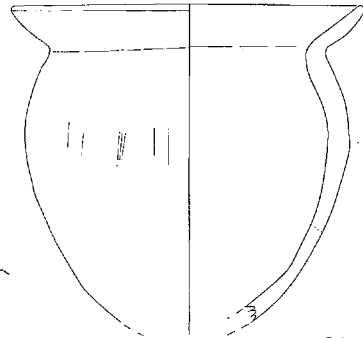
18



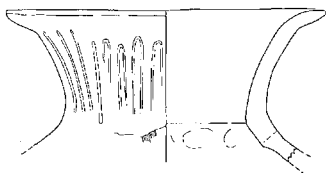
19



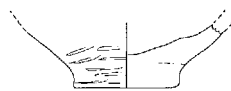
20



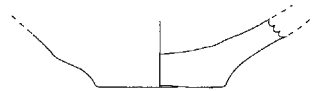
21



22



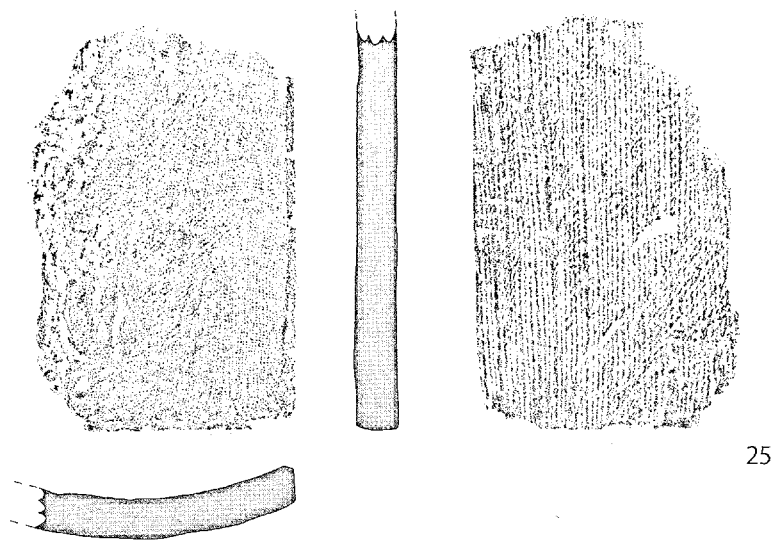
23



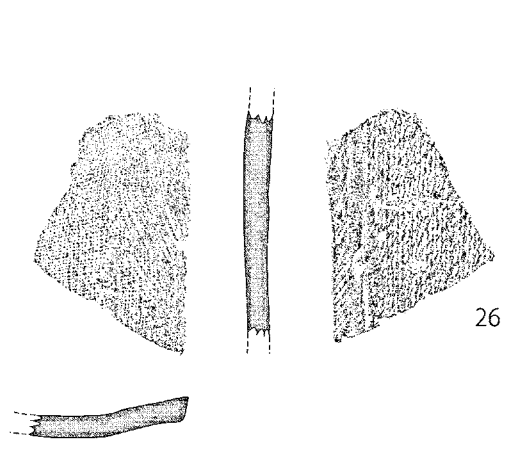
24



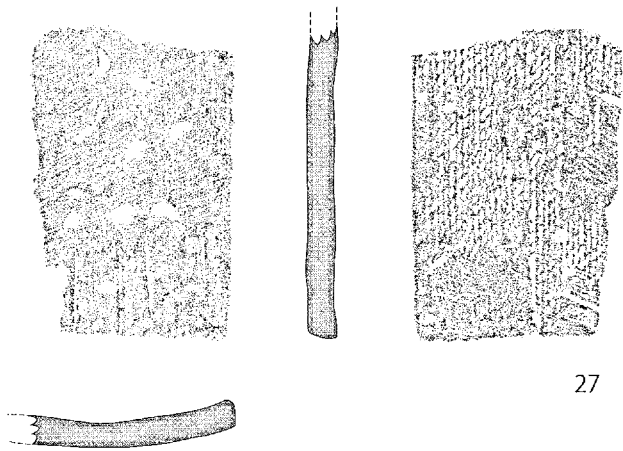
图52 調査区出土土器②(S=1/3)



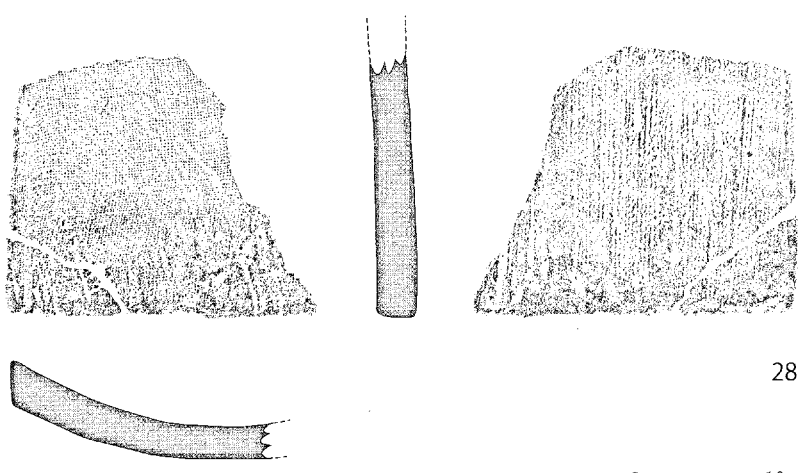
25



26



27



28



图53 調査区出土瓦①(S=1/5)

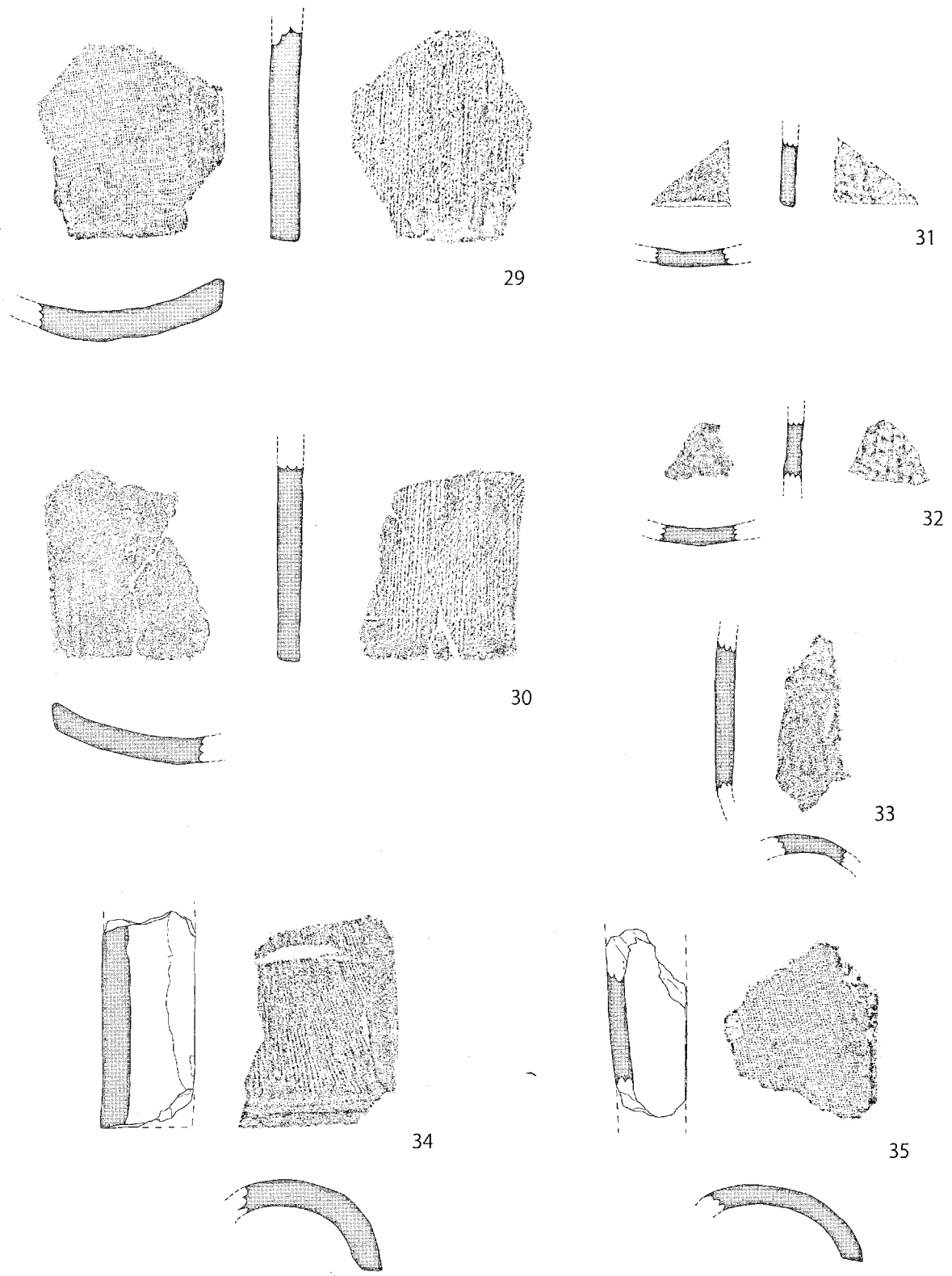


图54 調査区出土瓦②(S=1/5)

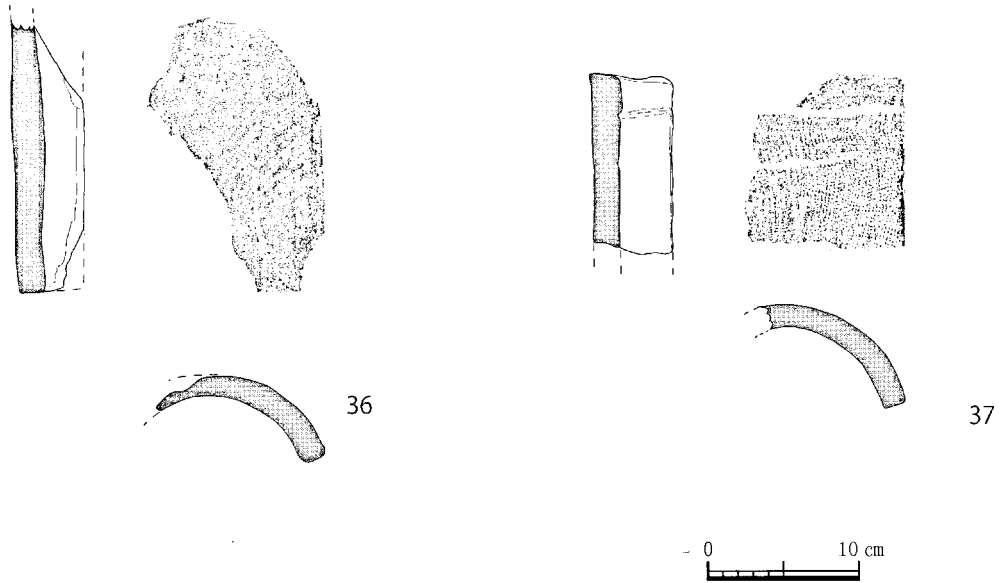


図55 調査区出土瓦③(S=1/5)

から出土した土器である。(15)は蹄脚円面硯の脚部の一部である。(16~19)はSP-204の下層遺構から出土した土器である。(16)は甑の胴部である。内外面ともに摩滅が著しく細かな調整は不明であるが、一部にミガキやハケといった調整が確認できる。(17)は甑の把手と胴部の接合部分である。胴部の器壁が外側に向かって変形しており、把手は内側から挿入していることがわかる。(18)は直口する甑の口縁部である。(16~18)は同一個体である。(21~24)は東拡張区の下層出土土器である。東拡張区の下層からは、調査区の西側からは出土していない弥生土器が多数出土している。いずれも弥生時代後期の土器である。

瓦 (25~37)は柱穴群から出土した瓦である。(25~27・34・35)はSP-103、(28~30・36・37)はSP-216出土の瓦である。(25~27)は平瓦で、いずれも凹面には布目が残り、凸面には縄目タタキが施されている。(34~37)は丸瓦である。凹面には布目が残り、凸面にはナデによりタタキの痕跡は残っていない。

(31)はSP-217、(32)はSP-218出土の平瓦である。いずれも凹面には布目が残り、凸面には格子目タタキが施されている。(33)はSP-202出土の丸瓦である。摩滅しているが凹面には布目を確認できる。

5. まとめ

今回の調査では大型の建物の存在が明らかになった。建物の全体を把握することができなかったため、どのような施設であったのか断定することはできないが、柱穴群を検出した位置が阿倍山田道に隣接していることや、柱穴群の並び方などから門跡である可能性が考えられる。門としての規模は、同じ桜井市内に所在する吉備池廃寺や山田寺などで推定されているものと比べると1間あたりの長さが短く規模が小さいと言える。位置的にも安倍寺の寺域の北東隅にあたり、小規模な門として機能し

ていたという可能性も考えられる。しかし、他の寺院跡で検出されている門跡は、2間×3間の八脚門であり、今回検出した柱穴群とは形態が異なる。また、SP-202が柱穴群と同じ建物を形成していると想定するならば、芯々間の距離がSP-204とSP-202はおよそ2.7mであり、他の柱穴群の東西の距離が1.4mに対してかなり離れていることから、庇付きの建物の可能性も考えられる。その場合、どのような施設であったかを想定するならば、食堂院や政所院といった施設を構成する建物の1つということが考えられる²⁾。

柱穴群の時期については、柱穴群に重複される形で検出した柱穴（SP-219、229、230）の時期が6世紀末から7世紀前半であると考えられるため、柱穴群はそれよりも後の7世紀半ば以降に建てられた建物である可能性が高い。安倍寺の創建時期は7世紀半ばと考えられているため一致する。

柱穴群と石列の間からは、柱穴群と同時期の遺構を検出することができなかった。下層では遺構を確認しており、柱穴群が形成された以降は、中世に素掘り溝が掘削されるまでこの場所に遺構が存在していなかったと考えられる。

東拡張区で検出されたSD-106は長期間機能していた可能性が考えられる。そのことから阿倍山田道の道路側溝であるという可能性も考えられるが、安倍寺遺跡第12次調査で検出された溝のように石組は確認できなかった。また、SD-106が道路側溝の延長上ならば安倍寺遺跡第14次調査で検出された溝から大きく東へ傾いていることになり、阿倍山田道の道路側溝であるという確証は得られなかった。

SD-106を境とした東拡張区と西側の調査区では下層の土の堆積の様相が異なっていた。出土遺物でも、東拡張区では他では出土していない弥生土器が出土しているが、古墳時代の遺物が出土していないなど差異が認められる。想像を膨らますのならば、東拡張区付近は古墳時代から古代にかけて、道として長い間利用されてきたために、頻繁に整地がおこなわれることがなかったと考えることができる。しかし、あくまで想像であるため、今後の周辺の調査が進むことによって明らかになることを期待したい。

(三沢)

【注釈】

- 1) 安倍寺跡は、嘉承元（1106）年に記された『東大寺要録』には「安倍倉橋大臣、伊勢・志摩・伊賀について記された『三國地誌卷九四』の中に記載されている永保2（1082）年の「大和国崇敬寺牒」によると、「安倍倉梯麻呂卿」が鎮護国家のために建立したと記されている。近年の研究で、安倍寺の創建年代は7世紀半ばにあたと考えられており、阿倍倉梯麻呂の活躍する時期と重なることから安倍寺が阿倍氏の氏寺であったと考えられている。
- 2) 柱穴群の性格について、大脇潔氏にご教授いただき検討をおこなった。

【参考文献】

- 丹羽恵二2005「安倍寺遺跡第14次発掘調査報告」『平成16年度国庫補助による発掘調査報告書』第26集 桜井市教育委員会
清水哲2012「安倍寺遺跡第12次発掘調査報告」『桜井市埋蔵文化財 2002年度 発掘調査報告書 6』財団法人桜井市文化財協会
毛利光俊彦編2002『山田寺発掘調査報告書』奈良文化財研究所創立50周年記念学報第63冊 奈良文化財研究所
小澤毅編2003『吉備池廃寺発掘調査報告書』奈良文化財研究所創立50周年記念学報第68冊 奈良文化財研究所
寺井誠2014「甕の観察点—長原遺跡で出土した古墳時代中期の資料の検討を基に—」『研究紀要 第12号』大阪歴史博物館

表5 出土遺物観察表

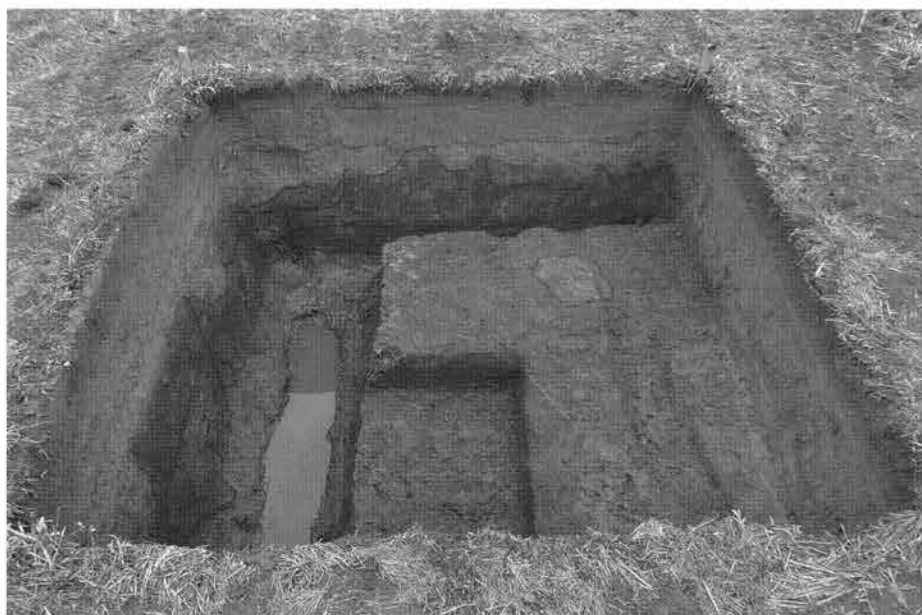
図版番号	種別	器種	遺構	技法 他	法量	残存	色調	備考
図51-1	須恵器	坏身	SP-213	内・外面：回転ナデ	口径：16.0cm 器高：(3.4) cm	口縁1/11周	内面：N 8/ 灰白 外面：N 6/ 灰	
図51-2	須恵器	坏蓋	SP-214	内・外面：回転ナデ 外面上部：回転ヘラケズリ	口径：15.0cm 器高：(4.3) cm	口縁1/5周	内面：N 7/ 灰白 外面：N 6/ 灰	
図51-3	須恵器	坏身	SP-216と SP-217の 間付近	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ	口径：12.2cm 器高：(3.2) cm	45%	内面：N 7/ 灰白 外面：N 6/ 灰	
図51-4	須恵器	坏身	SP-219	内・外面：回転ナデ 外面にカキメ	器高：(2.2) cm	破片	内面：N 7/ 灰白 外面：N 4/ 灰	重ね焼きの痕跡あり
図51-5	須恵器	坏身	SP-220	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ	口径：16.6cm 器高：(3.1) cm	口縁1/8周	内面：N 6/ 灰 外面：N 6/ 灰	
図51-6	須恵器	坏身	SP-220	内面：回転ナデ 外面：回転ヘラケズリ、回転ナデ	器高：(3.2) cm	20%	内面：N 5/ 灰 外面：N 5/ 灰	
図51-7	須恵器	坏身	SP-230	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ	口径：12.0cm 器高：(3.1) cm	口縁1/7周	内面：N 6/ 灰 外面：N 6/ 灰	
図51-8	須恵器	坏身	SP-230	内・外面：回転ナデ	器高：(2.0) cm	破片	内面：N 6/ 灰 外面：N 6/ 灰	
図51-9	土師器	壺	SP-244	内面：ナデ、工具痕あり 外面：ナデ、ユビオサエ	口径：13.2cm 器高：4.0cm	ほぼ完形	内面：7.5Y 7/6 橙 外面：7.5Y 7/4 にぶい橙	
図51-10	須恵器	坏蓋	SP-236	内・外面：回転ナデ	口径：(15.2) cm 器高：(2.8) cm	口縁1/12周	内面：N 6/ 灰 外面：N 7/ 灰白	
図51-11	須恵器	甕	SD-110	内・外面：回転ナデ 外面に刻み目	口径：20.0cm 器高：(4.1) cm	口縁1/7周	内面：N 7/ 灰白 外面：N 3/ 暗灰	内面に自然釉
図51-12	須恵器	壺	石列下層	内・外面：回転ナデ、ナデ 外面に波状文	口径：18.0cm 器高：(6.4) cm	口縁1/12周	内面：N 7/ 灰白 外面：N 6/ 灰	
図51-13	須恵器	坏身	石列付近	内・外面：回転ナデ	口径：12.0cm 器高：(2.9) cm	口縁1/6周	内面：10YR 7/1 灰白 外面：10YR 7/1 灰白	
図51-14	須恵器	短頸壺	東拡張区 平面	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ 底部：ナデ	口径：6.8cm 器高：4.5cm 底径：4.5cm	口縁1/3周底部 1/2周	内面：5B 5/1 青灰 外面：2.5GY 6/1 オリーブ灰	
図51-15	須恵器	硯	人力掘削		器高：(2.7) cm	-	内面：5Y 6/2 灰オリーブ 外面：5Y 7/1 灰白	自然釉付着 蹄脚円面硯
図52-16	土師器	甌	SP-204 下層遺構	外面：ミガキ、ハケ 底部：ナデ	器高：(15.6) cm 底径：7.0cm	15%	内面：5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：7.5YR 4/2 灰褐	17,18 と同一個体
図52-17	土師器	甌	SP-204 下層遺構	内面：ナデ 外面：ナデ、ユビオサエ	器高：(9.5) cm	把手接合部	内面：5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：7.5YR 4/3 褐	16,17 と同一個体
図52-18	土師器	甌	SP-204 下層遺構	内・外面：ナデ	器高：(6.2) cm 厚さ：0.6cm	口縁部破片	内面：5R 4/1 褐灰 外面：N 3/ 暗灰	16,18 と同一個体
図52-19	土師器	甌	SP-204 下層遺構	内面：ナデ、板ナデ 外面：ナデ、ハケ	口径：8.6cm 器高：10.1cm	ほぼ完形	内面：7.5YR 6/4 にぶい橙 外面：5YR 6/6 橙	黒斑あり
図52-20	土師器	高坏	SP-214 下層遺構	内・外面：ナデ	口径：16.4cm 器高：(9.4) cm	壺部ほぼ完形 脚部20%	内面：5YR 6/6 橙 外面：7.5YR 7/6 橙	
図52-21	弥生土器	甕	東拡張区 下層遺構	内面：ナデ 外面：ナデ、ハケ	口径：14.0cm 器高：(12.6) cm	25%	内面：10YR 7/2 にぶい黄橙 外面：10YR 7/3 にぶい黄橙	
図52-22	弥生土器	壺	東拡張区 下層	内面：板ナデ、ユビオサエ、ナデ 外面：ミガキ、ハケ 外面口縁部：ミガキのちナデ	口径：12.6cm 器高：(6.0)	口縁80%	内面：10YR 7/3 にぶい橙 外面：10YR 7/3 にぶい橙	
図52-23	弥生土器	甕	東拡張区 下層	内面：板ナデ 外面：タタキ、底部：ナデ	器高：(2.5) cm 底径：4.0cm	底部完形	内面：7.5YR 3/1 オリーブ黒 外面：10YR 3/2 灰白	
図52-24	弥生土器	壺	東拡張区 下層	内面・底部：ナデ 外面：磨滅	器高：(2.6) cm 底径：5.2cm	底部完形	内面：7.5YR 7/4 にぶい橙 外面：10YR 5/1 褐灰	
図53-25	瓦	平瓦	SP-103	凹面：布目 凸面：縄目タタキ	最大長：27.8cm 厚さ：2.6cm~2.9cm	-	表：5Y 7/1 灰白 裏：5Y 6/1 灰	
図53-26	瓦	平瓦	SP-103	凹面：布目 凸面：縄目タタキ	最大長：15.7cm 厚さ：1.3cm~1.7cm	-	表：N 6/ 灰 裏：N 6/ 灰	
図53-27	瓦	平瓦	SP-103	凹面：布目 凸面：縄目タタキ	最大長：20.9cm 厚さ：1.6cm~2.0cm	-	表：10YR 8/2 灰白 裏：10YR 8/3 浅黄橙	
図53-28	瓦	平瓦	SP-216	凹面：布目 凸面：縄目タタキ	最大長：18.0cm 厚さ：2.3cm~2.8cm	-	表：10YR 6/4 にぶい黄褐 裏：7.5YR 6/4 にぶい橙	

図版番号	種別	器種	遺構	技法 他	法量	残存	色調	備考
図54-29	瓦	平瓦	SP-216	凹面：布目 凸面：縄目タタキ	最大長：18.1cm 厚さ：2.2cm～2.7cm	-	表：7.5YR 7/6 橙 裏：7.5YR 6/6 橙	
図54-30	瓦	平瓦	SP-216	凹面：布目 凸面：縄目タタキ	最大長：16.2cm 厚さ：1.8cm～2.2cm	-	表：7.5Y 3/1 オリーブ黒 裏：N 5/ 灰	
図54-31	瓦	平瓦	SP-217	凹面：布目 凸面：格子目タタキ	最大長：7.0cm 厚さ：1.1cm～1.4cm	-	表：7.5YR 5/1 褐灰 裏：7.5YR 6/1 褐灰	
図54-32	瓦	平瓦	SP-218	凹面：布目 凸面：格子目タタキ	最大長：6.7cm 厚さ：1.1cm～1.4cm	-	表：5 b B 5/1 青灰 裏：5 b B 5/1 青灰	
図54-33	瓦	丸瓦	SP-202	凹面：布目 凸面：磨減	最大長：13.1cm 厚さ：1.2cm～1.7cm	-	表：7.5Y 6/1 灰 裏：2.5Y 7/1 灰白	
図54-34	瓦	丸瓦	SP-103	凹面：布目 凸面：磨減	最大長：17.7cm 厚さ：1.9cm～2.4cm	-	表：5Y 8/1 灰白 裏：5Y 8/1 灰白	
図54-35	瓦	丸瓦	SP-103	凹面：布目 凸面：ハケ（ほとんど磨減）	最大長：15.2cm 厚さ：1.4cm～1.8cm	-	表：10YR 7/1 灰白 裏：5Y 7/1 灰白	
図55-36	瓦	丸瓦	SP-216	凹面：布目 凸面：磨減	最大長：18.3cm 厚さ：1.3cm～1.7cm	-	表：5Y 7/1 灰 裏：5Y 7/1 灰	
図55-37	瓦	丸瓦	SP-216	凹面：布目 凸面：ナデ（ほとんど磨減）	最大長：11.9cm 厚さ：1.5cm～2.1cm	-	表：2.5Y 6/1 黄灰 裏：2.5Y 6/1 黄灰	

圖 版



1 トレンチ① (西より)



1 トレンチ② (北より)



2 トレンチ① (西より)



2トレンチ② (南より)



3トレンチ① (西より)



3トレンチ② (南より)



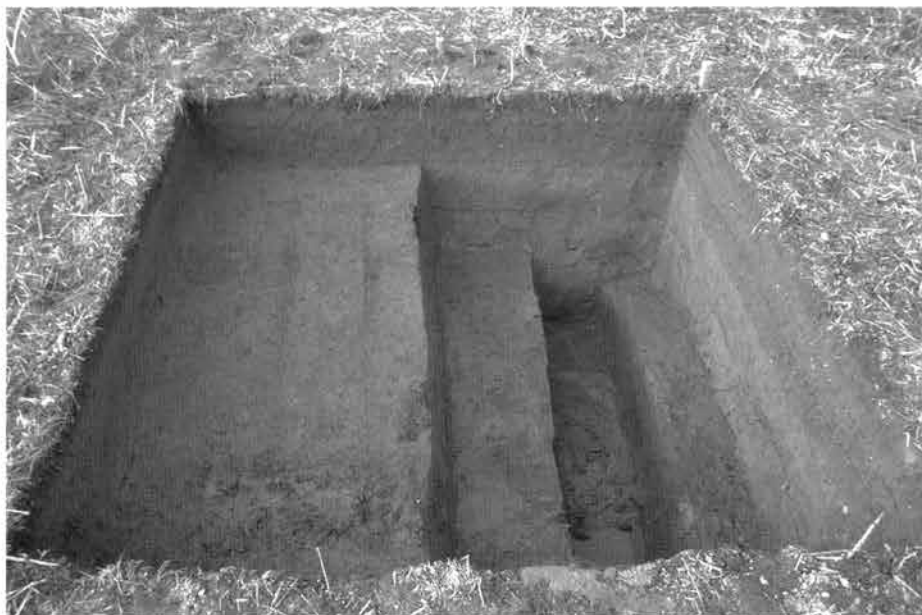
4トレンチ①(西より)



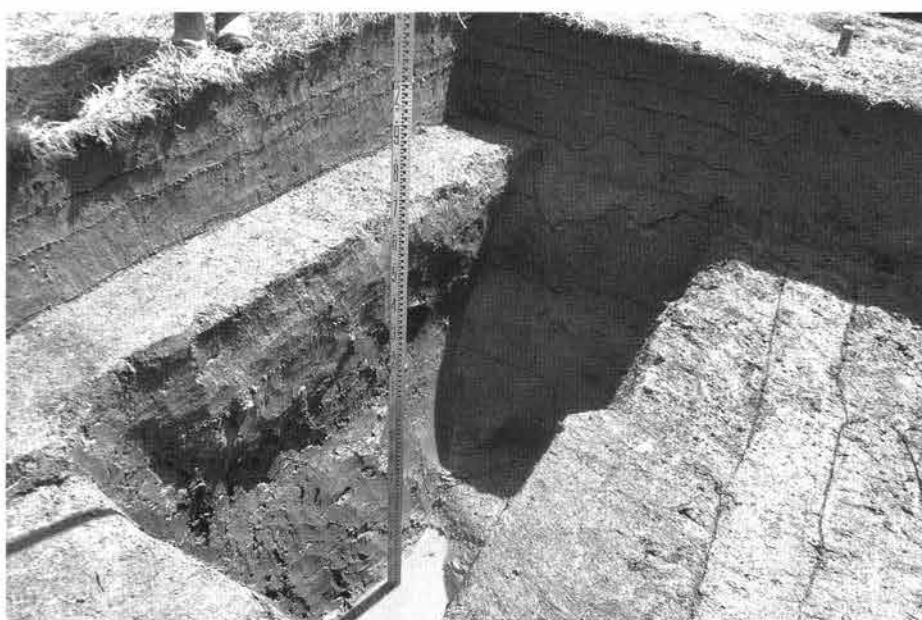
4トレンチ②(南より)



5トレンチ①(西より)



5 トレンチ② (南より)



6 トレンチ① (北西より)



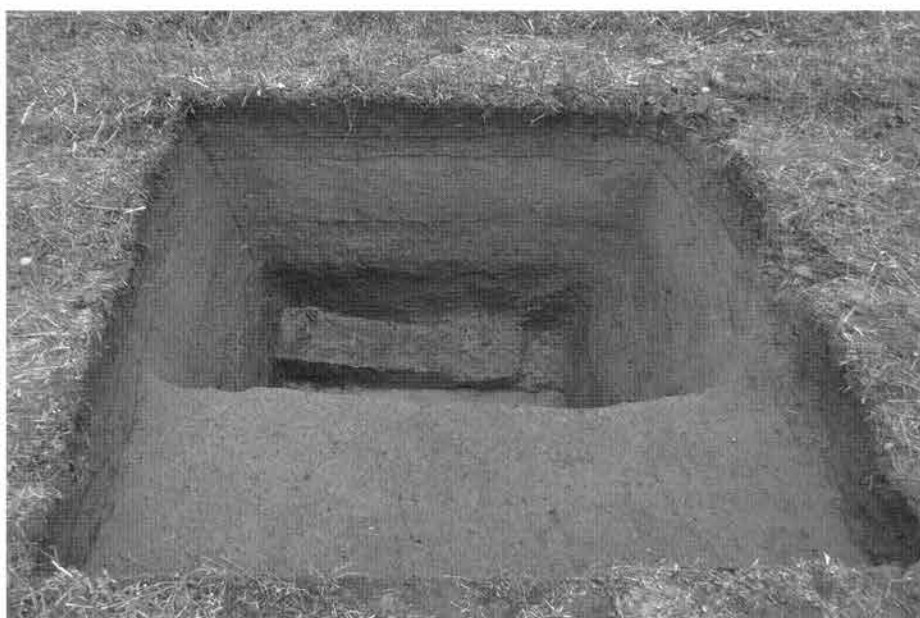
6 トレンチ② (南より)



7トレンチ① (南西より)



7トレンチ② (南より)



8トレンチ① (西より)



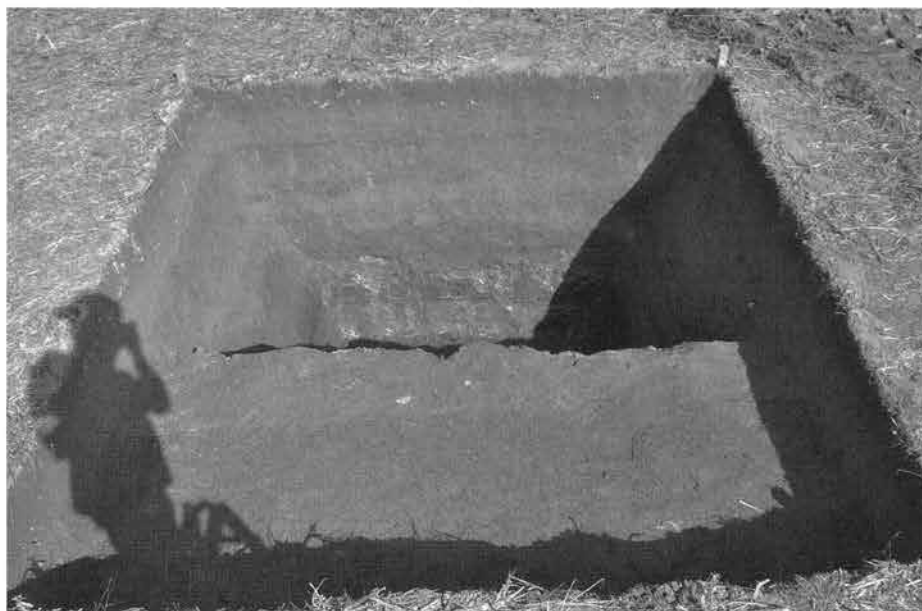
8 トレンチ② (南より)



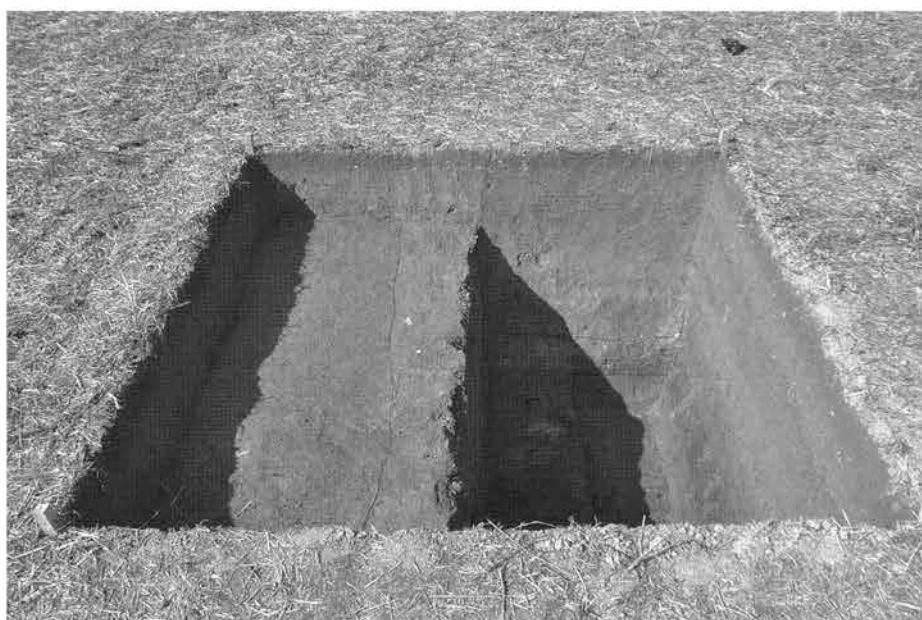
9 トレンチ① (西より)



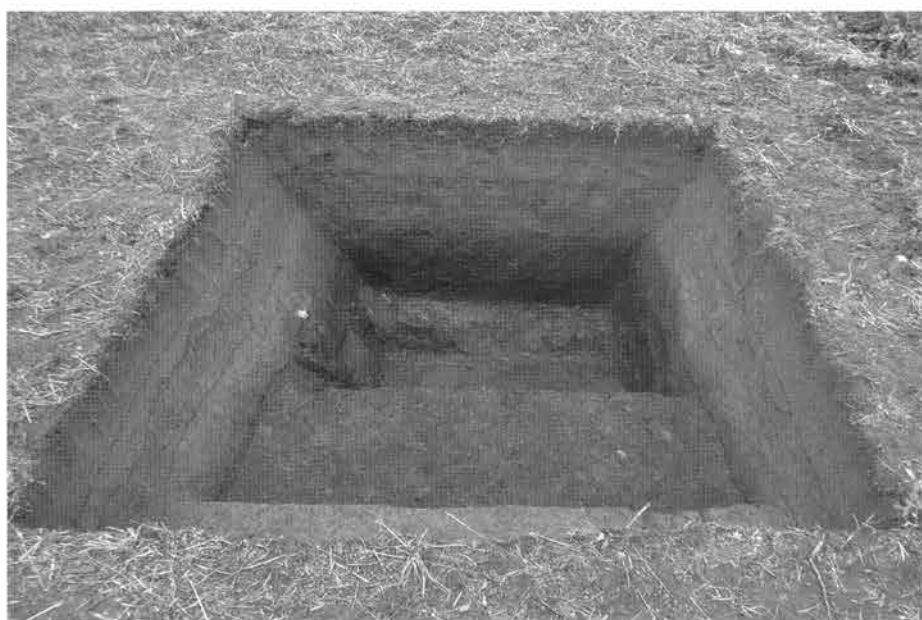
9 トレンチ② (南より)



10トレンチ① (西より)



10トレンチ② (南より)



11トレンチ① (西より)



11トレンチ② (南より)



12トレンチ① (西より)



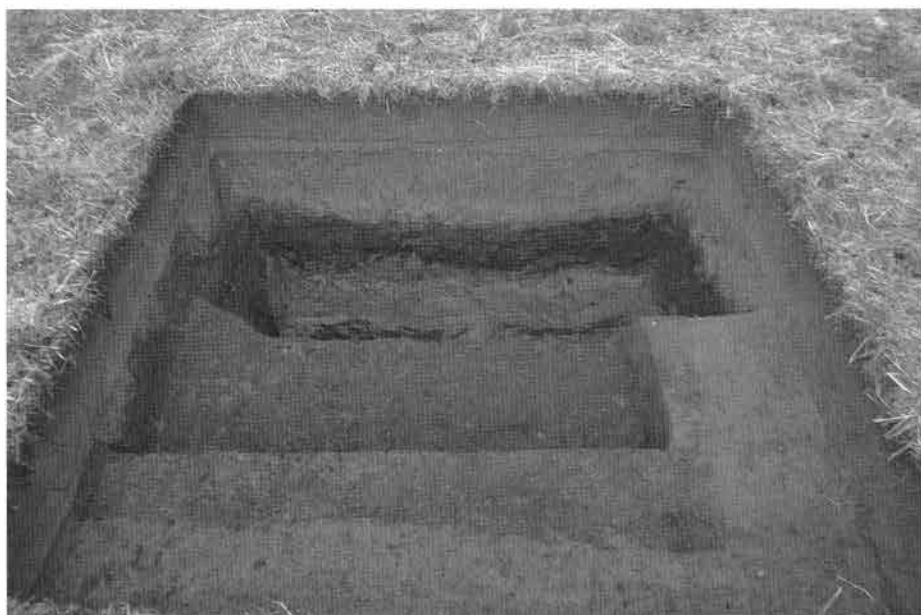
12トレンチ② (北より)



13トレンチ① (西より)



13トレンチ② (南より)



14トレンチ① (西より)



14トレンチ② (南より)



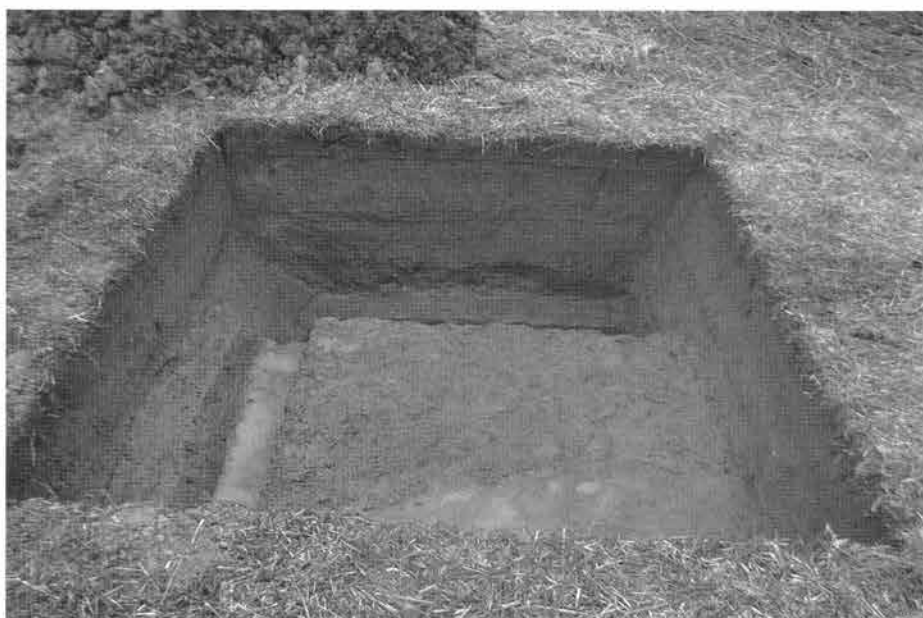
15トレンチ① (西より)



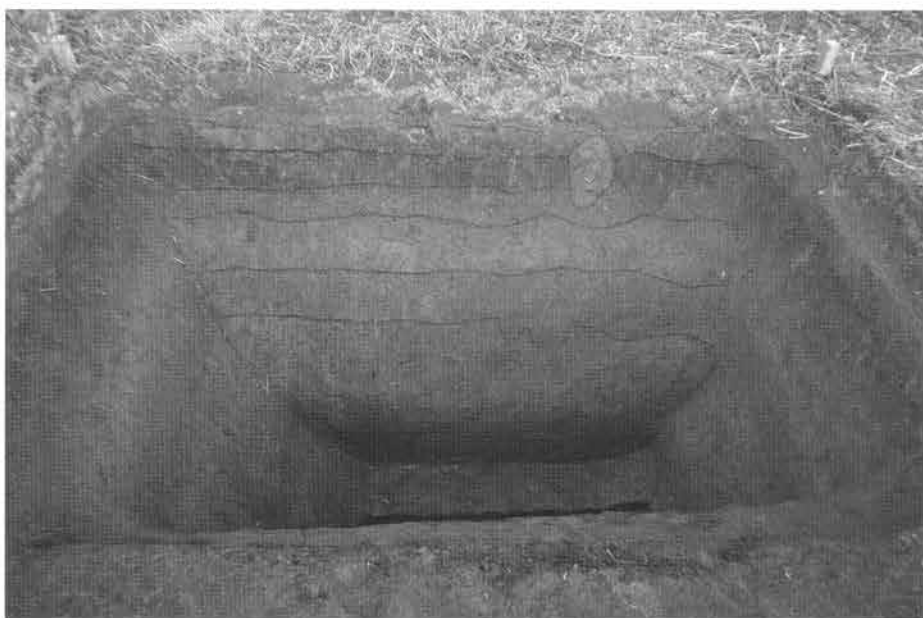
15トレンチ② (南より)



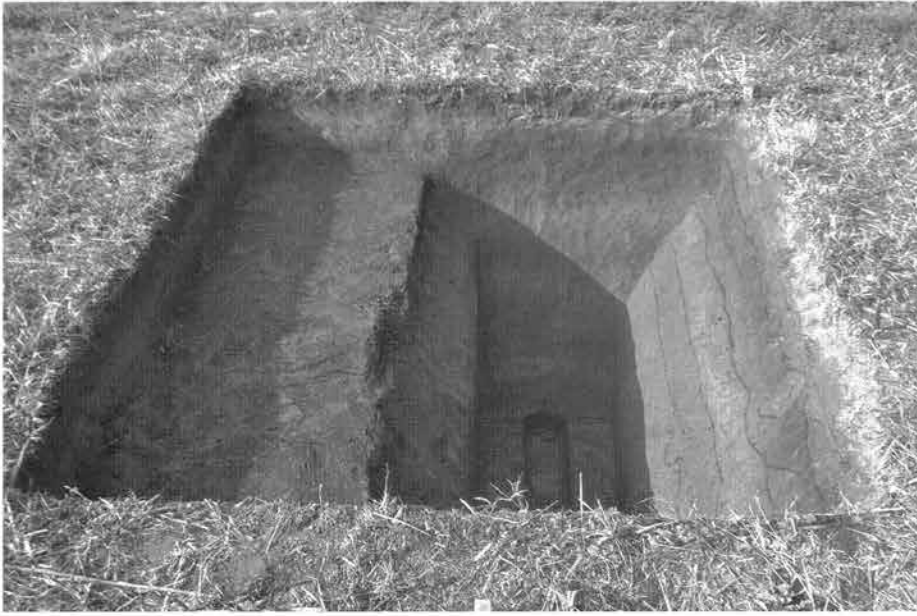
16トレンチ① (西より)



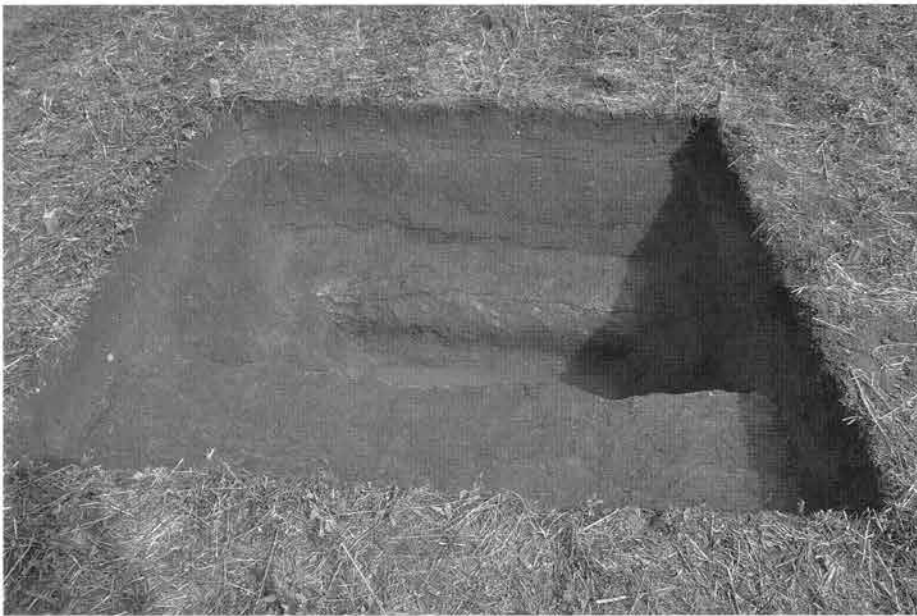
16トレンチ② (北より)



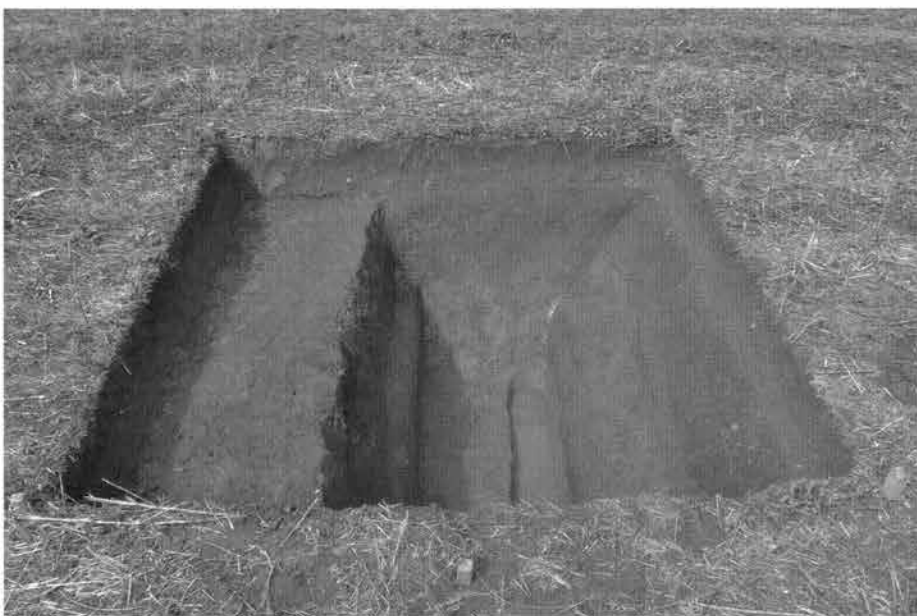
17トレンチ① (西より)



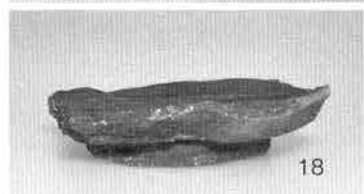
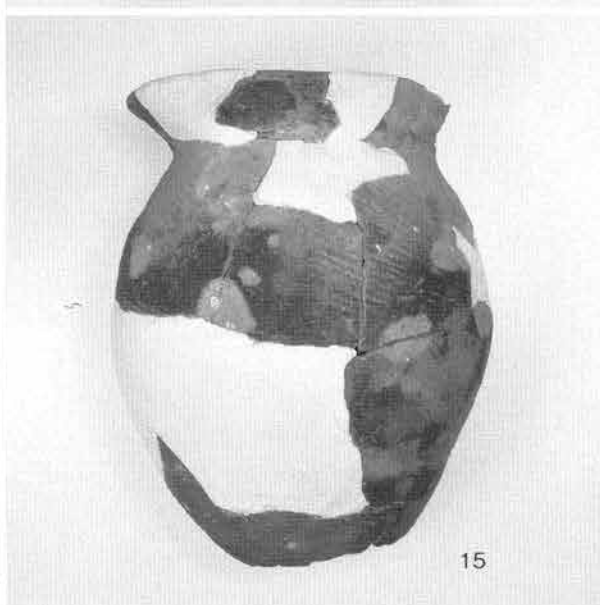
17トレンチ② (南より)



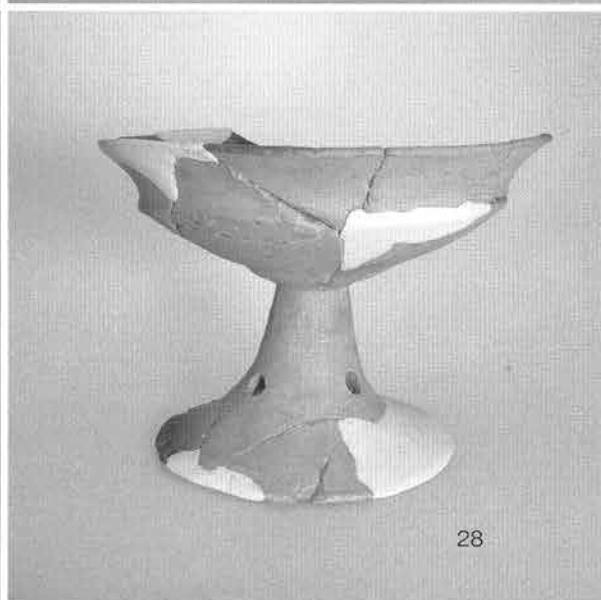
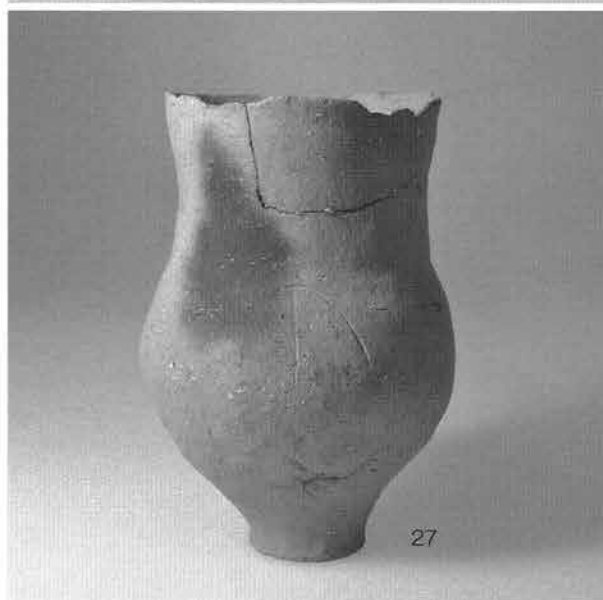
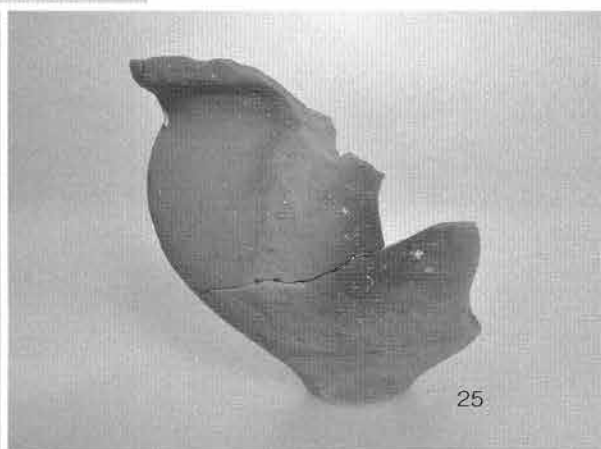
18トレンチ① (西より)

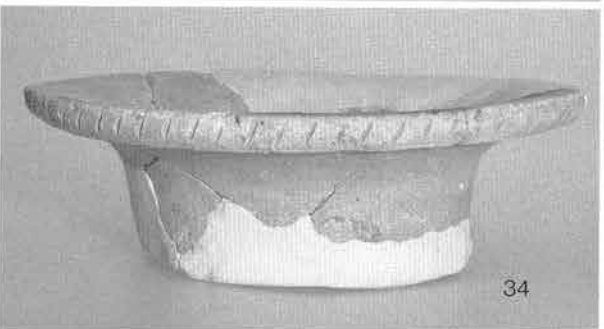
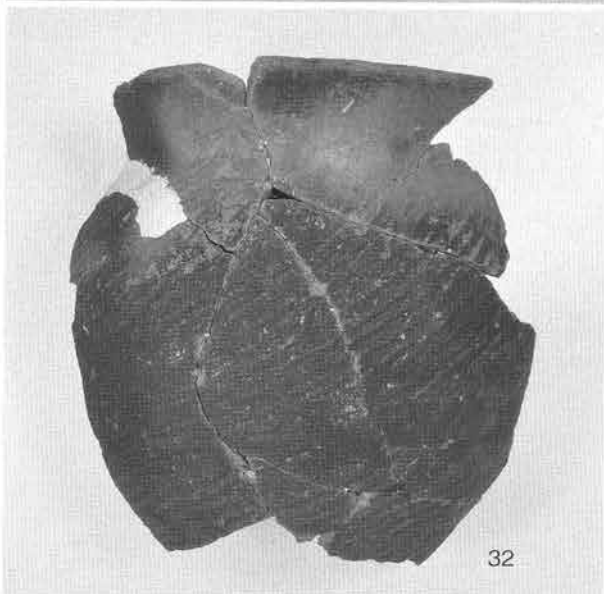


18トレンチ② (南より)

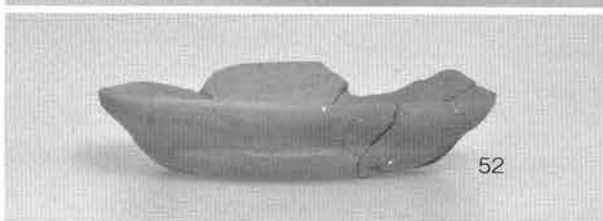
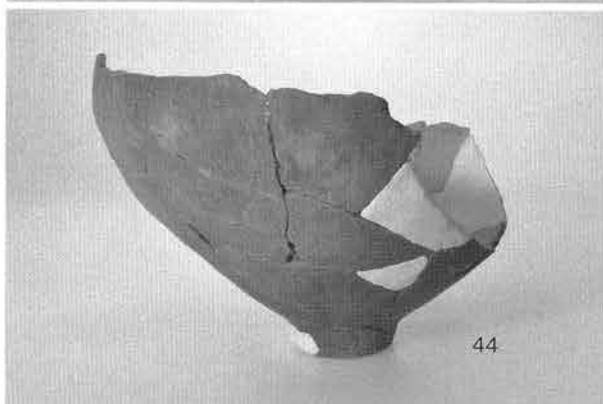
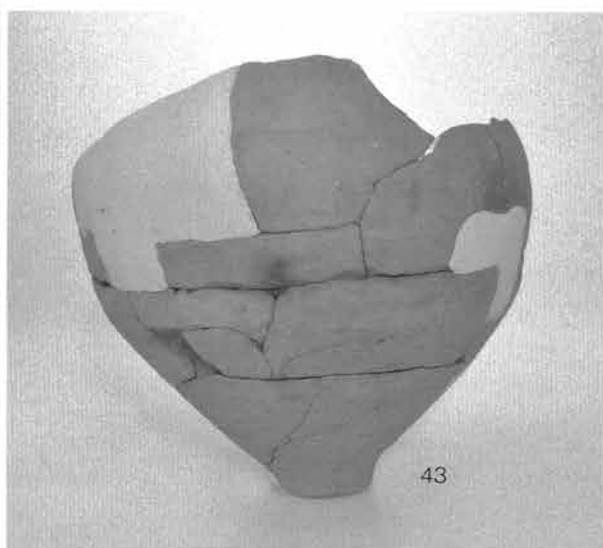


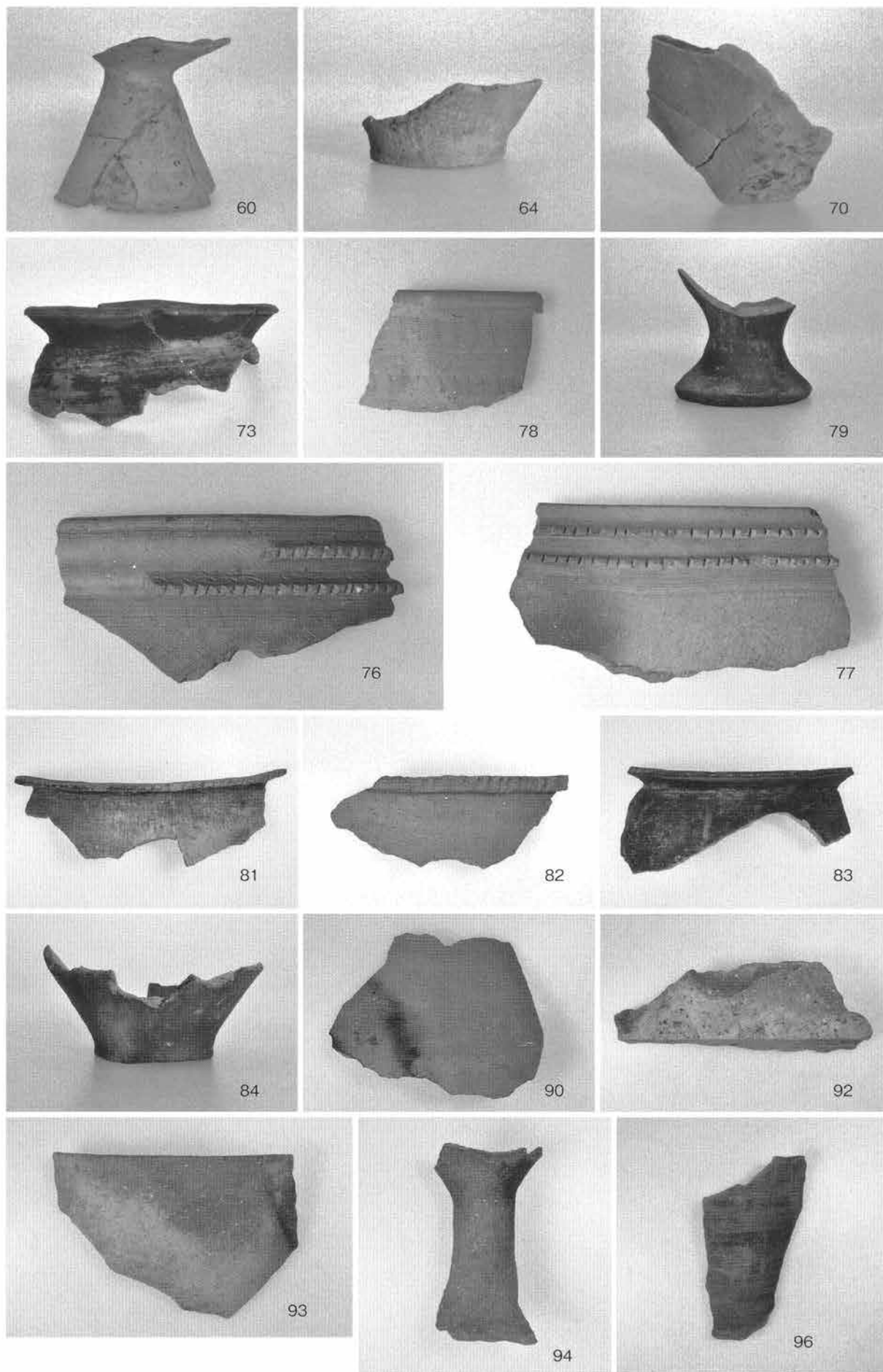
出土遺物①

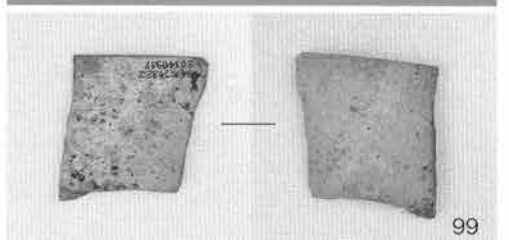
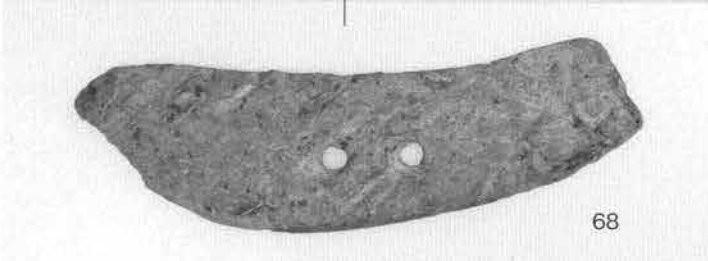
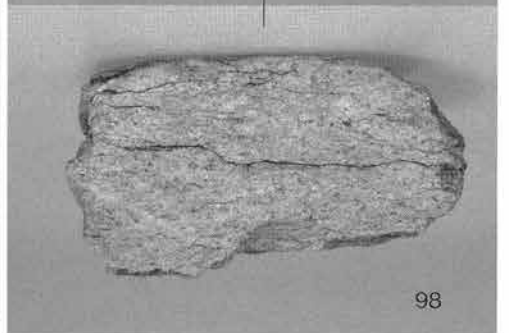
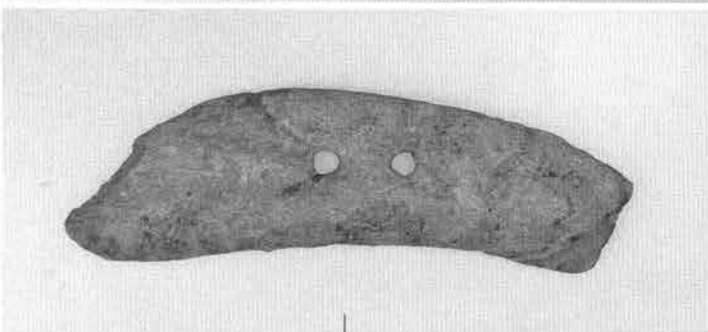
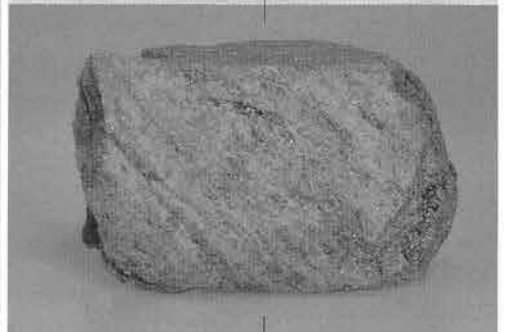
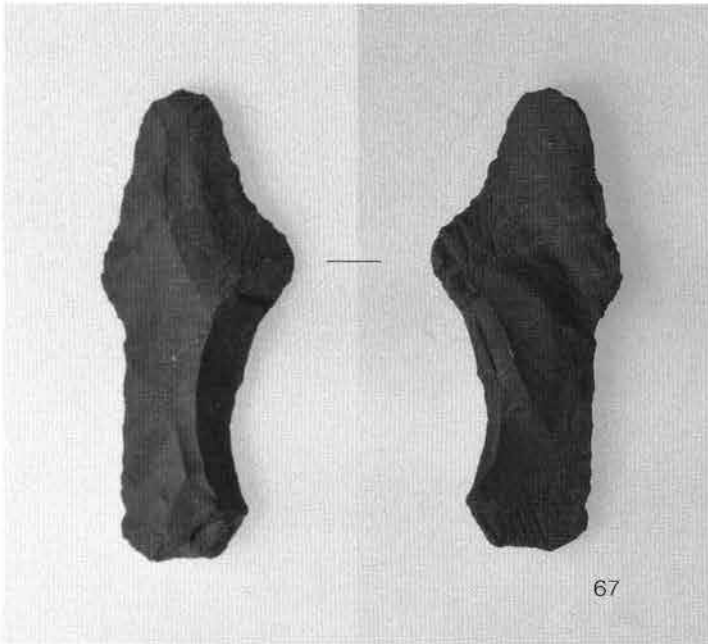
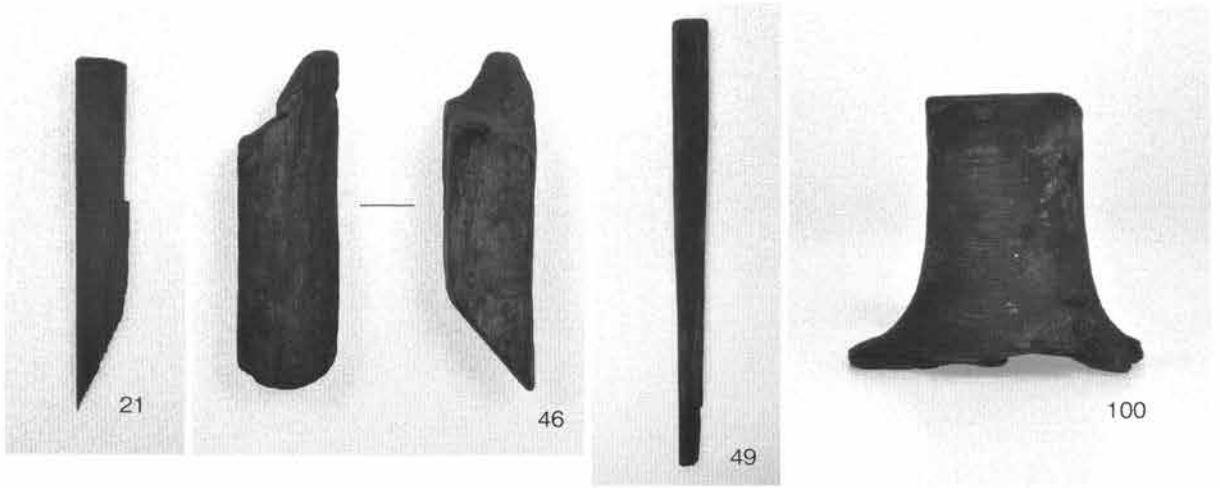


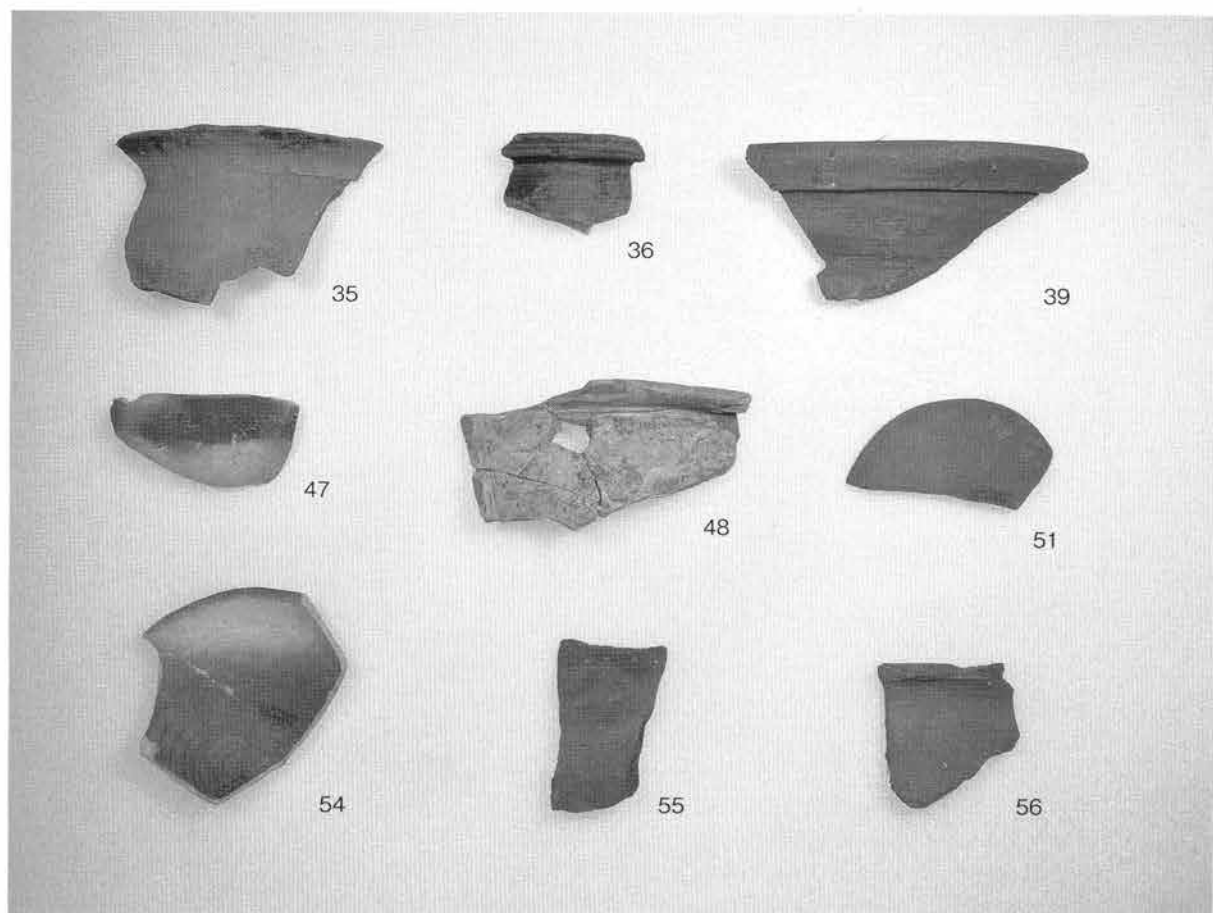
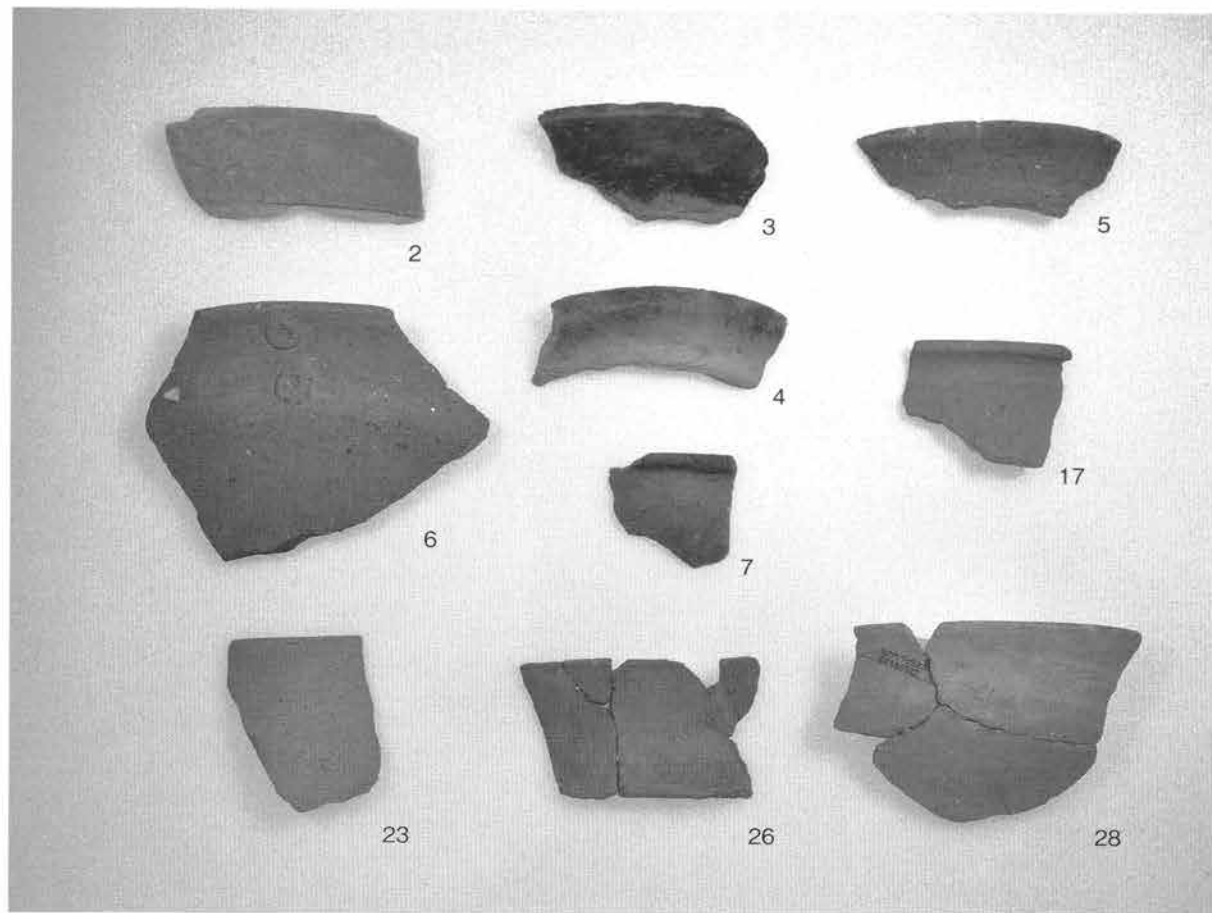


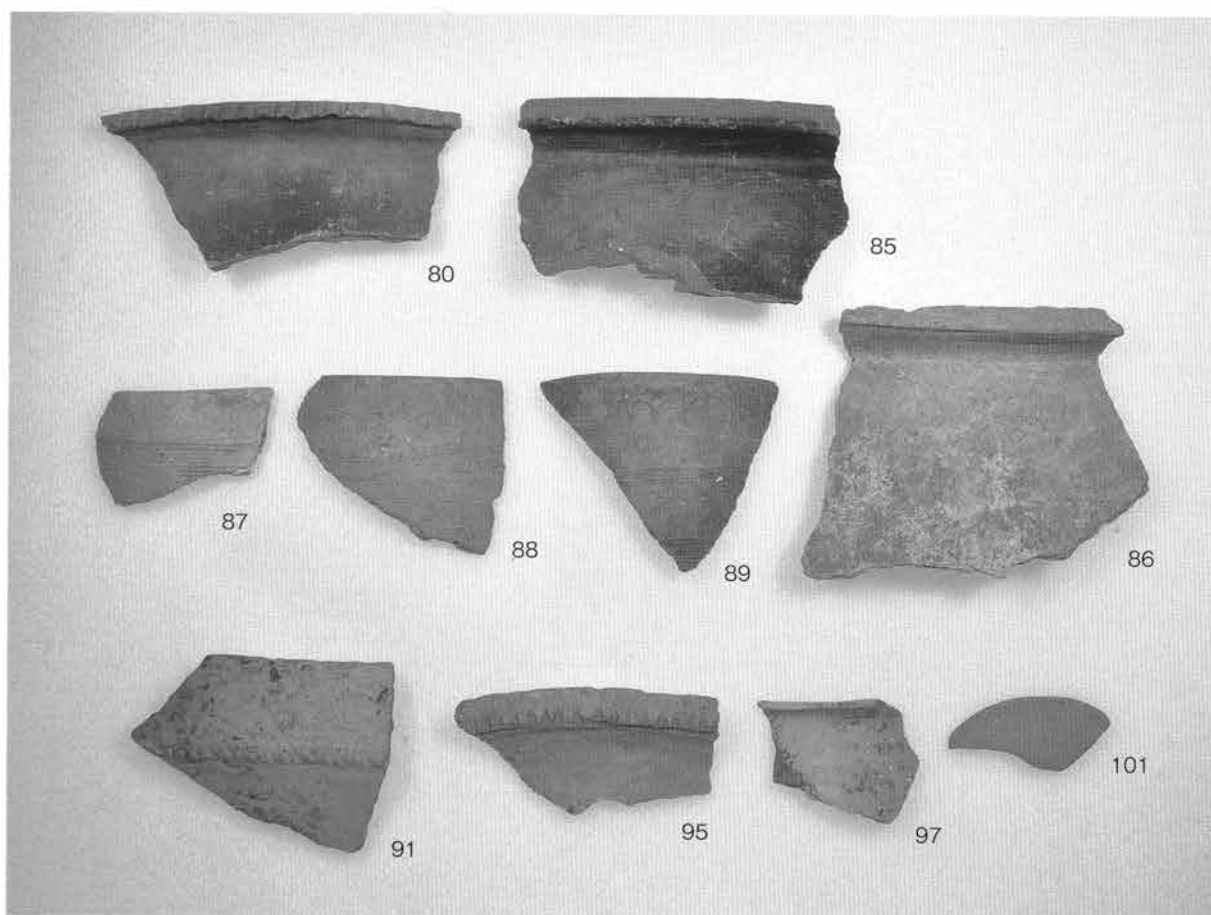
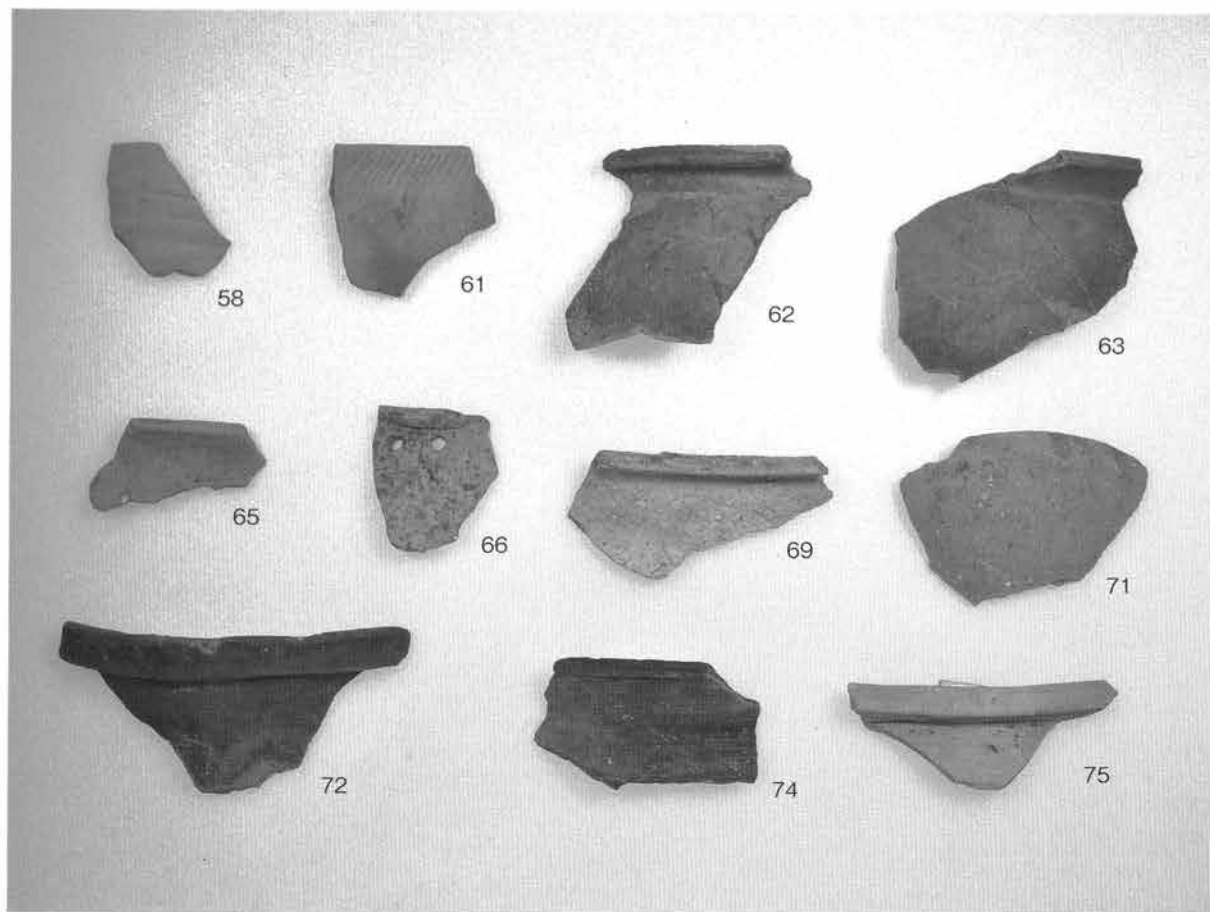
出土遺物③













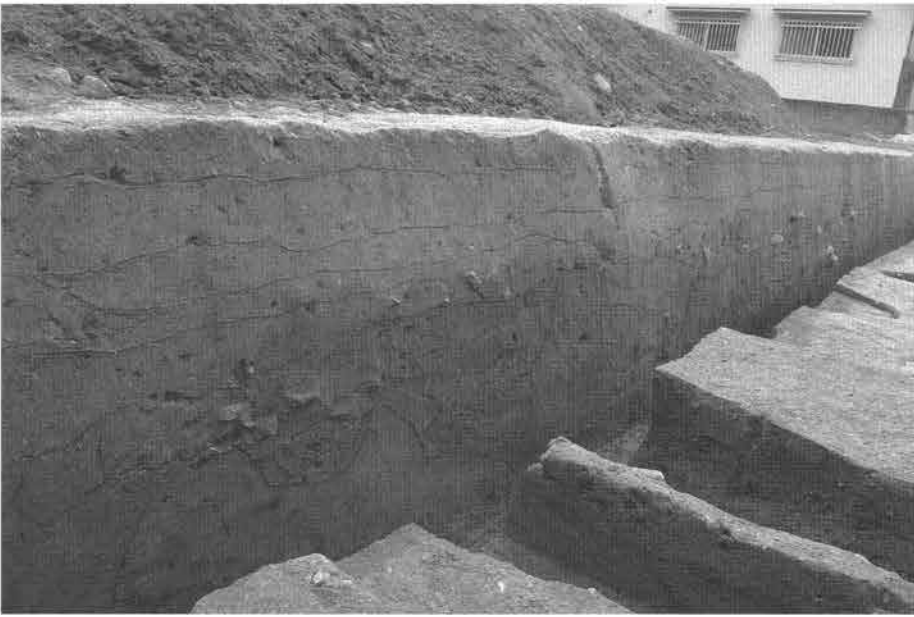
調査区全景（西より）



東拡張区全景（北より）



南壁断面（西より）



南壁断面（東より）



拡張区
東壁断面（南より）



石列検出状況(北より)



SP-103 上層(南より)



SP-103 下層(南より)



SP-204(南より)



SP-204 柱跡(東より)



SP-213 (南より)



SP-214 (南より)



SP-215 (南より)



SP-216 (南より)



SP-217 (南より)



SP-218 (南より)



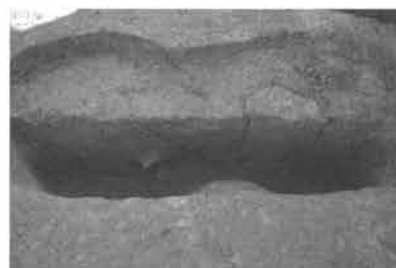
SP-202 (南より)



SP-101 (北西より)



SP-104 (西より)



SP-206、203 (西より)



SP-205 (西より)



SP-219 (東より)



SP-220 (南より)



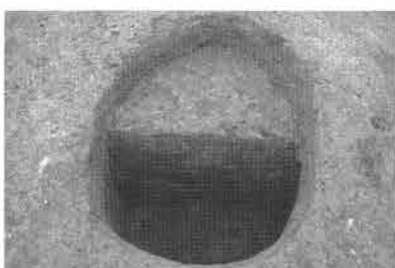
SP-227 (南より)



SP-229 (南より)



SP-230 (南より)



SP-234 (東より)



SP-236 (西より)



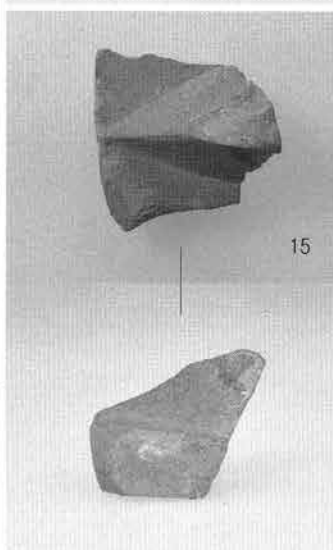
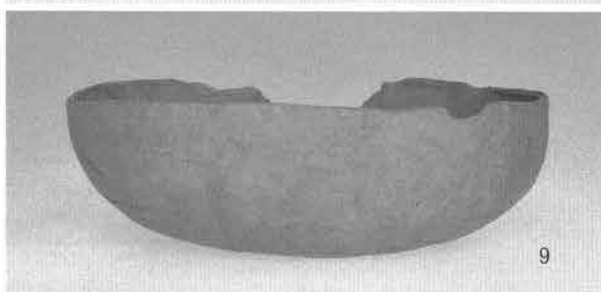
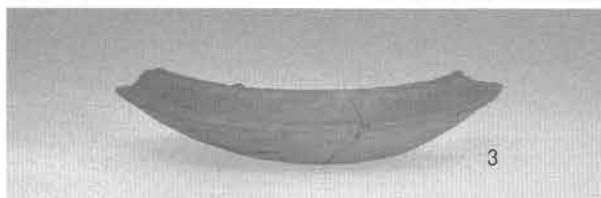
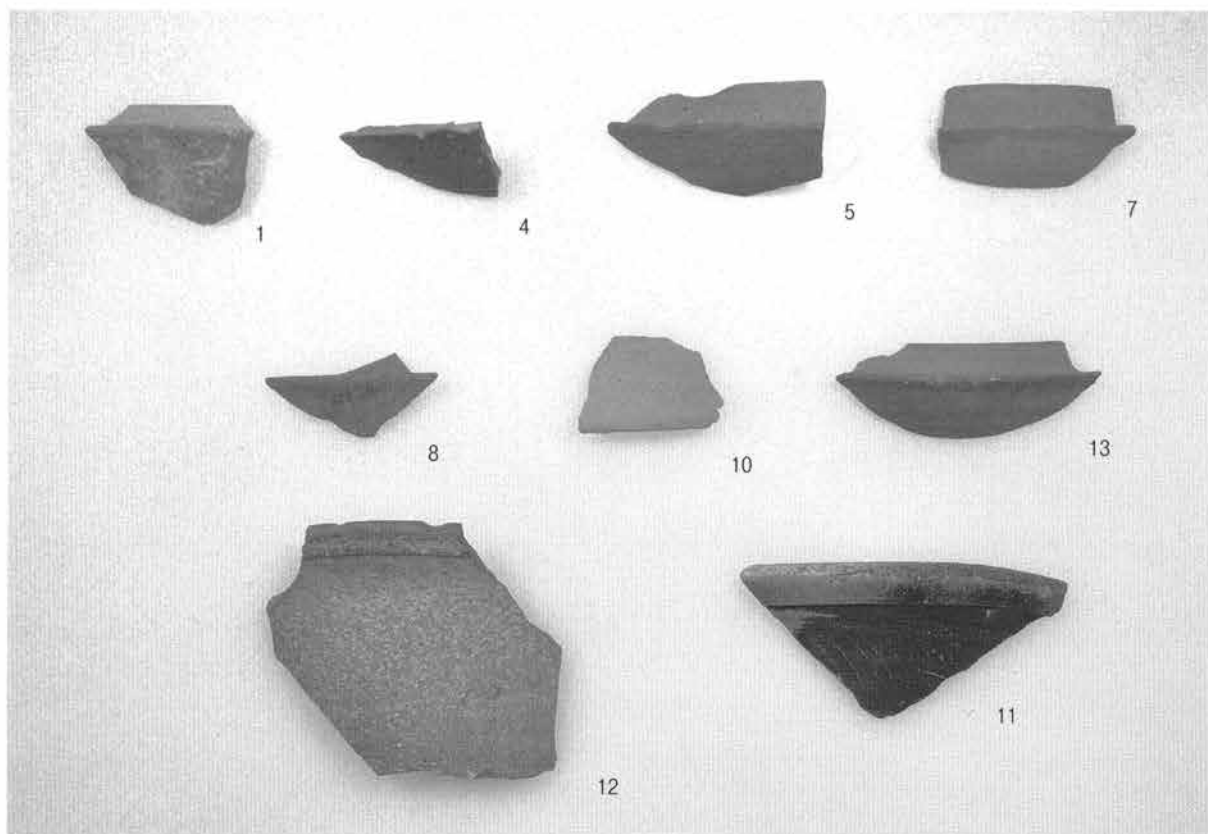
SP-237 (南より)

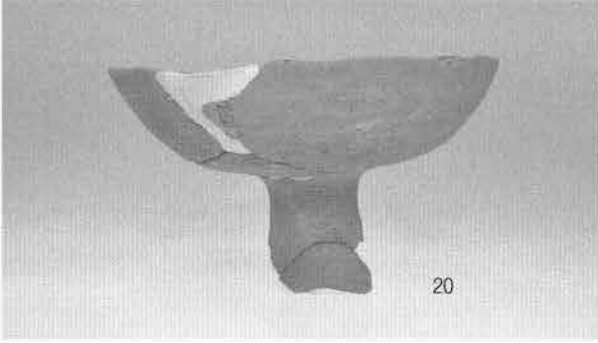
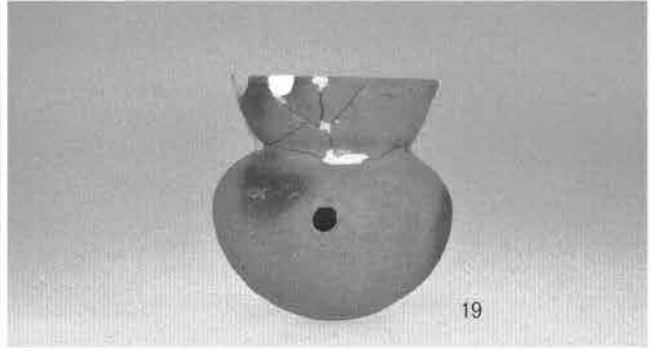
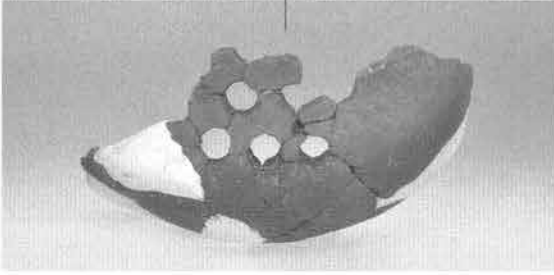
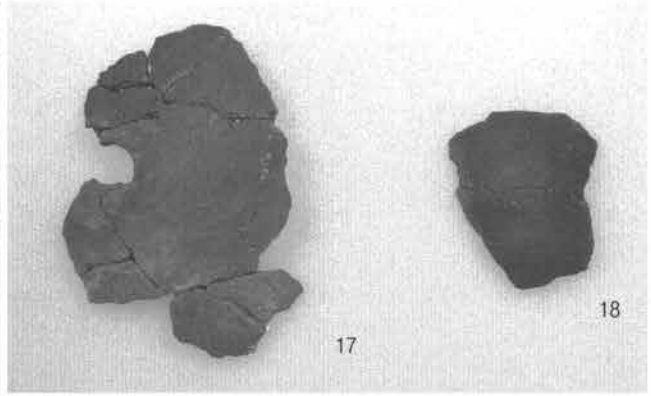
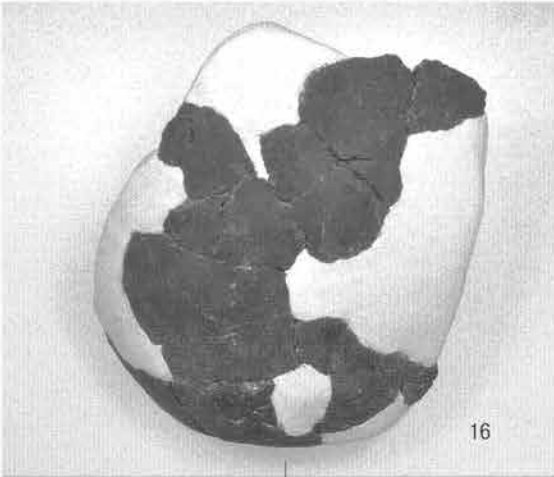


SD-106断面 (北より)

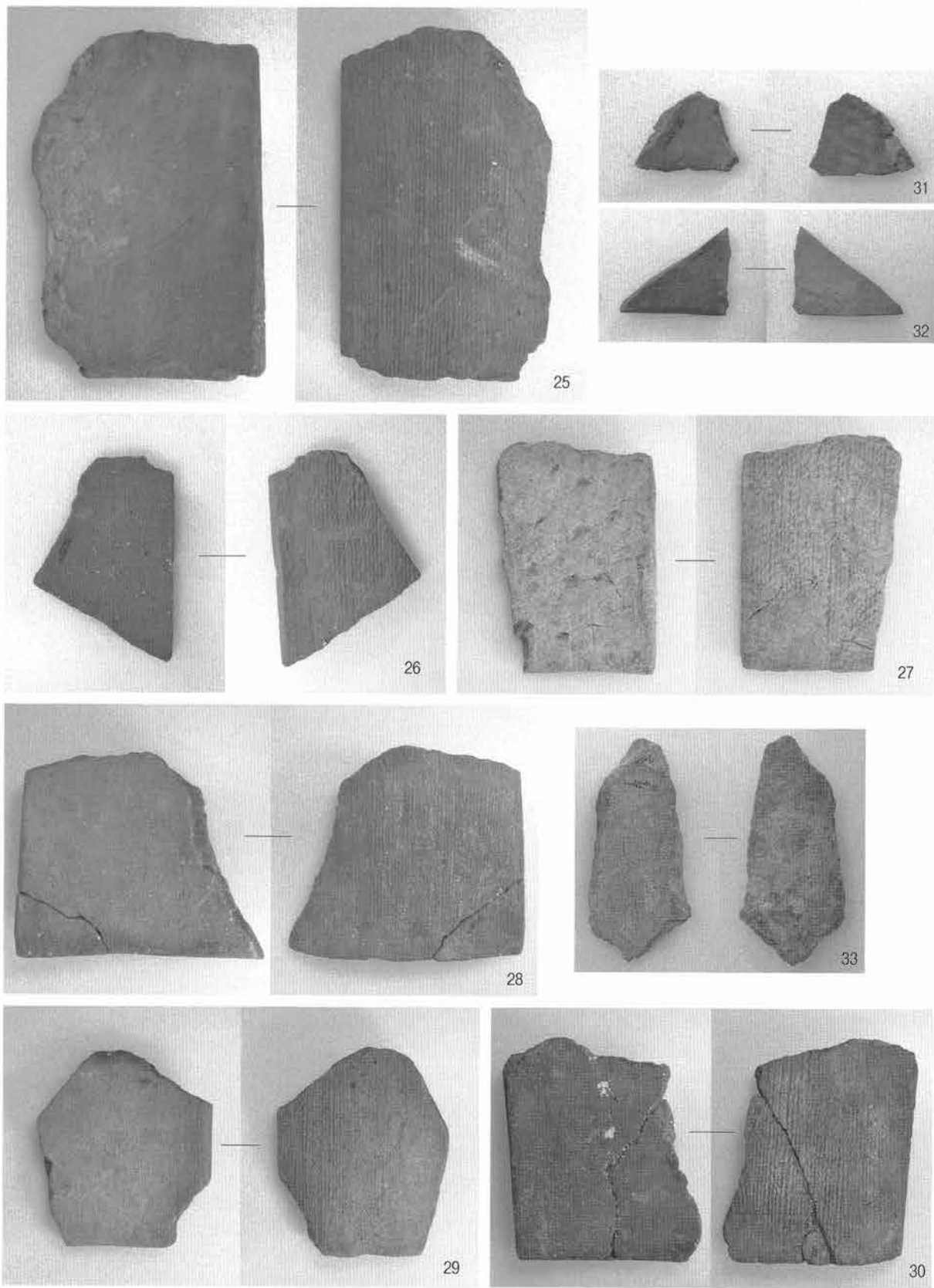


SD-110、112断面 (北より)

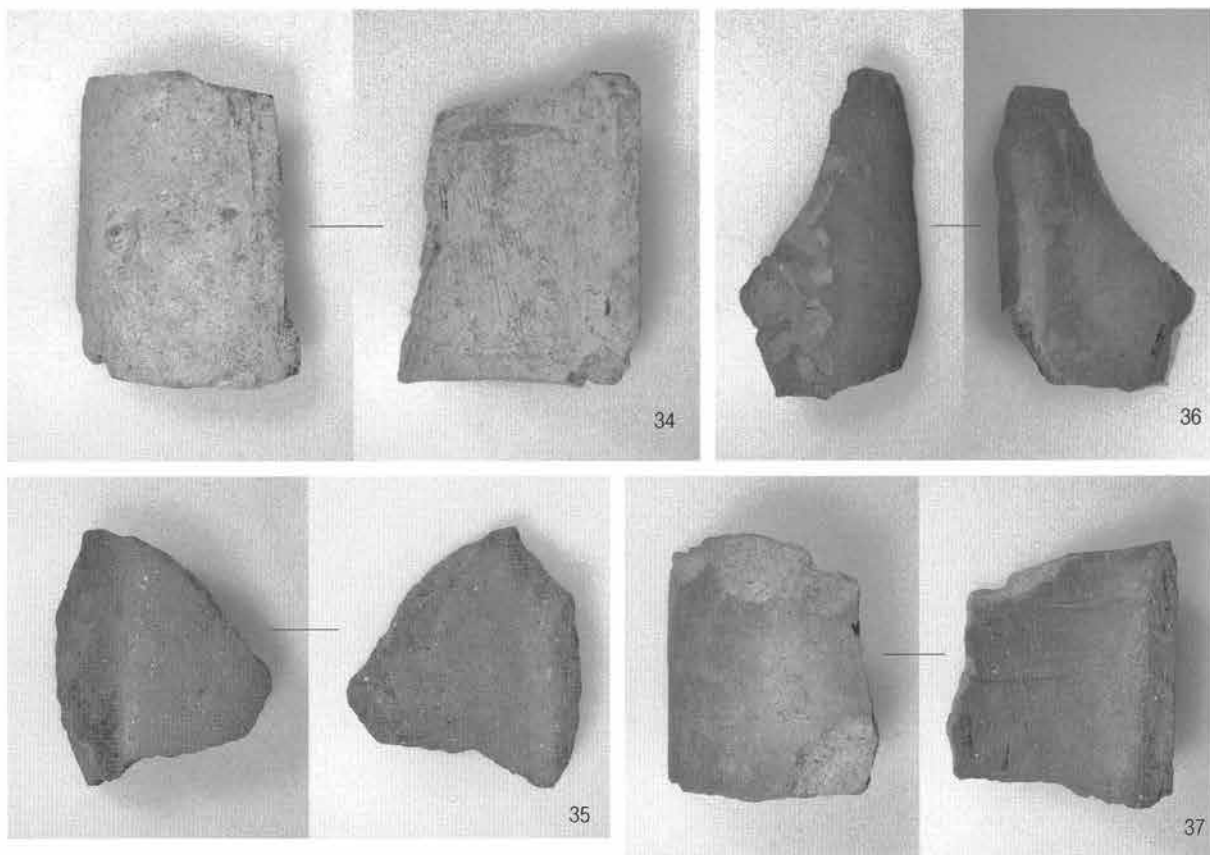




下層遺構出土遺物



調査区出土瓦①



調査区出土瓦②

報告書抄録

書名	桜井市 平成26年度国庫補助による発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	桜井市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第45集
編著者名	丹羽恵二、三沢朋未（編集）
編集機関	桜井市教育委員会文化財課
所在地	〒633-0074 奈良県桜井市大字芝58-2 TEL 0744-42-6005 FAX 0744-42-1366
発行年月日	2016年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大福遺跡 第32次	桜井市大字大福910-1 ほか	292061	14B-0202	34° 31' 12"	135° 49' 25"	20140911～ 20140929	162㎡	大型店舗建設に伴う試掘調査
安倍寺跡 第22次	桜井市安倍木材団地1丁目5-7	292061	14B-0028-A	34° 30' 09"	135° 50' 26"	20140918～ 20141017	72㎡	個人住宅建築に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な遺構	主な遺物	特記事項
大福遺跡第32次	集落跡		弥生土器	
安倍寺跡第22次	寺院跡	柱穴群、溝	瓦、土師器、須恵器	

桜井市埋蔵文化財発掘調査報告書 第45集

桜井市

平成26年度国庫補助による
発掘調査報告書

発行 桜井市教育委員会
文化財課

〒633-0074 奈良県桜井市大字芝58-2番地

TEL 0744-42-6005

FAX 0744-42-1366

年月日 平成28年3月31日

印刷 株式会社明新社

〒630-8141 奈良市南京終町3-464